

まえ の だ むら  
前 ノ 田 村 遺 跡

Maenodamura Site

国営尾鈴農業水利事業西光原調圧水槽工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010

宮崎県埋蔵文化財センター



調査区遠景



赤色顔料を塗布した縄文土器（遺物番号22（左）、23（右）の裏面）



調査区全景

# 序

宮崎県教育委員会では、平成20年度に国営尾鈴農業水利事業西光原調圧水槽工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施しました。本書はその発掘調査報告書です。

本書に掲載した前ノ田村遺跡は、尖頭器や細石刃をはじめとする後期旧石器時代の石器や、縄文時代早期の集石遺構や炉穴などの遺構、貝殻条痕文土器や無文土器、敲石などの遺物を確認しました。さらに弥生時代終末期頃の竪穴住居跡6軒と、櫛描き文様の二重口縁壺や甕、円形透かしをもつ高坏、方形石庖丁などを確認しました。これらは当該期の地域交流の様相を知る良好な資料を蓄積することができました。ここに報告する内容は、今後、当地域の歴史を解明する上で貴重な資料になるものと考えられます。

本書が学術資料となるだけでなく、学校教育や生涯学習の場などで活用され、また、埋蔵文化財保護に対する理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたってご協力いただいた関係諸機関・地元の方々に対して、厚くお礼申し上げます。

平成22年 2月

宮崎県埋蔵文化財センター  
所長 福永 展幸

## 例　言

- 1 本書は平成20年度国営尾鈴農業水利事業西光原調圧水槽工事に伴い、宮崎県教育委員会が実施した宮崎県児湯郡川南町大字川南字西国光所在の前ノ田村遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所の依頼を受け、宮崎県教育委員会が主体となり、宮崎県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 発掘調査は平成20年7月29日から平成20年10月16日まで行った。
- 4 現地での実測・写真撮影などの記録は、黒木俊彦、松田博幸が発掘作業員の協力を得て作成した。なお、空中写真撮影は有限会社スカイサーベイ九州、基準杭設置は有限会社進藤測量設計事務所に委託した。
- 5 整理作業は宮崎県埋蔵文化財センターで行った。図面作成・実測・トレースは黒木が整理作業員の協力を得て行った。なお、石器の石材同定については当センター調査第一課調査第一担当藤木聰主任主事の協力を得た。
- 6 本書で使用した第1図「遺跡位置図」は国土地理院発行の2万5千分の1図、第2図「周辺地形図」は国土地理院の承認助言を得て川南町役場が作成した1万分の1図を使用した。
- 7 本書で使用した土層断面図及び遺物の色調等は農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版標準土色帖」による。
- 8 本書で使用した方位は座標北（座標第II系）で、レベルの表示は海拔絶対高である。
- 9 本書で使用した遺構の略号は次の通りである。  
S A ……竪穴住居跡　　S C ……土坑　　S I ……集石遺構　　S P ……炉穴
- 10 本書の執筆は第1章第1節を文化財課日高広人が、その他の執筆・編集を黒木俊彦が行った。
- 11 出土遺物・その他の諸記録は、宮崎県埋蔵文化財センターに保管している。

## 本文目次

第I章 はじめに	
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第II章 調査の概要	
第1節 遺跡の位置と環境	2
第2節 調査の経過	5
第3節 基本層序	7
第III章 調査の記録	
第1節 旧石器時代の調査	7～8
第2節 縄文時代の調査	9～17
第3節 弥生時代の調査	18～50
第IV章 自然科学分析	
第1節 放射性炭素年代測定	63～64
第2節 蛍光X線分析	65～66
第V章 まとめ	67～69

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図 (S=1/50,000)	3
第2図 周辺地形図 (S=1/5,000)	4
第3図 グリッド配置図 (S=1/400)	5
第4図 遺構分布図 (S=1/250)	6
第5図 基本層序	7
第6図 旧石器時代石器実測図 S=2/3 (1～4) S=1/1 (5～7)	8
第7図 1号集石遺構 (左) 2号集石遺構実測図 S=1/20	9
第8図 1号炉穴実測図 S=1/40 1号炉穴出土遺物実測図 S=1/3	10
第9図 縄文時代土器実測図① S=1/3	12
第10図 縄文時代土器実測図② S=1/3	14
第11図 縄文時代土器実測図③ S=1/3	15
第12図 縄文時代石器実測図① S=2/3	16
第13図 縄文時代石器実測図② S=2/3	17
第14図 1号竪穴住居跡実測図 S=1/40	18
第15図 1号竪穴住居跡出土遺物実測図① S=1/3	19
第16図 1号竪穴住居跡出土遺物実測図② S=1/3 (76～81) S=2/3 (82)	20
第17図 2号竪穴住居跡実測図 S=1/40	21
第18図 2号竪穴住居跡出土遺物実測図 S=1/3 (83～100) S=2/3 (101)	22

第19図	3号竪穴住居跡実測図 S=1/40 出土遺物実測図 S=1/3 (102 103)	
	S=2/3 (104) . . . . .	24
第20図	4号竪穴住居跡実測図 S=1/40 . . . . .	25
第21図	4号竪穴住居跡出土遺物実測図① S=1/3 . . . . .	27
第22図	4号竪穴住居跡出土遺物実測図② S=1/3 . . . . .	29
第23図	4号竪穴住居跡出土遺物実測図③ S=1/3 . . . . .	31
第24図	4号竪穴住居跡出土遺物実測図④ S=1/3 . . . . .	32
第25図	4号竪穴住居跡出土遺物実測図⑤ S=1/3 (159~168) S=2/3 (169 172) . . . . .	33
第26図	4号竪穴住居跡出土遺物実測図⑥ S=2/3 (170~174) S=1/2 (175) . . . . .	34
第27図	5号竪穴住居跡実測図 S=1/40 . . . . .	35
第28図	5号竪穴住居跡出土遺物実測図① S=1/3 . . . . .	38
第29図	5号竪穴住居跡出土遺物実測図② S=1/3 . . . . .	39
第30図	5号竪穴住居跡出土遺物実測図③ S=1/3 (224 225) S=1/2 (226) . . . . .	40
第31図	6号竪穴住居跡実測図 S=1/40 . . . . .	41
第32図	6号竪穴住居跡出土遺物実測図① S=1/3 . . . . .	43
第33図	6号竪穴住居跡出土遺物実測図② 2号土坑出土遺物実測図 S=1/3 . . . . .	44
第34図	1号土坑実測図 S=1/40 . . . . .	45
第35図	2号土坑実測図 S=1/40 . . . . .	46
第36図	3号土坑実測図 S=1/20 . . . . .	46
第37図	第II層出土遺物① S=1/3 . . . . .	49
第38図	第II層出土遺物② S=1/3 (285~293) S=1/2 (294) . . . . .	50

## 表目次

第1表	土器観察表① . . . . .	51
第2表	土器観察表② . . . . .	52
第3表	土器観察表③ . . . . .	53
第4表	土器観察表④ . . . . .	54
第5表	土器観察表⑤ . . . . .	55
第6表	土器観察表⑥ . . . . .	56
第7表	土器観察表⑦ . . . . .	57
第8表	土器観察表⑧ . . . . .	58
第9表	土器観察表⑨ . . . . .	59
第10表	土器観察表⑩ . . . . .	60
第11表	土器観察表⑪ . . . . .	61
第12表	石器観察表 . . . . .	62

## 図版

卷頭1	調査区遠景	卷頭1
卷頭2	赤色顔料を塗布した縄文土器（遺物番号22（左）、23（右）の裏面）調査区全景	卷頭2
図版3	土器内面付着の赤色顔料 赤色顔料の顯微鏡写真	66
図版4	1号炉穴（南西より） 1号集石遺構（東より） 2号集石遺構半裁（南より）	71
図版5	1号竪穴住居跡（南より） 2号竪穴住居跡（南より） 3号竪穴住居跡（北東より）	72
図版6	4号竪穴住居跡（北より） 5号竪穴住居跡（北より） 6号竪穴住居跡（東より）	73
図版7	1号土坑（南より） 2号土坑（南東より）	74
図版8	旧石器時代石器 縄文時代土器① ② ③ 縄文時代石器	75
図版9	S A 1出土遺物①	76
図版10	S A 1出土遺物② S A 2出土遺物① ② ③ S A 3出土遺物	77
図版11	S A 4出土遺物①	78
図版12	S A 4出土遺物②	79
図版13	S A 4出土遺物③	80
図版14	S A 4出土遺物④	81
図版15	S A 4出土遺物⑤ S A 5出土遺物① S A 5出土遺物②	82
図版16	S A 5出土遺物③ S A 5出土遺物④ S A 6出土遺物① S A 6出土遺物②	83
図版17	S A 6出土遺物③ S A 6 S C 2出土遺物 第II層出土遺物① ②	84
図版18	第II層出土遺物③	85



# 第Ⅰ章 はじめに

## 第1節 調査に至る経緯

農林水産省九州農政局尾鈴農業水利事業所では、川南町尾鈴地区の農業生産性の向上と農業経営の安定を目的とし、烟台地への水源確保のために、切原ダムの新設及び既存の青鹿ダムとの計画的な利用と併せて、県営畑地帯総合整備事業による末端灌漑施設の整備を行う「国営尾鈴土地改良事業」を平成8年から展開している。

県文化財課では、この事業計画を受けて計画予定地内に所在する埋蔵文化財の取り扱いについて、平成7年度より同事業所と協議を開始し、これまでに平成11年度の銀座第2ファームボンド建設工事に伴う藏座村遺跡をはじめ、平成18年度には銀座第1ファームボンド建設工事に伴う明野遺跡、平成19年度の大内ファームボンド建設工事に伴う住吉B遺跡及び赤石・鶴戸ノ本調整水槽建設工事に伴う赤石遺跡の発掘調査を実施している。

そうしたなかで、同事業所より照会を受けた平成20年度事業のうち、西光原調圧水槽及びバイブライン建設予定地（同町大字川南字西国光）については、前ノ田村遺跡の隣接地にあたり、地形的にも遺跡が立地する可能性が高いことから、平成20年4月23日から25日にかけて同課による試掘調査を実施した。

試掘調査の結果、縄文時代早期及び弥生時代の遺構・遺物などを確認したことから同遺跡の範囲を拡大し、引き続き、遺跡の取り扱いについて、両者間で工事計画変更等の埋蔵文化財保護の方策についての協議を重ねたが、工事予定地の全区域において現状保存は困難であるという結論に至り、発掘調査による記録保存の措置をとることになった。

同年7月1日付で「埋蔵文化財発掘調査負担契約書」を締結し、県埋蔵文化財センターが発掘調査を同年7月29日から10月16日まで実施した。

## 第2節 調査の組織

前ノ田村遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成は下記の組織で実施した。

調査主体 宮崎県教育委員会

平成20年度 発掘調査・整理作業

平成21年度 整理作業

調査機関 宮崎県埋蔵文化財センター

所長 福永 展幸

副所長 長友 英詞

総務課総務担当主幹 高山 正信

調査第二課長 石川 悅雄

調査第四担当主幹 近藤 協

調査第四担当主査（調査担当）黒木 俊彦（報告書担当）

調査第三担当主査（調査担当）松田 博幸

文化財課埋蔵文化財担当主査 日高 広人

## 第Ⅱ章 調査の概要

### 第1節 遺跡の位置と環境

前ノ田村遺跡は宮崎県児湯郡川南町大字川南字西国光25406に所在する。遺跡の位置する川南町は、日向灘に面した宮崎県の中部に位置し、上面木山（1,040m）から派生する山地及び丘陵地とその東麓から海岸にかけて広がる段丘面からなる。段丘面は、一連の平坦面ではなく、青鹿面・茶白原面・国光原面・唐瀬原面・川南原面などの計14面から構成される。本遺跡は、川南町市街地から南西へ約4km、町中央部を東流する綿内川(平田川支流)の南側に形成されている標高約100mの丘陵地に位置する。丘陵の北側及び西側は急崖を呈し、東側は緩やかに傾斜しながら国光原台地へと続いている。

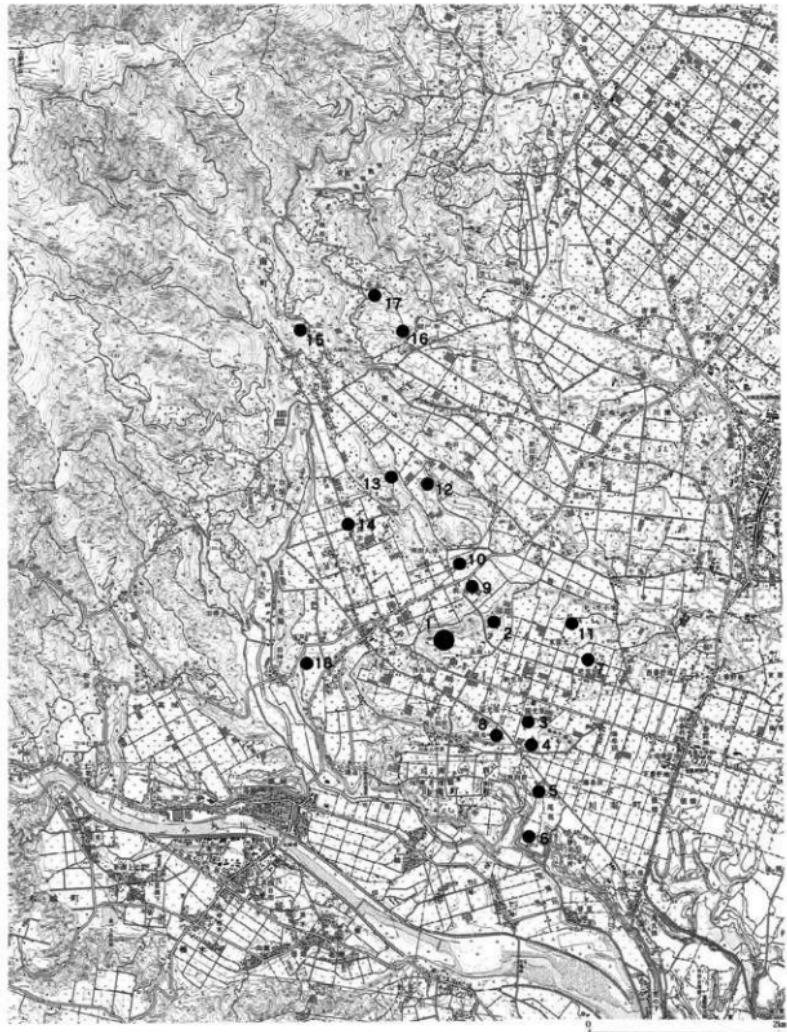
旧石器時代の遺跡は、分布調査や個人踏査、東九州自動車道建設に伴う発掘調査等により、多数確認されてきている。本遺跡の周辺では、剥片尖頭器やナイフ形石器、細石刃等を確認した前ノ田村上第2遺跡、台形石器、彫器等を確認した前ノ田村上第1遺跡や姶良・丹沢火山灰屑下の調査により台形石器や石斧、搔器等を確認した国光原遺跡などがある。このほかにも縄群等の遺構を伴う遺跡として、中ノ迫第1遺跡(縄群44基)、中ノ迫第3遺跡(縄群7基)などがあげられる。

縄文時代の遺跡調査例も、川南町教育委員会の分布調査や東九州自動車道建設に伴う発掘調査等により多数の遺跡が確認されている。本遺跡周辺では、国光原遺跡(集石遺構63基、炉穴41基等)、前ノ田村上第2遺跡(集石遺構5基、炉穴1基等)をはじめ、湯牟田遺跡(集石遺構23基等)や中ノ迫第3遺跡(集石遺構32基、炉穴21基等)など早期の遺構を伴う遺跡が確認されている。また、やや北方に離れるが、草創期の隆帶土器が出土し、後・晩期の竪穴住居跡を確認した赤石・天神本遺跡などもある。

弥生時代の遺跡は、本遺跡周辺では、竪穴住居跡7軒、周溝状遺構1基等を確認した国光原遺跡、検出例の少ない周溝墓を1基確認した赤坂遺跡(ほかに竪穴住居跡23軒、周溝状遺構3基等)、湯牟田遺跡(竪穴住居跡24軒、掘立柱建物跡6棟等)では、焼失住居跡が確認されるとともに、炭化物も発見されている。これら竪穴住居跡を伴う遺跡は多数確認され、時期としては、後期から終末期にかけてのものが多い。

古墳時代の遺跡は、前述した湯牟田遺跡や伯戴鏡が出土し中央との関わりが推定される西ノ別府遺跡などをはじめとして多数の調査が行われており、この時代の代表的な川南古墳群へと続く。

歴史時代では、奈良～平安にかけての上重門火葬墓や戦国期の宗麟原供養塔が知られる。中世から近代にかけての遺跡調査例として、前ノ田村上第1遺跡(掘立柱建物跡52棟、石組遺構1基等)、湯牟田遺跡(掘立柱建物跡23棟)など当該期の調査例も増加してきている。



- |             |           |         |             |              |
|-------------|-----------|---------|-------------|--------------|
| 1 前ノ田村遺跡    | 2 赤坂遺跡    | 3 国原遺跡  | 4 湯牟田遺跡     | 5 西ノ別府遺跡     |
| 6 尾花A遺跡     | 7 把言田遺跡   | 8 上ノ原遺跡 | 9 前ノ田村上第1遺跡 | 10 前ノ田村上第2遺跡 |
| 11 東国光遺跡    | 12 中ノ迫A遺跡 | 13 大迫遺跡 | 14 大久保遺跡    | 15 住吉B遺跡     |
| 16 赤石・天神本遺跡 |           | 18 前原B遺 |             |              |

【第1図 遺跡位置図 S = 1 / 50.000】



[第2図 周辺地形図 S=1/5,000]

## 第2節 調査の経過

調査区は、段丘の北西縁辺部で丘陵の頂上付近にあり、北側が最上部で標高約100m、南東側にむけて傾斜していくが、南に向かうにつれてやや急な斜面を形成している。最下部との標高差は、約6mである。なお、西側には、川南町の管理する第5配水池が隣接している。

調査は、平成20年7月29日から平成20年10月16日にかけて行い、612m<sup>2</sup>が調査対象面積である。

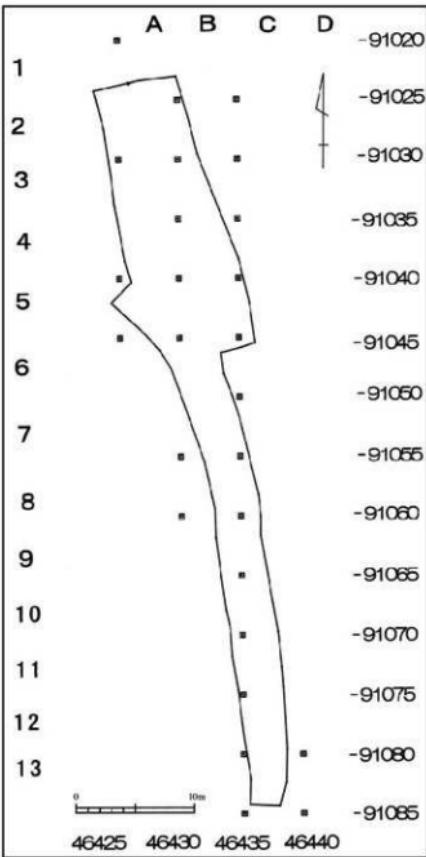
記念植樹された桜などをはじめとする樹高約2~3mほどの低木やクマザサが生い茂っていたことから、重機を使って第I層、第II層の表土剥ぎから開始した。また、第III層が約7,300年前に降灰した鬼界アカホヤ火山灰層であることから、この層上面で遺構検出を行うこととした。さらに、樹痕や風倒木などの影響を受けたと考えられる土層の搅乱範囲も数ヵ所確認され、自然堆積層の範囲はきわめて狭小であった。

また、調査区の北側に遺構や遺物が比較的密にみられたことから北側の調査に重点を置き、南側は表土剥ぎの段階で基底礫が出現していたため、一部調査から除外した。

遺構精査によって、第II層（包含層）より弥生時代終末期頃と考えられる二重口縁壺や高坪の口縁部、竪穴住居跡を確認した。これら弥生時代の発掘調査を9月上旬まで行ったあと、第IV層、第V層の調査をすすめた。

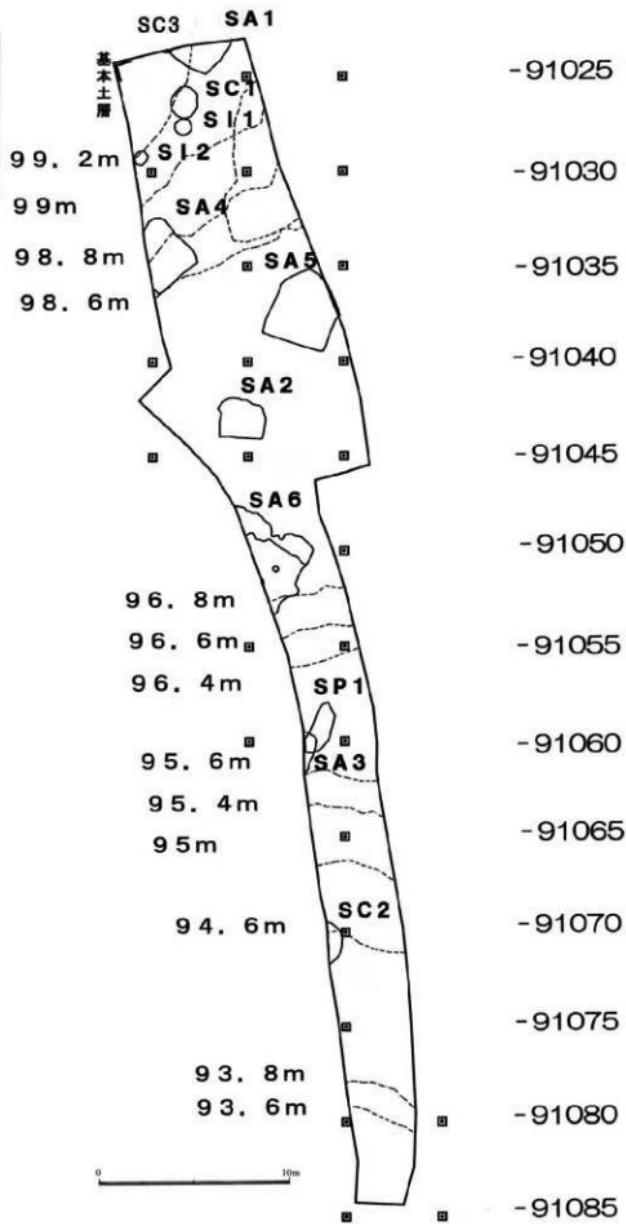
第IV~第V層にかけては、後期旧石器時代の遺物として剥片尖頭器やナイフ型石器、縄文時代早期の遺構として調査区北側で集石遺構2基を、南側で炉穴1基を確認した。また打製石鎚や敲石や土器（押型文、無文、貝殻条痕文）などの遺物を確認できた。

なお、調査は、記録図面作成のため、国土座標（XY座標）に乗じた5m単位のグリッドを設定し、南北方向は北から南へ1~13、東西方向は西から東へA~Dに区画し、調査区を設定した。以後の文章でこの区画を用いることとする。



[第3図 グリッド配置図 S=1/400]

SA = 穴住居跡  
 SC = 土坑  
 SI = 集石遺構  
 SP = 炉穴



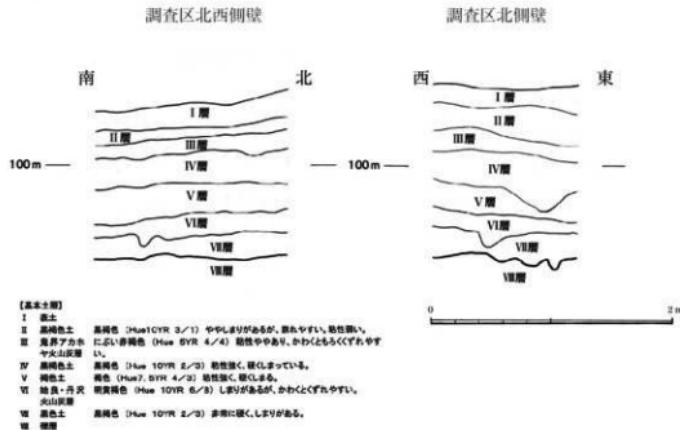
[第4図 遺構分布図 S=1/250]

### 第3節 基本層序

前ノ田村遺跡は調査区北側の標高が高く、南に向かうにつれて傾斜していく比高差約6mの斜面地形である。また、東西をみると、西から東へ向けてわずかに傾斜する地形でもある。土層堆積状況は、風倒木や擾乱の影響を受けている箇所が數カ所みられ、住居跡等の遺構を除くと、自然堆積の残る箇所は、北側のA2グリッド周辺一帯であった。

基本的な堆積については、年代測定の目安となる第III層：鬼界アカホヤ火山灰層、第VI層：姶良・丹沢火山灰層（通称A T。以後この標記とする）の2種類の火山灰層を確認できた。第III層は、調査区の南側の一部を除くほぼ全域で、層厚約15cmの値で確認できた。第VI層もほぼ全域で確認できたが、北側は層厚約10cmで南に向かうにつれてやや厚くなっていた。

遺物は主に後期旧石器時代、縄文時代早期が第IV、V層から、弥生時代が第II層から出土した。基本層序は次の通りである。



【第5図 基本層序】

## 第III章 調査の記録

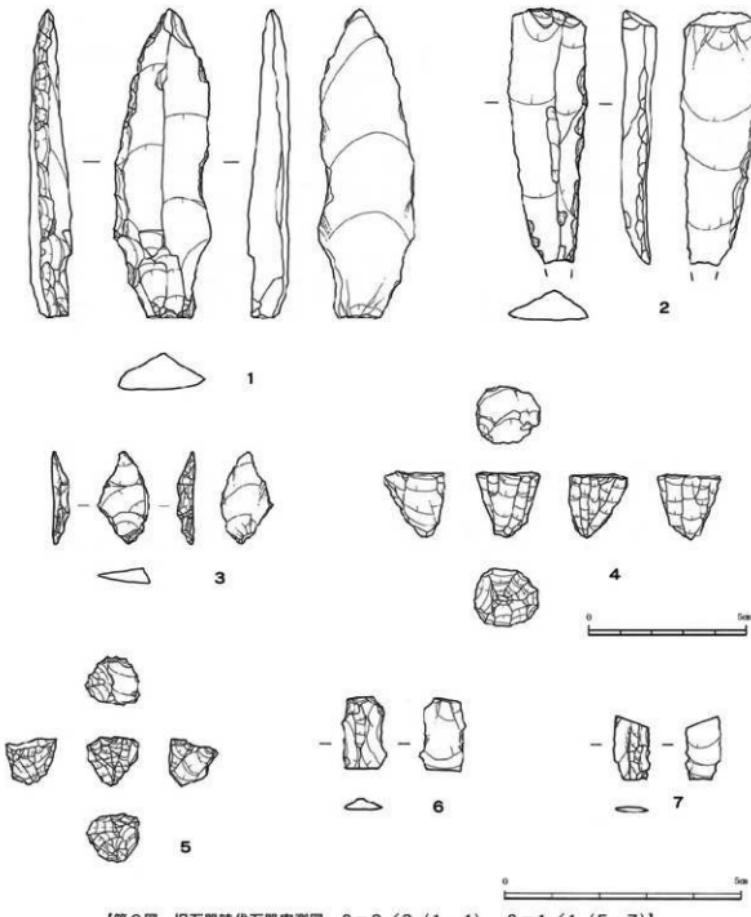
### 第1節 旧石器時代の調査

第VII層についての調査は、上位層の遺構や遺物の出土状況、擾乱範囲の状況などを考慮し、A2グリッド周辺を中心に5m四方の掘り下げ作業により、遺物確認を行った。その結果、第VII層の遺物は全く出土せず、遺構も確認できなかった。これにより、A・T上位層までの調査を行うこととした。

本遺跡の調査において、後期旧石器時代の遺構はなく、石器が数点出土した。

Iは剥片尖頭器である。右側辺上半部、左側辺先端に刃部を施しているが、風化が著しく刃部は明確には判別しがたい。左側辺は先端を除いてプランディングを施している。2は縦長剥片である。両側辺とも

かすかに刃部を施したあとがみられるが、1同様風化が著しい。剥片尖頭器の製作途中または使用後と想定される。先端（下部）は欠損している。3はナイフ形石器である。右側辺下部を敲打し基部を作る。左側辺上部は刃部となり、右側辺は全面にプランディングを施している。宮崎編年第7段階〔参23〕に相当する。4はホルンフェルス製の円錐状を呈する細石刃核で、全周の2/3に細石刃作出のあとがみられる。5も円錐状を呈する細石刃核で黒曜石製である。ほぼ全周にわたって細石刃作出のあとがのこる。4同様に各方向からの細石刃採取のあとがみられる。6、7はホルンフェルス製の細石刃である。7は折損したと考えられる。



【第6図 旧石器時代石器実測図 S = 2/3 (1~4) S = 1/1 (5~7)】

## 第2節 繩文時代の調査

本遺跡の調査では、第IV層～第V層において、縄文時代草創期の遺物が9点出土するとともに、縄文時代早期の遺構として集石遺構2基、炉穴1基が検出され、遺物も多数出土した。

### 1 遺構および遺物

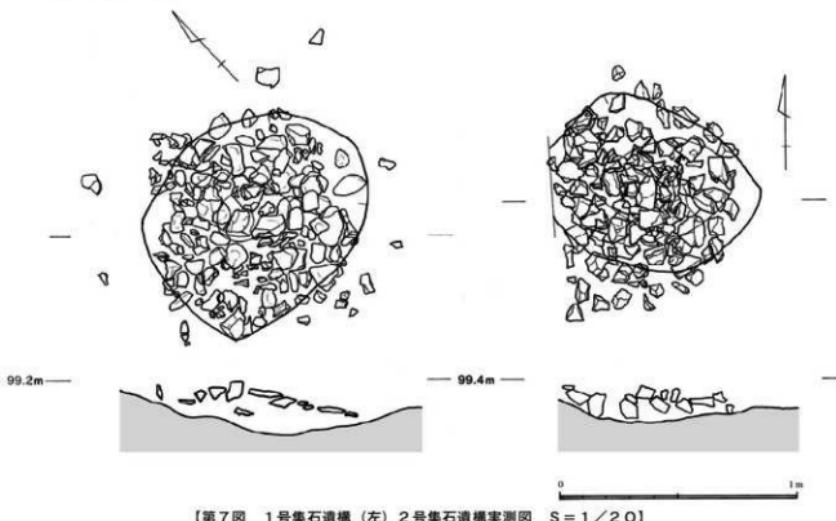
#### (1) 集石遺構

##### 1号集石遺構

この遺構は、調査区北側A2グリッド内の第V層で確認した。1号土坑とわずかに接する。長径約100cm、短径約80cmで、5～10cm大の尾鈴山酸性岩類、砂岩などで構成される。北西から南東にかけてわずかに傾斜しながら、約15cm堀り込まれていた。配石はなかった。

##### 2号集石遺構

この遺構は、調査区北側A1グリッド内の第IV層で確認した。調査区の西側壁に一部接する。長径90cm、短径70cmで拳大の尾鈴山酸性岩類、砂岩などで構成される。堀込みは約10cmと浅く、配石もなかった。

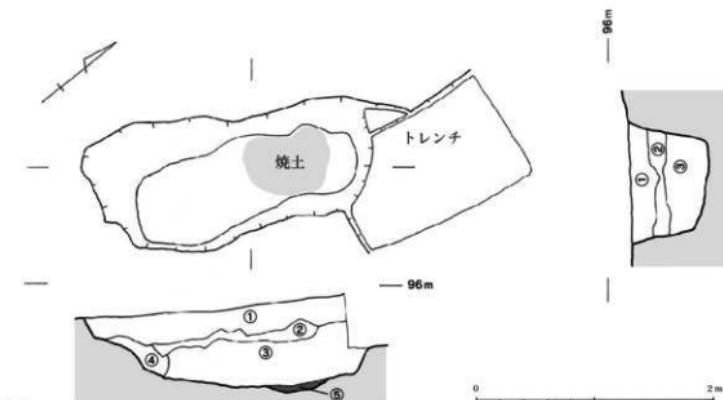


【第7図 1号集石遺構（左）2号集石遺構実測図 S=1/20】

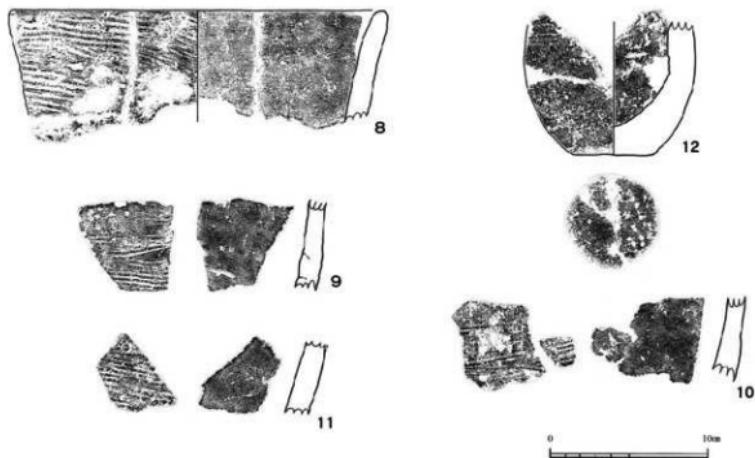
#### (2) 炉穴

##### 1号炉穴

この遺構は、調査区南側B8グリッドで確認した。長軸径約210cm、短軸径約40cm、第IV層上面からの深さは約60cmである。長軸は南西から北東にかけて伸びるが、北東端はトレンチにより、一部切られる。また、北東床面には、長径30cm×短径20cm、深さ1～5cm程度の焼土がみられた。なお、遺物は遺物番号8、9、10などの貝殻条痕土器が8点出土している。



【SP】  
 ①焼褐色土(1 SYR3/2) ややしまりがあり、硬い。粘性は弱い。  
 ②" " ①よりもかかげく、まろい。粘性は①と同じ。  
 ③黒褐色土(7 SYR2/2) ②と同程度の硬さ。  
 ④褐色土(7 SYR4/4) ③よりは硬くはないが、粘性が強く、黒褐色土がブロック状に變じる。  
 ⑤明赤褐色土(2 SYR6/6) 硬土と考へられる。黒褐色土をブロック状に含む。



【第8図 1号炉穴実測図 S=1/40 1号炉穴出土遺物実測図 S=1/3】

### 1号炉穴出土遺物

1号炉穴出土遺物上器を5点図化した。なお、石器はなく、礫が数点確認できた程度である。

8は、深鉢の口縁部である。外面はナデ調整のあと、横位もしくは斜位に貝殻条痕文を施す。内面は丁寧なナデ調整である。器壁はやや厚く、わずかに外反する。口唇部は丁寧なナデ調整により丸みを帯

びる。内面はナデ調整のみで、文様はない。内外面ともに風化気味である。9は深鉢の胴部～底部付近である。外面は丁寧なナデ調整のあと横位の貝殻条痕文を施している。指頭痕や風化の影響で一部文様が摩耗している。内面は丁寧なナデ調整である。10は深鉢の胴部から底部付近である。外面は丁寧なナデ調整のあと横位の貝殻条痕文を施している。内面も丁寧なナデ調整である。11は深鉢の胴部である。内外面ともナデ調整であるが、風化が著しい。外面は横位もしくは斜位の貝殻条痕文を施している。12は小型の鉢形土器の胴部から底部である。器壁は厚く、平底を呈する。底径は約5.2cmを測る。外内面ともにナデ調整と思われるが、風化が著しい。

### (3) 第IV層、第V層出土遺物

#### ア 繩文土器

本遺跡での縄文土器については、早期の遺物が大半を占め、草創期の遺物は9点であった。復元作業の結果、完形に近い状態の個体は全くなく、接合できた土器片も限られ少数であった。また、遺物の取り上げについては、斜面上の地形であることや層位の不明朗な箇所があることなどからIV層とV層との明確な班別には困難を要した。したがって第IV層、第V層の遺物をまとめて掲載する。草創期の土器を①とし、早期の土器は②とするが、口縁部の形状、文様等によりA類 貝殻条痕文土器、B類 無文土器、C類 押型文土器に大別した。さらに、口縁部、口唇部の形状、文様などにより、A類については4種、C類については2種に細別した。

#### ① 草創期の土器：隆帶文土器（13～21）

13～21は草創期から早期はじめにかけての土器である。13～16は内外面とも粗い調整である。外面には突帯を貼り付けるが、下方に垂れる。指頭痕もみられる。17は口縁下に屈曲部をもうける。内外面とも粗い調整で口唇部は丸みを帯びる。18は深鉢の口縁部である。口唇部は丸みを帯びる。口縁下部に屈曲部を設ける。内外面ともに調整は粗い。外面にはススの付着もみられる。19は内外面とも粗い調整で、指頭痕が残る。18は17と同一個体の可能性も考えられる。20は深鉢の口縁部である。口唇部は丸みを帯びる。内外面とも粗い調整である。21は内外面ともやや粗い調整であるが、他の隆帶と比して、それほど下垂しない。

#### ② 早期の土器

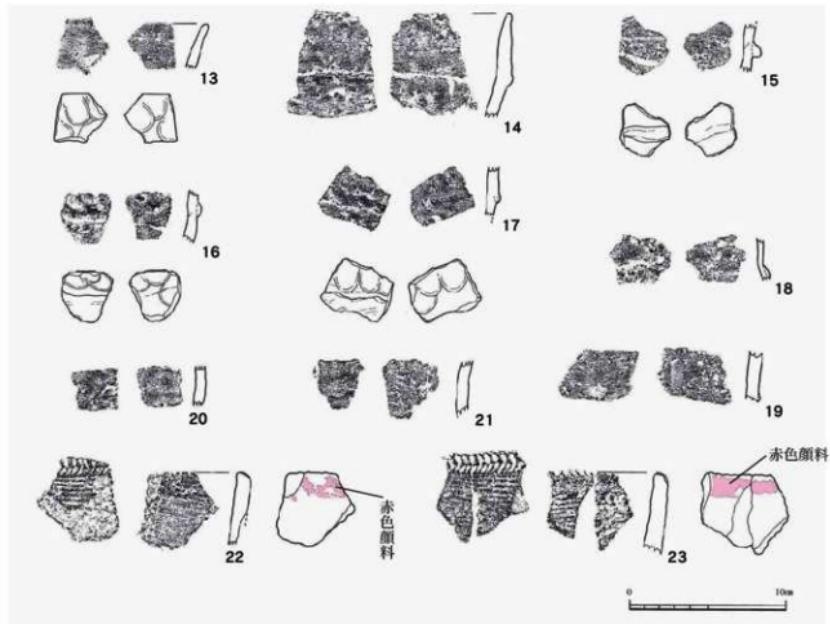
##### A類 貝殻条痕文土器（22～43）

###### A-a（22・23）

口縁部が直行する形態である。口唇部を平らに仕上げ、貝殻による刻みを入れるものである。22、23は、口縁直下及び口唇部に刺突文を、刺突文下部に横位の貝殻条痕文を施している。また、内面上部には赤彩を施している。前平式土器に相当すると考えられる。

###### A-b（24～28）

口縁部が直行し、口唇部を平らに仕上げるものである。24は口縁直下、貝殻腹縁刺突文を施しているが、風化が著しい。内面はナデ調整が施されるが、風化が激しい。25の外面は丁寧なナデ調整のあと、横位の貝殻条痕文を施し、さらに、縦位の貝殻腹縁刺突文を施すが、風化が著しい。内面は丁寧なナデ調整を施す。26の外面は横位の貝殻条痕文のあと、口縁直下に貝殻刺突文を施す。やや風化気味であり、指頭痕もみられる。内面は丁寧なナデ調整を施す。27は内外面とも風化が著しく、外面の文



〔第9図 繩文時代土器実測図① S=1/3〕

様は定かではないが、胎土、形状などからこの類とした。28は内外面とも風化が激しく、ごく一部の外面に横位の貝殻条痕文を確認できる。

#### A-c (29・30)

口縁部が外反し、口唇部が丸みを帯びるものである。29の外面は風化もしくは剥落が著しく、外面の文様は定かではないが、胎土や形状などからこの類とした。内面はナデ調整を施す。30の外面は丁寧なナデ調整のあと、横位もしくは斜位の貝殻条痕文を施している。内面はナデ調整であるが、風化気味である。

#### A-d (31~43)

口縁部が外反し、口唇部を平らに仕上げるものである。31は口唇部の一部がややふくらみがあるがこの類とした。外面はナデ調整のあと横位に貝殻条痕文を施しているが、風化が著しい。内面も風化が著しいが、ナデ調整と考えられる。32は外面は横位の貝殻条痕文を施している。内面は丁寧なナデ調整であるが、風化気味である。33は外面は横位に貝殻条痕文を施しているが、指頭痕により一部消滅している。内面も丁寧なナデ調整が施され、一部風化気味であるが、指頭痕も残る。

ここからは、貝殻条痕文を有する深鉢の胴部片をまとめて記載する。34は内外面ともナデ調整が施されるが、風化が著しく、外面は特に顕著である。土器片下部にかろうじて貝殻条痕文を確認できる。

3 5 は内外面ともナデ調整が施されるが外面はやや風化気味である。文様はかろうじて確認できる。3 6 は内外面とも丁寧なナデ調整が施され、外面は横位に貝殻条痕文が施される。3 7 は内外面ともナデ調整が施され、外面は横位・斜位に貝殻条痕文が施される。指頭痕が内外面ともに残る。3 8 の外面はナデ調整のあと、貝殻条痕文が横位に施されるが、風化が著しく、条痕文が摩耗している。内面は丁寧なナデ調整が施される。3 9、4 0 の外面はナデ調整のあと、横位もしくは斜位に貝殻条痕文が施されるが、風化のためごく一部にしか痕跡は残っていない。内面は丁寧なナデ調整である。4 1 は外面はナデ調整が施されるが、風化気味である。文様はごく一部に確認できる。内面は丁寧なナデ調整が施される。4 2 は外面はほとんどが剥落しており、残存部分にわずかに貝殻条痕文がみられる。内面は丁寧なナデ調整が施され、指頭痕も残る。4 3 は外面は風化が著しいため判然としない面が多いが、わずかに残存する所から判断するとナデ調整のあと貝殻条痕文を施すと考えられる。内面は丁寧ナデ調整が施されている。

### B類 無文土器（4 4～4 6）

口縁部が直行し、口唇部が丸みを帯びるものである。無文で器壁は薄い。

4 4 は内外面とも丁寧なナデ調整が施されている。器壁は約4～6 mmである。4 5 は内外面ともナデ調整が施されているが、風化気味である。器壁は約4～7 mmである。4 6 は深鉢の口縁部である。内外面とも丁寧なナデ調整が施され、外面には未穿孔が残る。

4 7～5 4 は、深鉢の胴部～底部または底部である。土器の一部のため、有文か無文かの判別は困難であるが、実見で無文などを、ここでの扱いとした。4 7、4 9 は内外面ともナデ調整が施されるが、風化気味である。尖底と考えられる。4 8 は内外面ともナデ調整が施されるが、やや風化している。安定した平底を呈し、ふくらみながら立ち上がる。5 0 は内外面ともナデ調整を施すが、風化気味である。平底を呈し、外方へ緩やかにふくらみながら立ち上がる。5 1 は内外面ともナデ調整を施すが、風化気味である。平底を呈する。5 2 の内外面は丁寧なナデ調整を施すが、内面は風化がややみられる。平底で、立ち上がりがやや丸みを帯びる。5 3 は底部付近で、内外面は丁寧なナデ調整であるが、内面は風化気味である。5 4 は内外面とも丁寧なナデ調整が施されるが、風化が著しい。底部は欠損しているが、平底であると考えられる。

### C類 押型文土器（5 5～5 6）

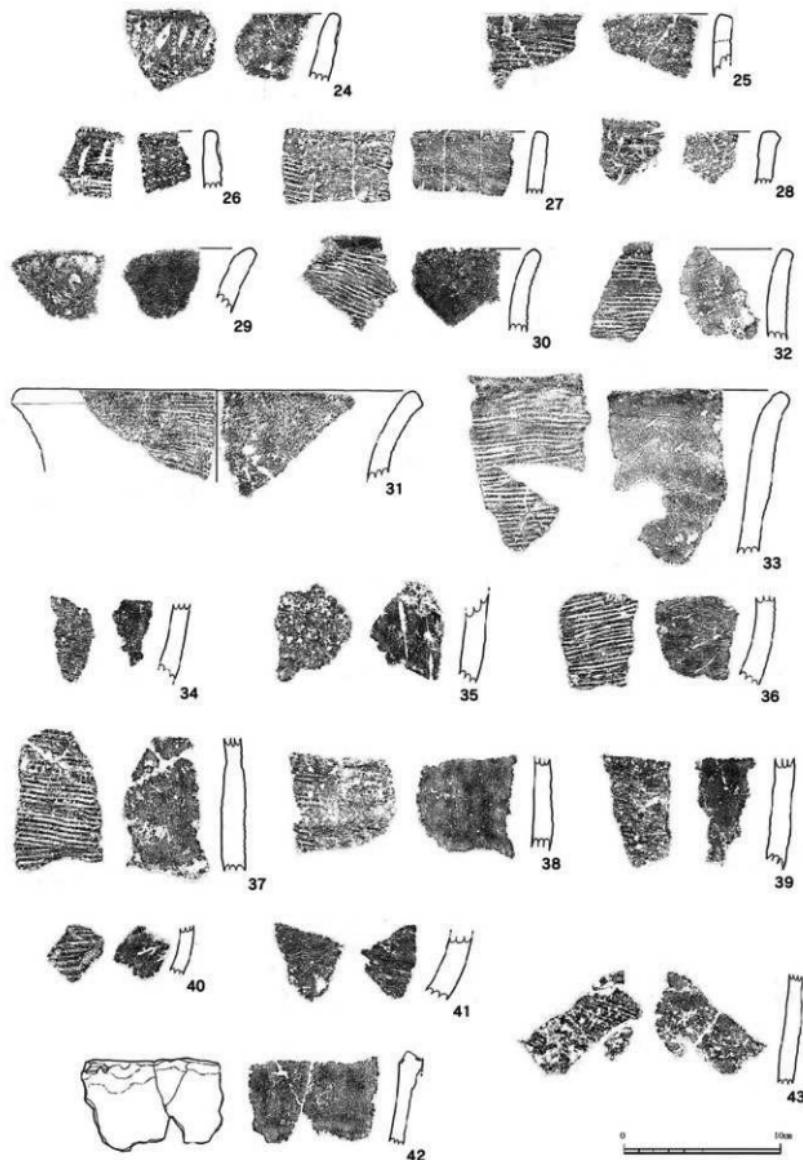
本遺跡においては、押型文土器はわずかに2点のみの出土である。文様により2種に分けた。

#### C-a 楕円押型文

5 5 は深鉢の胴部である。長径5 mm程度の楕円の押型文を横位に施している。内面はナデ調整を施しているが、風化気味である。

#### C-b 山形押型文

5 6 は深鉢の胴部である。内外面ともナデ調整で、外面には横位の山形文を施しているが、風化している。



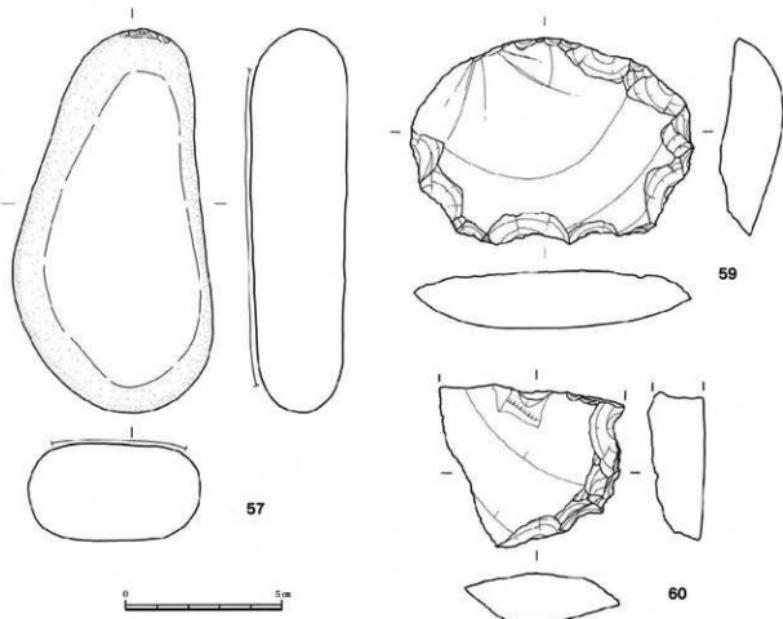
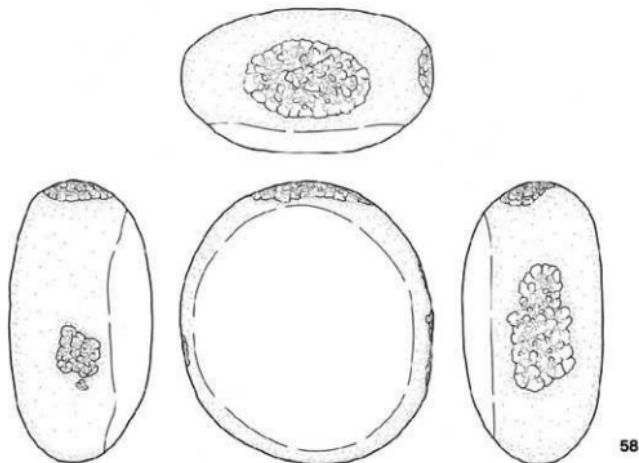
【第10図 繪文時代土器実測図② S = 1 / 3】



【第11図 縄文時代土器実測図③ S=1/3】

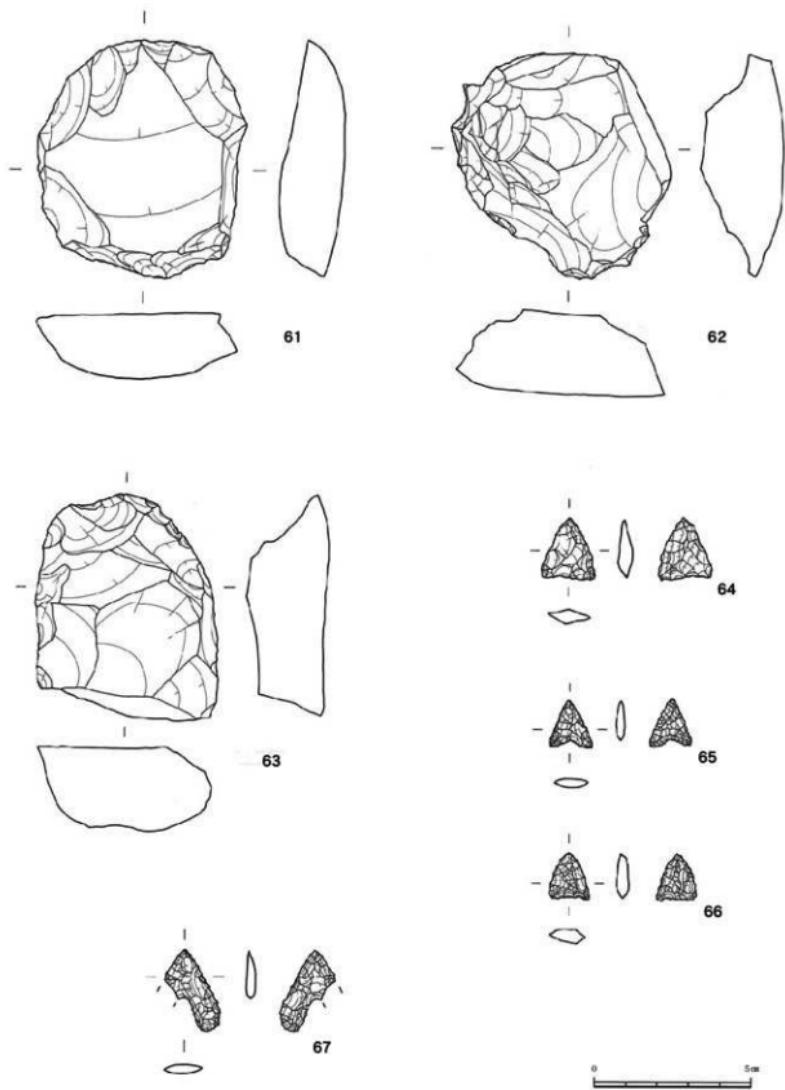
#### イ 石器【第12、13図】

57、58は砂岩製の敲石である。57は上下部にわずかに敲打痕を残す。58は上部と右側辺部に敲打痕を残す。59、60はともに尾鈴山酸性岩類のスクレイパーである。59は片面が自然面も残し、両側辺下部、下部に刃部加工を施す。60も片面が自然面であり、右側辺、下部に刃部加工を施す。61～63はホルンフェルス製の石核である。61は下部および側辺に、62は左側辺にそれぞれ加工痕を残す。63は右上半部および左側縁に加工痕を残す。64～67は打製石器である。64は風化が著しく刃部は識別困難である。65は抉りが入り、両側辺は細かく刃部を施す。66は桑ノ木津留産黒曜石製で左側辺は中央に比較的大きめの打痕を入れたあと、こまめに調整が行われている。左下は欠損。67は腰岳産黒曜石製で右側辺の約2/3を欠損している。左側辺は約5mm間隔で丁寧に刃部を施している。基部には大きな抉りが入る。



0 5cm

【第12図 桜文時代石器実測図① S=2/3】



【第13図 繪文時代石器実測図② S=2/3】

### 第3節 弥生時代の調査

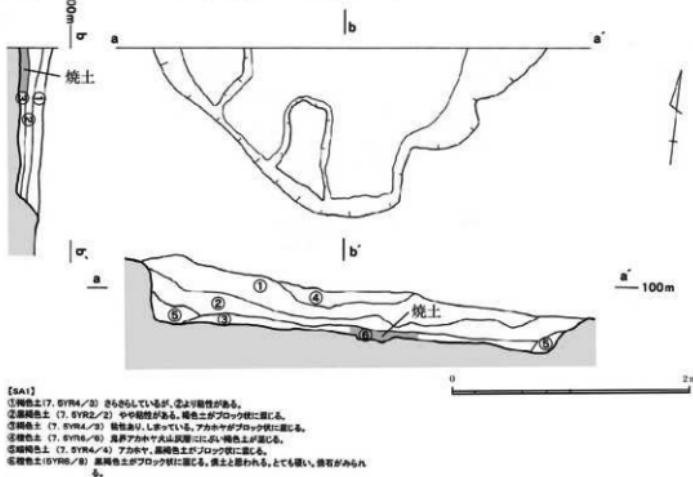
第III層アカホヤ火山灰層上面での検出により、弥生時代の6軒の竪穴住居跡と3基の土坑を確認した。

#### 1 造構および遺物

##### (1) 竪穴住居跡

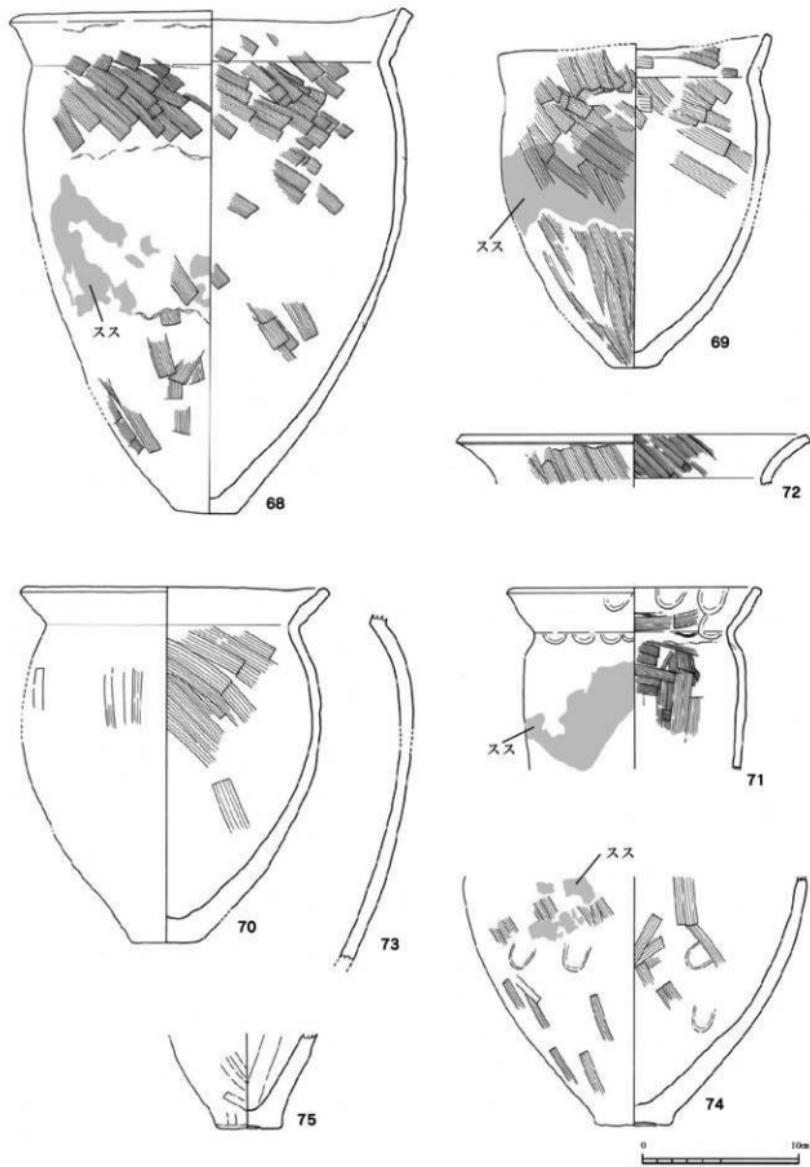
###### 1号竪穴住居跡と出土遺物

この住居跡は、調査区北側A3グリッドの壁際にて一部を検出した。全容は不明だが、一边約2.5mの方形プランを基調とする。竹根、重機の削平などによって検出面から床面までの深さは約6cmであるが、壁面から推察すると、少なくとも30cm~40cmの深さが考えられる。柱穴は確認できなかった。検出された床面の面積は約2m<sup>2</sup>である。また、南側と西側に突出部が検出された。南側は北に向けて突出する。西側は調査区壁によって切られるが、面積約0.2m<sup>2</sup>で東に向けて突出する。なお、土層断面は壁面を記したものである。遺物は15点掲載した。

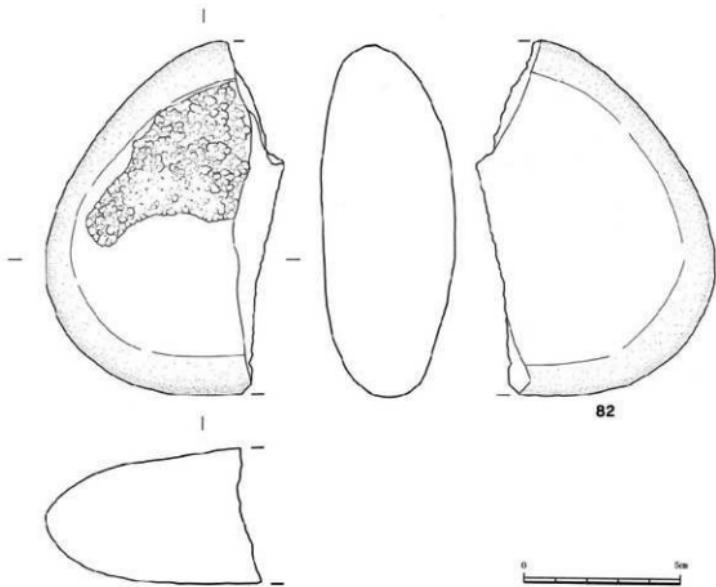
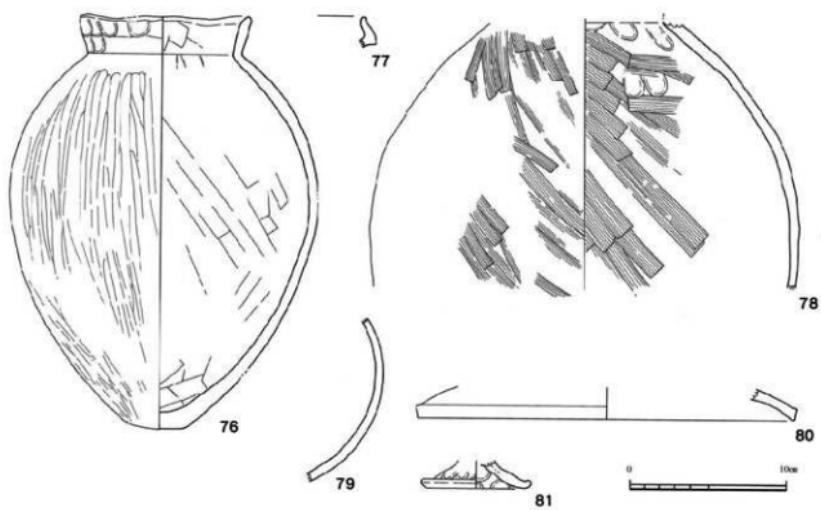


【第14図】1号竪穴住居跡実測図 S=1/40

68~75は壺である。68は器高約32cm、口径と胴部最大径はほぼ同じ径(約24.3cm)である。口縁部は「く」の字口縁で内面に明確な稜をなす。底部は平底で、緩やかに立ち上がる。内外面とも主に斜め方向にハケ目調整を施す。外面にはスヌも付着する。SA4の土器片と接合している。69は器高約21cm、推定口径約17cmを測る。口縁部は「く」の字口縁でゆるやかに外反し、口唇部は面を成形する。胴部はあまり張らない。底部は平底で、ゆるやかに立ち上がる。調整は、内外面とも口縁部から胴部中位にかけて斜め方向のハケ目を、胴部中位から底部までは縱方向のハケ目を施す。70は器高約22.5cm、推定口径約19cmである。口縁部は「く」の字口縁で胴部はやや張りをもつ。口唇部は面を成形する。調整は外面が縱方向にハケ目、内面は斜め方向にハケ目を施しているが、風化が著しい。口縁部から胴部下位に至るまでスヌが付着する。71は推定口径が約15cm、口縁部はゆるやかな「く」の字口縁で、張りのない胴部へと続く。胴部は径約14cmで口径がやや広くなる。



【第15図 1号竪穴住居跡出土遺物実測図① S = 1 / 3】

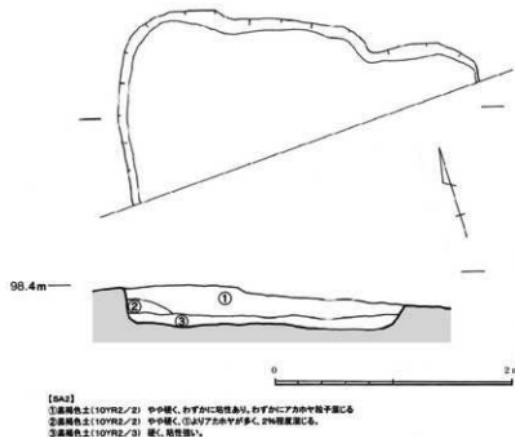


【第16図 1号竪穴住居跡出土遺物実測図② S=1/3 (76~81) S=2/3 (82)】

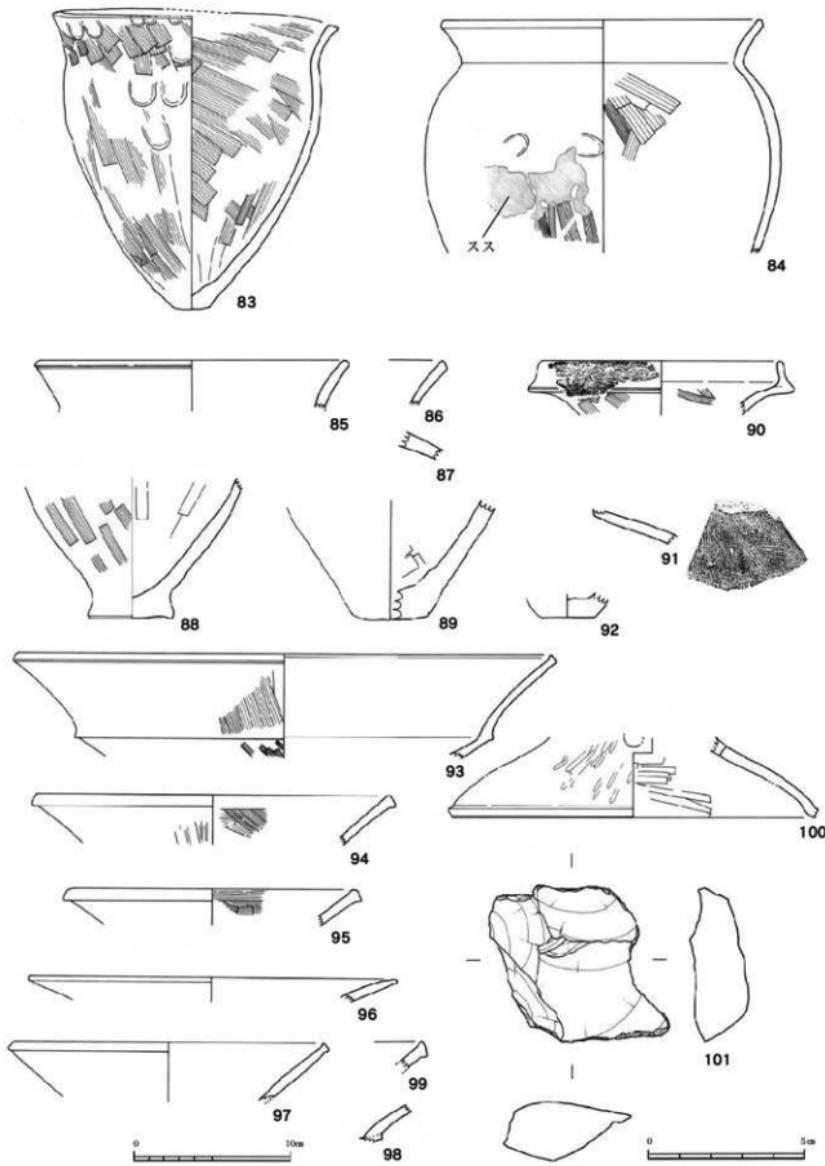
口唇部は面を成形する。内外面ともナデ調整を施し、指压さえの痕も明瞭である。72は口縁部破片で、推定口径約22cmで大きく外反する。口唇部は面を成形する。内外面とも斜め方向にハケ目調整を施す。73は頭部～胴部付近の破片である。調整は、外面が胴部上位は斜め方向に、底部付近は縱方向にハケ目を施し、内面は丁寧なナデを施す。胴部中位から下位にかけてススが付着する。74は胴部～底部の破片。胴部上位は欠損するが、中位はやや張るようである。底部はわずかに上げ底となる。内外面は縱、斜め方向のハケ目調整を施す。ススの付着がみられる。75は底部片である。内外面とも調整は明らかではないが、工具痕が認められる。平底を呈する。76～79は壺。76は器高約26cm、推定口径約10.7cm、胴部最大径は胴部中位のやや上方にあり、約19.5cmである。口縁部はわずかに外反し、口唇部は丸みを帯びる。指压さえの痕が明瞭である。調整は外面が斜め方向のナデ、縱方向のミガキが施され、内面は斜め方向のナデが施される。底部はミガキもしくは丁寧なナデ調整でゆるやかに立ち上がる。77は口縁部破片で、複合口縁をもつ。外面には柳描波状文を施す。78は頭部～胴部の破片である。胴部の最大径は中位にあり、約27cmを測る。内外面とも斜め方向にハケ目調整を施す。外面にはススも付着する。79は小型の壺の胴部片である。外面は横、斜め方向にハケ目を施し、内面は丁寧なナデ調整を施す。80は高壺の脚・裾部片である。推定裾部径は約24cmを測る。外面は丁寧なナデ、内面はハケ目調整を施す。端部は横方向のナデ調整を施して面を成形する。81は小型手づくね土器の脚部である。内外面とも指压さえの痕が残る。82は砂岩製の敲石で、上位半分を作業面として使用している。

## 2号竪穴住居跡と出土遺物

この住居跡は、調査区の中央部付近に位置する。重機や竹根等の削平を受けており、南側半分は検出不可能であった。住居跡北側のみの確認だが、一辺約3mで、検出面からの深さは約30cmである。



【第17図 2号竪穴住居跡実測図 S=1/40】



【第18図 2号竪穴住居跡出土遺物実測図 S=1/3 (83~100) S=2/3 (101)】

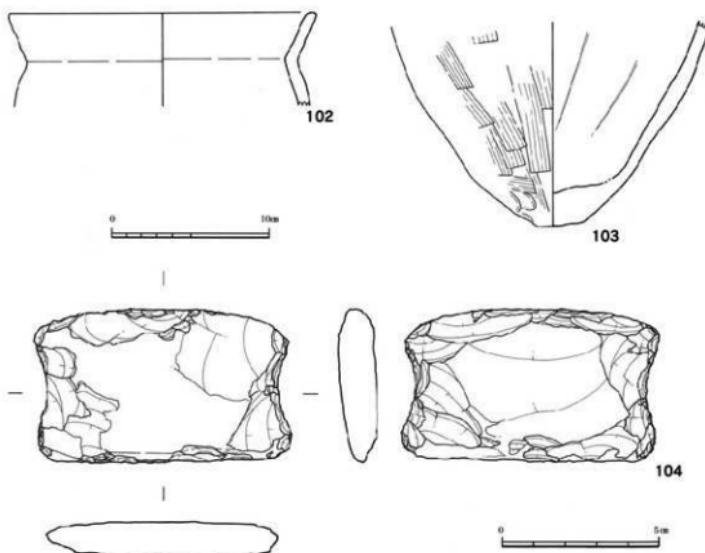
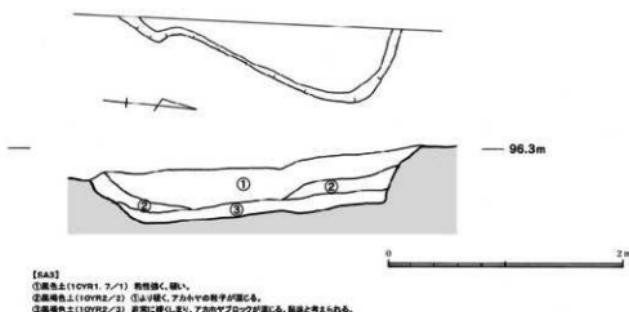
検出した部分の床面積は約2.5m<sup>2</sup>である。遺物は19点を掲載した。

83～89は甕。83は器高約19cm、口径約17.3cmである。ほぼ完形となった。口縁部はゆるやかに外反し、口唇部は面を成形するものの、外方をつまみ上げている。胴部はわずかに張る。底部径は約2.4cmで平底である。内外面とも斜め方向にハケ目調整を施す。外面にはスヌも付着する。84は口縁部～胴部の破片で、推定口径は約20.4cmを測る。口縁部は「く」の字口縁を呈し、口唇部はやや丸みを帯びる。胴部が最大径となり、約23cmを測る。内外面とも縦、斜め、横方向にハケ目調整を施す。胴部外面はスヌも付着する。85はゆるやかに外反する口縁部の破片である。推定口径は約19.4cmを測る。口唇部は面を成形し、内外面とも丁寧なナデまたはハケ目調整を施す。86もゆるやかに外反する口縁部の破片である。口唇部は面を成形する。外面は斜め方向に内面は横方向にハケ目調整を施す。87は胴部破片である。外面に縦方向のハケ目、内面にはナデ調整を施しているが、風化が著しい。88は胴部～底部の破片で、推定底部径は約5.3cmを測る。底端部は丸みを帯びて外方に向かう。わずかに上げ底気味である。外面は縦方向のハケ目、内面は縦方向のナデ調整がみられるが、風化が著しい。89は底部の破片である。推定底部径は4.7cmを測り、平底である。端部はやや丸みを帯びる。内外面とも工具痕が認められるが、風化が著しく調整は不明である。90は複合口縁臺の口縁部である。推定口径は15cmを測る。大きく外反したあと、逆「く」の字状に内傾する。口唇端部は丸みを帯び、外面には櫛描波状文を施す。内面は横方向のナデ調整である。91は壺の頸部～胴部の破片である。外面は縦、斜め方向にハケ目を、内面には丁寧なナデ調整を施す。指押さえの痕も残る。92は壺の底部破片である。底径は約3.2cmを測る。内面はナデ調整を施し、指押さえの痕も残るが、外面は風化が著しく調整は不明である。93～99は高杯の杯部破片である。93の破片は推定口径が約34cmを測り、大きく外反しながら開口縁部で、口唇部はハケ目調整を施して面を成形する。端部内面側を内側につまみ出す。外面は縦、横、斜め方向にハケ目調整を施すが、屈折部から上部は丁寧なナデ調整となる。内面は丁寧なナデ調整を施す。94の破片は推定口径約22.6cmを測り、口唇部にハケ目、外面は縦方向のハケ目、内面は丁寧な横方向のナデ、斜め方向のハケ目調整を施す。95の破片は推定口径約18.5cmを測り、口唇部は斜め方向のハケ目調整を施して面を成形する。外面は丁寧なナデ、内面は横方向のハケ目調整である。96の破片は推定口径約23.4cmで、口縁端部が丸みを帯びる。内外面ともナデ調整を施す。97の破片は推定口径約19.8cmを測る。口唇部は丁寧なナデ調整を施して面をなす。外面は縦、横、斜め方向にハケ目を内面には縦方向にハケ目調整を施す。98は屈曲部分で、内外面ともハケ目調整を施す。99の破片は屈折部分で、内外面ともハケ目調整を施す。100は高杯の脚裾部である。推定底径は約23.1cmを測り、径約1cmの円形透かしが入る。外面は縦方向のミガキ、内面はハケ目調整を施す。101はホルンフェルス製の剥片である。住居埋土中からの出土であるが、下層の遺物とも考えられる。

### 3号竪穴住居跡と出土遺物

この住居跡は調査区南側（C8グリッド）に位置する。ほとんどが調査区外に存在し、一部のみ検出した。壁面の土層から、約40cmの深さをもつ方形プランを基調とする住居跡であると推察される。検出した部分の床面積は0.7m<sup>2</sup>である。

遺物は3点を掲載した。102は甕の口縁～頸部の破片で、口径が約19.2cm、ゆるやかな「く」

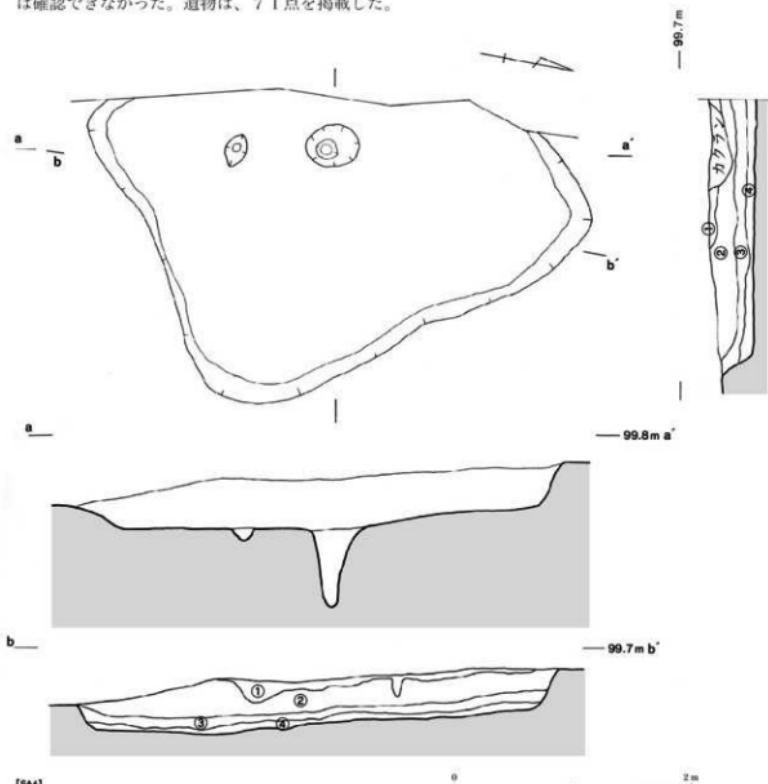


【第19図 3号竪穴住居跡実測図 S=1/40 出土遺物実測図 S=1/3 (102 103) S=2/3 (104)】

の字口縁で、口唇部は横方向のナデ調整を施して面を形成する。内面は横方向のハケ目、斜め方向のナデ調整を施す。103は壺の胴部～底部の破片である。102と同一個体と考えられる。底径約3cmの平底だがや粗い作りで安定性を欠く。外面は縦方向のハケ目、内面はナデ調整のあとに縦方向の工具痕が残る。104はホルンフェルス製の石庖丁である。両端部に抉りが入る。刃部は片刃で、背部はわずかに湾曲する。

#### 4号竪穴住居跡と出土遺物

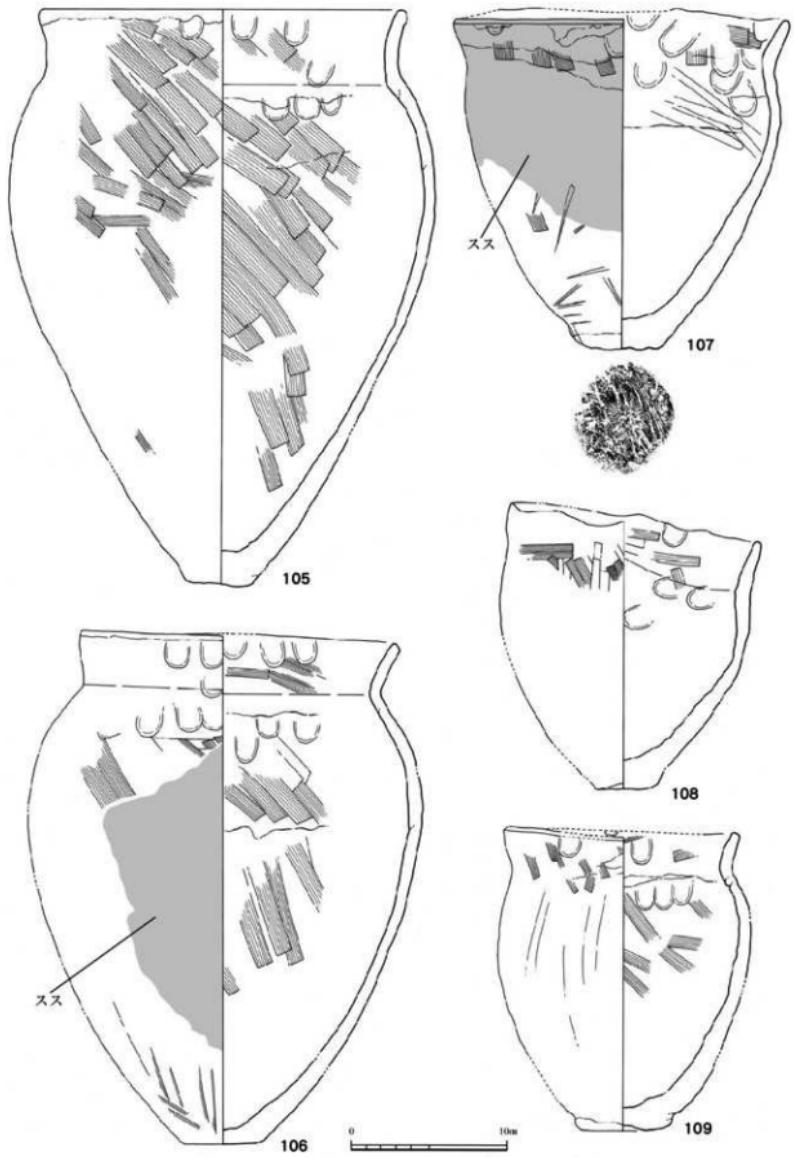
この住居跡は調査区北側B1グリッド付近に位置し、一部が調査区外に存在する。長辺約3.6m、短辺約3mの方形プランを基調とする。検出された床面の面積は約6.6m<sup>2</sup>である。検出面からの深さは約30cmを測る。柱穴は2個確認できたが、径約3.0~5.0cm、深さは約20~60cmで、その他は確認できなかった。遺物は、71点を掲載した。



【第20図 4号竪穴住居跡実測図 S=1/40】

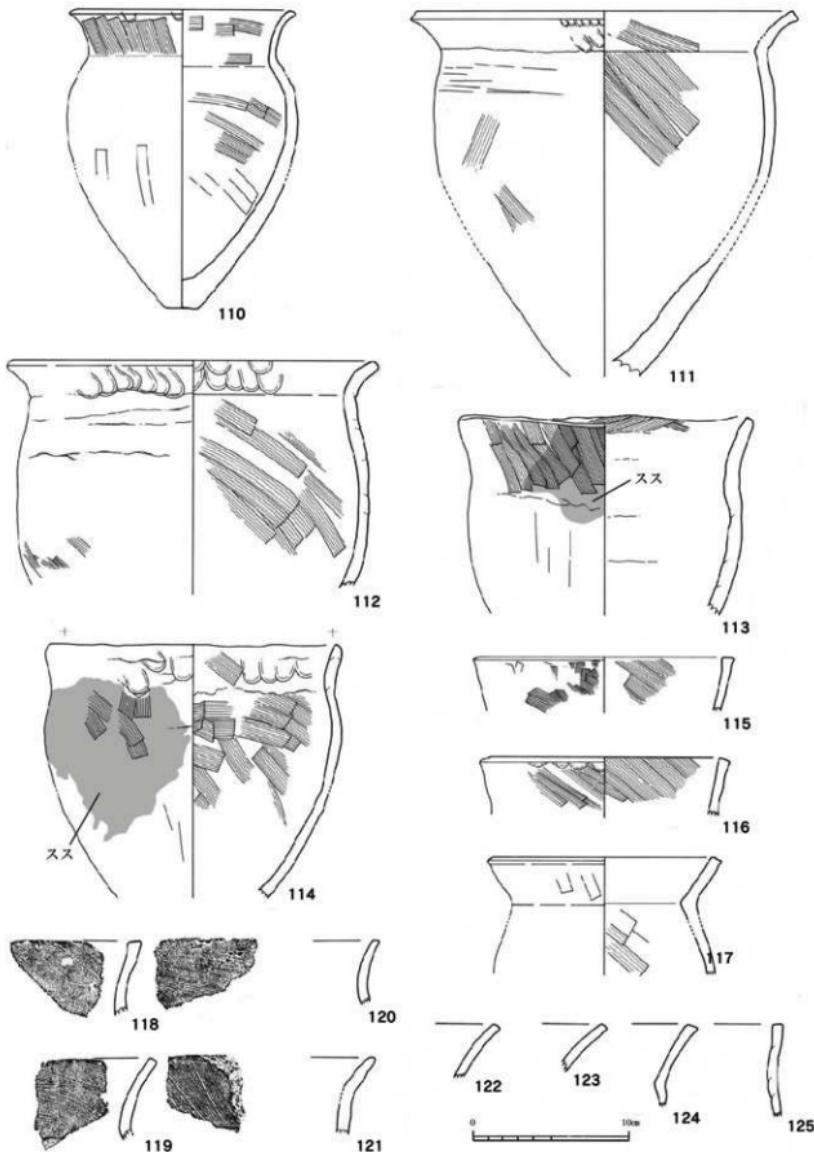
105~139は壺である。105はほぼ完形である。器高約3.6cm、推定口径約22.6cm、底径約4.2cmを測る。口縁部はわずかに外反し、口唇部は丸みを帯びる。内外面とも斜め方向のハケ目調整を施すが、風化により不鮮明である。胴部はやや張りをもち、胴部上位に最大径を測る。底部は平底を呈する。106は器高約32.7cm、口径約19.8cm、底径約5.1cmを測る。口縁部はゆ

るやかに外反する「く」の字口縁で、口唇部はやや丸みを帯びる。内外面とも斜め方向のハケ目調整を施す。口縁部、頸部には指押さえの痕も認められる。外面にはススが付着する。底部は平底を呈する。**107**は器高約21.6cm、口径約21cm、底径約5.5cmを測る。口縁部はゆるやかに外反し、口唇部はすぼまる。内外面ともハケ目調整を施す。口縁部には指押さえの痕、胴部には工具の痕などが認められる。口縁部から胴部中位にかけてススが付着する。底部は基本的に平底と考えられるが、指押さえの痕が明瞭で、粗い仕上げとなっている。**108**は器高約18.2cm、口径約15.6cm、底径約3.9cmを測る。口縁部はほぼ直行し、口唇部はすぼまる。内外面ともに、指押さえの痕が残り、横、斜め方向のハケ目調整を施すが、風化気味である。底部は平底を呈するが、底部を据えてみると、口縁部から胴部にかけて傾いた形狀を呈する。**109**は器高約19.2cm、口径約14.3cm、底径約5.7cmを測る。口縁部はわずかに外反し、口唇部は面を成形する。外面は縦方向にナデ、内面はハケ目調整を施す。指押さえの痕も認められる。底部はやや脚台状であるが、粗い仕上げのため凹凸が著しい。**110**は器高約18.9cm、推定口径約13.6cm、底径約2.1cmを測る。口縁部はやや内湾したのち、ゆるやかに外反する。口唇部はほぼ面を成形するが、端部をつまみ、外方に向ける。胴部はやや張りをもち、胴部上位に最大径を測る。外面は縦方向のナデまたはミガキを、内面は、口縁部で横向、胴部から底部で斜め方向にハケ目調整を施す。底部は平底を呈し、やや厚みがある。**111**は口縁部から胴部の破片で、口径約24cmを測る。大きく外反する口縁部で、口唇部は平坦だが、端部を指でつまみ、外方へ向ける。外面は横、斜め方向のハケ目調整を施す。**112**は口縁部から胴部の破片で、推定口径約23cmを測る。大きく外反する口縁部で、口唇部端部を丸く仕上げる。口縁部の内外面とも指押さえの痕が認められる。胴部の外面は斜め方向のハケ目調整を施すが、調整は粗く粘土紐のつなぎもみられる。ススの付着もみられる。**113**は口縁部から胴部の破片である。口縁部はわずかに外反する。口縁部と頸部の境は明瞭ではない。口唇部は面を成形するが粗い。外面は、口縁部が斜め方向のハケ目、胴部は縦方向のナデ調整を施し、ススも付着する。内面はナデ調整を施す。**114**は口縁部から胴部の破片である。推定口径は約18.4cmで口縁部はわずかに内湾する。口唇部は丸く仕上げる。口縁部と頸部の境は明瞭ではなく、胴部は最大径で約18.9cmを測り、上位に最大径をもつ。外面に指押さえの痕が認められ、横、斜め方向のハケ目調整を施す。ススの付着もみられる。**115**は口縁部の破片である。推定口径は約15.8cmを測る。口縁部はほぼ直行し、口唇部はハケ目調整を施して面を成形するが、口唇端部をわずかに外方につまむ。外面とともに縦、斜め方向のハケ目調整を施す。**116**は口縁部の破片である。推定口径は約14.6cmを測る。口縁部はほぼ直行し、口唇部はハケ目調整を施して面をなすが、口唇端部をわずかに外方につまむ。外面とともに斜め方向のハケ目調整を施す。**117**は口縁部から頸部の破片である。推定口径は約15cmである。口縁部は「く」の字に外反する。口唇部は内面側が丸みを帯び、外側はつまんで外方に向ける。外面はわずかにハケ目調整が残る。**118**は口縁部の破片である。わずかに外反する。口唇部は平坦であるが、面をつくるために粘土が押しつぶされて内面側がふくらみをもつ。**119**は口縁部の破片である。わずかに外反し、口唇部は面を成形する。外面とも斜め方向にハケ目調整を施す。外面にはススが付着する。**120**は口縁部の破片である。わずかに外反し、口唇部は面を成形する。外面とも風化により調整が不明である。**121**は口縁部の破片である。口縁部分は短めでやや強く外反する。口唇部は丸みを帯びる。外面は縦、内面は横方向のハケ目調整を施し、頸部には指押さえの痕を残す。



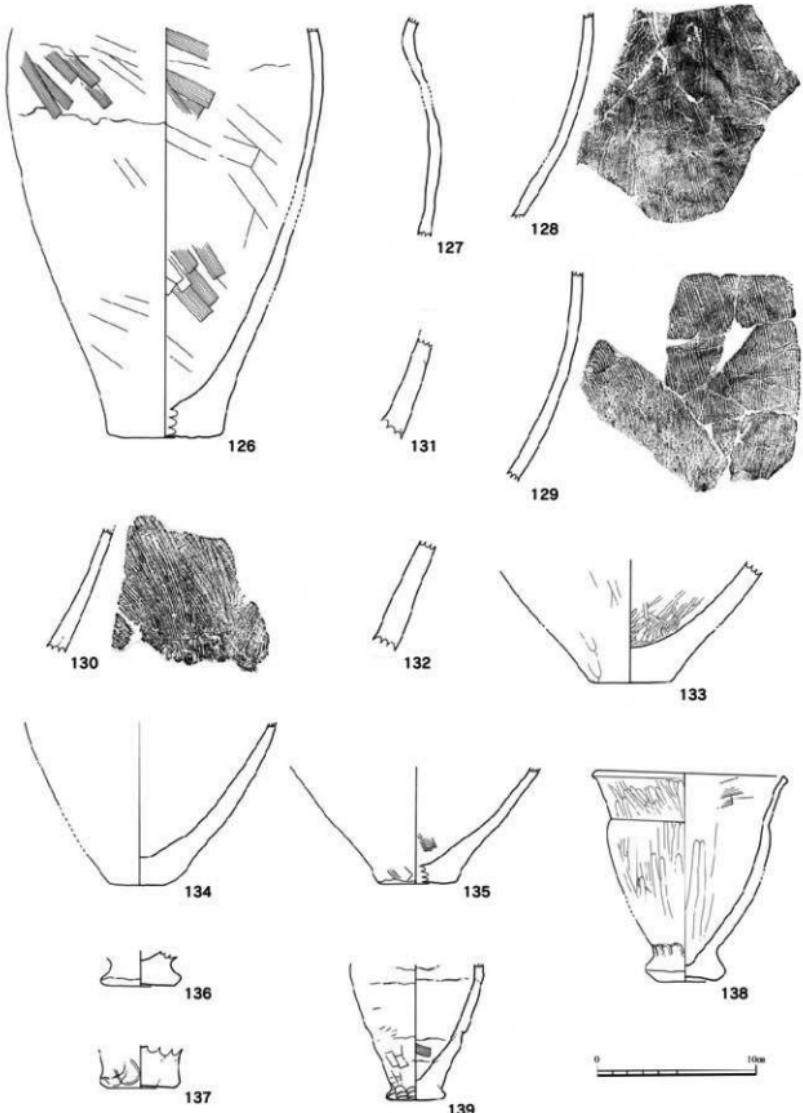
【第21図 4号竖穴住居跡出土遺物実測図① S = 1/3】

I 2 2 は口縁部の破片である。やや強めに外反し、口唇部は面を成形する。外面はハケ目、内面はミガキ調整を施す。I 2 3 は口縁部破片である。やや強めに外反し、口唇部は面をなす。内外面とも風化が著しく、調整は不明。外面は指揮さえの痕が認められる。I 2 4 は口縁部破片で、外反する。口唇部は面を成形するが、端部をわずかにつまみ、外方に向ける。内外面は斜め方向のハケ目調整を施す。I 2 5 は口縁部から頸部の破片である。頸部でわずかに内湾し、口縁部はほぼ直行する。口唇部は面を成形する。外面は縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目調整を施すが、全体的に風化する。I 2 6 は頸部から底部の破片である。胴部最大径は約19.8 cm、底径7.3 cmを測る。内外面とも斜め方向のハケ目やナデ調整を施し、粘土紐のつなぎも認められる。底部は平底で、端部はやや丸みを帯びて上方に向く。I 2 7 は頸部から胴部の破片である。内外面は、ハケ目やナデ調整を施す。I 2 8 、I 2 9 は胴部の破片である。どちらも外面上部は縦・斜め方向のハケ目、下部は工具によるナデ調整を施し、ススが付着する。内面は、斜め方向のナデ調整を施す。同一個体の可能性が考えられる。I 3 0 は胴部の破片である。外面は縦・斜め方向、内面は斜め方向のハケ目調整を施す。I 3 1 は胴部の破片である。内外面等ナデ調整を施す。I 3 2 は底部付近の破片である。外面は縦方向のハケ目、内面は一部ハケ目調整が残る。I 3 3 は胴部から底部の破片である。平底で推定底径は約5 cmを測る。外面は風化しており、縦方向のミガキ調整や丁寧なナデ調整を施すが、わずかに残るのみである。内面は丁寧な縦方向のナデ調整のあとミガキを施す。I 3 4 は胴部から底部の破片である。底部は平底で底径は約4 cmである。端部はやや丸みを帯び、ゆるやかに立ち上がる。外面は縦方向のヘラケズリを、内面はナデ調整を施すが、いずれも風化が著しい。I 3 5 は胴部から底部の破片である。底部は平底でわずかに上げ底気味となる。端部はやや丸みを帯びる。I 3 6 は底部の破片である。平底で底径は約4.5 cmを測る。端部は突出気味につまみだし、脚台状を呈する。内外面ともナデ調整を施す。I 3 7 は底部の破片である。底径は約4.3 cmを測り、平底を呈する。端部をわずかに外方につまみだす。指揮さえの痕も認められるが、粗い仕上げで風化も著しい。I 3 8 は小型の壺である。器高約13 cm、最大径は推定口径で約11.7 cm、胴部径は約10.3 cmを測る。口縁部はわずかに外反し、口唇部は面を成形する。端部はわずかに外方につまみ出す。外面は縦方向のミガキ、内面は口縁部が横方向のハケ目、頸部から底部が縦方向のミガキ調整を施す。底部は平底で底径約4 cm。端部は外方につまみ出し、脚台を呈する。I 3 9 は小型の壺の胴部から底部の破片である。底径は3.4 cmを測り、平底を呈する。端部は外方へつまみだす。指頭痕が鮮明に残る。内外面ともナデ調整で、工具痕が残る。I 4 0 は口縁部の破片である。壺か壺のどちらかと考えられるが判別しがたい。口唇部は外面側をなめらかに丸く仕上げる。外面はナデ、内面は斜め方向のハケ目調整を施す。I 4 1 ～I 4 5 は壺をまとめた。I 4 1 、I 4 2 は複合口縁部の破片である。I 4 1 は風化が著しいが、横方向のハケ目調整のあと、かすかに櫛描文が残る。I 4 2 は口縁部が大きく外反したあと内傾する。屈曲部は粘土のつなぎによりつまみだされ下垂する。口縁端部は上方につまみ出す。櫛描文はなく、内外面ともハケ目調整を施す。I 4 3 は頸部の破片である。外面は横方向のナデ、内面は斜め方向のナデ調整を施す。I 4 4 、I 4 5 は底部である。I 4 4 は推定底径5.8 cmを測る。外面はナデ、内面はハケ目調整を施す。I 4 5 は推定底径4.8 cmを測り、内外面とも縦方向のミガキもしくはナデ調整を施す。I 4 6 ～I 5 0 は鉢である。I 4 6 は口縁部から底部の破片である。口径は13.8 cmを測る。直行する口縁部で口唇部を丸く仕上げる。外面は粗いケズリを、内面は縦・斜め方向のハケ目調整を施す。底部は欠損部分が多く底径は測れなかった。

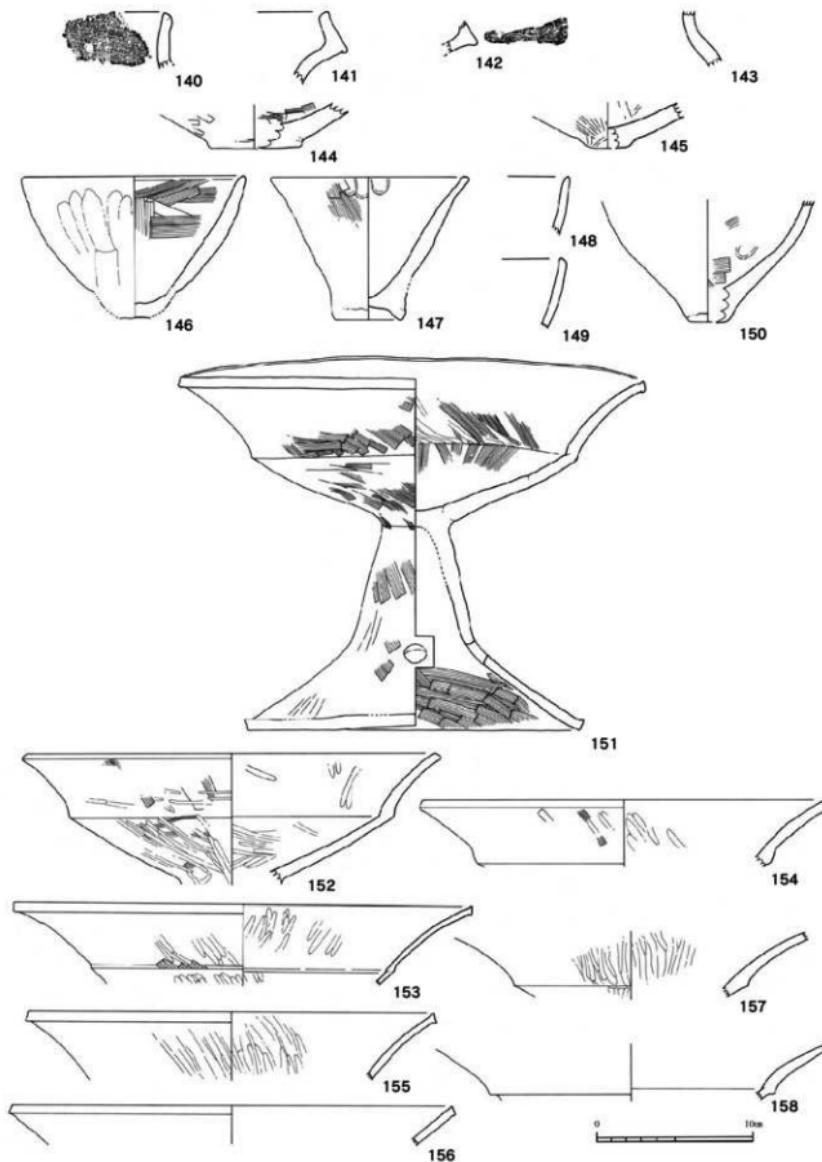


[第22図 4号竖穴住居跡出土遺物実測図② S = 1 / 3]

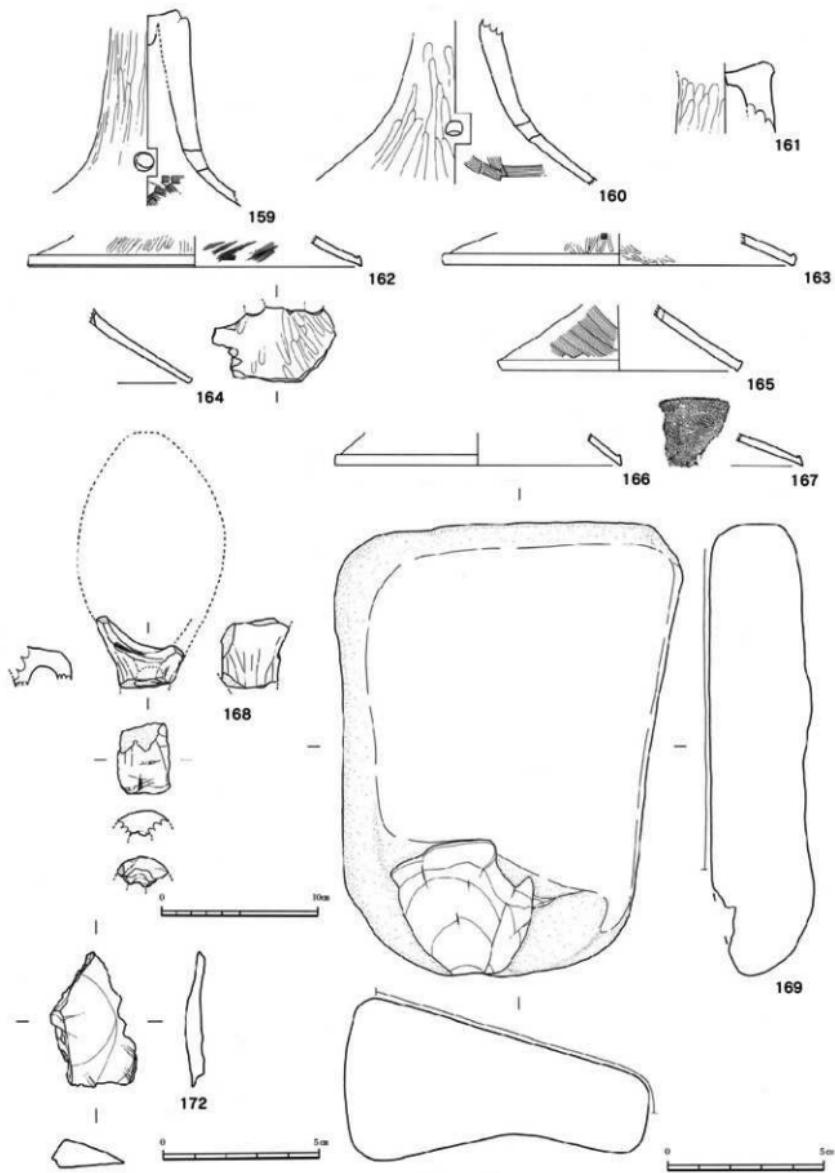
147は口縁から底部の破片である。直行する口縁部で口唇部はやや細く仕上げる。内外面とも風化が著しいが、斜め方向にハケ目調整を施す。底部はナデ調整を施し、上げ底を呈する。148は口縁部破片である。直行する口縁部で口唇部はほぼまる。外面は横・斜め方向にハケ目を、内面には丁寧なナデやハケ目調整を施し、指押さえの痕も認められる。149は口縁部破片である。わずかに内湾し、口唇部は先細る。外面は風化が著しく調整は不明。内面は横・斜め方向のハケ目調整を施す。150は脚部から底部の破片である。推定底径は約2.8 cmを測る。内外面とも風化や粗い仕上げのため調整はわかりづらい。一部にハケ目調整を残す。151～167は高环をまとめた。151は器高約23.8 cm、口径29.5 cm、裾部径21.2 cmを測る。环部口縁部は大きく外反し、外面は横方向のナデ、内面はハケ目、ミガキ調整を施す。脚部はラッパ状に大きく外反し、脚外面は一部ハケ目調整がみられるが風化氣味である。内面はナデや横・斜め方向のハケ目調整を施す。屈曲部に貫通した円形の透かしが入る。一部欠損しているが、間隔から推定して全部で4穴と考えられる。152～158は环部の破片である。152は推定口径約25.9 cmで、屈曲部からゆるやかに外反する。口唇部は面を成形する。外面はハケ目のあとミガキ、内面はミガキ調整を施す。153は他と比べて器壁が薄く、屈曲部から大きく外反する。口唇部はハケ目を施すことで面を成形する。内外面ともミガキを施す。154は屈曲部の器壁は厚く、口縁部はゆるやかに外反する。口唇部は面を成形する。内外面ともミガキを施す。155はゆるやかに外反する口縁部である。推定口径は約25.8 cmを測る。口唇部は横方向のナデ調整を施して面を成形する。内外面ともミガキを施す。156は直行する口縁部で、推定口径は約28 cmを測る。口唇部はナデ調整を施すことで面を成形する。内外面とも丁寧なナデ調整を施す。157、158は屈曲部から大きく外反する破片である。いずれも内外面にミガキ調整を施すが、158は全体的に風化が目立つ。159は脚部の破片で、裾部は欠損する。円盤充填法と考えられる。脚部外面は縦方向のミガキ、内面上半部はナデ、下半部は横・斜め方向のハケ目調整を施す。屈曲部には円形の透かしが4箇所認められる。160は脚部の破片で、裾部、接合部は欠損する。外面は縦方向のミガキ、内面は横・斜め方向のハケ目調整を施す。屈曲部に円形の透かしが4箇所認められる。161は脚部の破片である。受部はナデまたはミガキ、脚外面は縦方向のミガキ調整を施す。内面はナデ調整を施す。内面の天井部には径0.2 mmほどの未穿孔が認められる。162～167は脚部の裾部破片である。162の裾部は大きく外反し、端部は平坦に仕上げ、丁寧なナデ調整を施す。外面は縦方向のナデ、内面は斜め方向のハケ目調整を施す。163の破片は推定裾部径が約22 cmを測る。裾部は大きく外反し、口唇部はナデ調整を施して面を成形するが上方がややふくらむ。外面は主に縦方向のミガキ調整を施す。164の破片は大きく外反し、端部は平坦面を成形する。外面は縦方向のミガキ、内面は斜め方向のハケ目調整を施す。上端部は脚の屈曲部と考えられるが、円形透かしが2箇所認められる。間隔が約3.5 cmである。165の破片は推定裾部径約15 cmを測り、端部は面を成形する。外面は横方向のナデ調整を縦に沿って施し、上部に斜め方向のハケ目、内面は丁寧なナデ調整を施す。166の破片は推定底径約18.2 cmを測る。外面がミガキ、内面は横方向のナデ調整を施す。167の破片は大きく外反し、端部は鋭角に仕上げ、ナデ調整を施す。外面は丁寧なナデ、内面は横・斜め方向にハケ目を施す。168は約子状土器と考えられる。約子部分はナデ調整を施す。取手部分を空洞とし、工具痕が認められる。端部は丸みを帯び、中央にくぼみを設ける。169は砂岩製の砥石である。表面と右側面を砥面として使用する。重量は2.5 kgを超える。170はホルンフェルス製の剥片である。



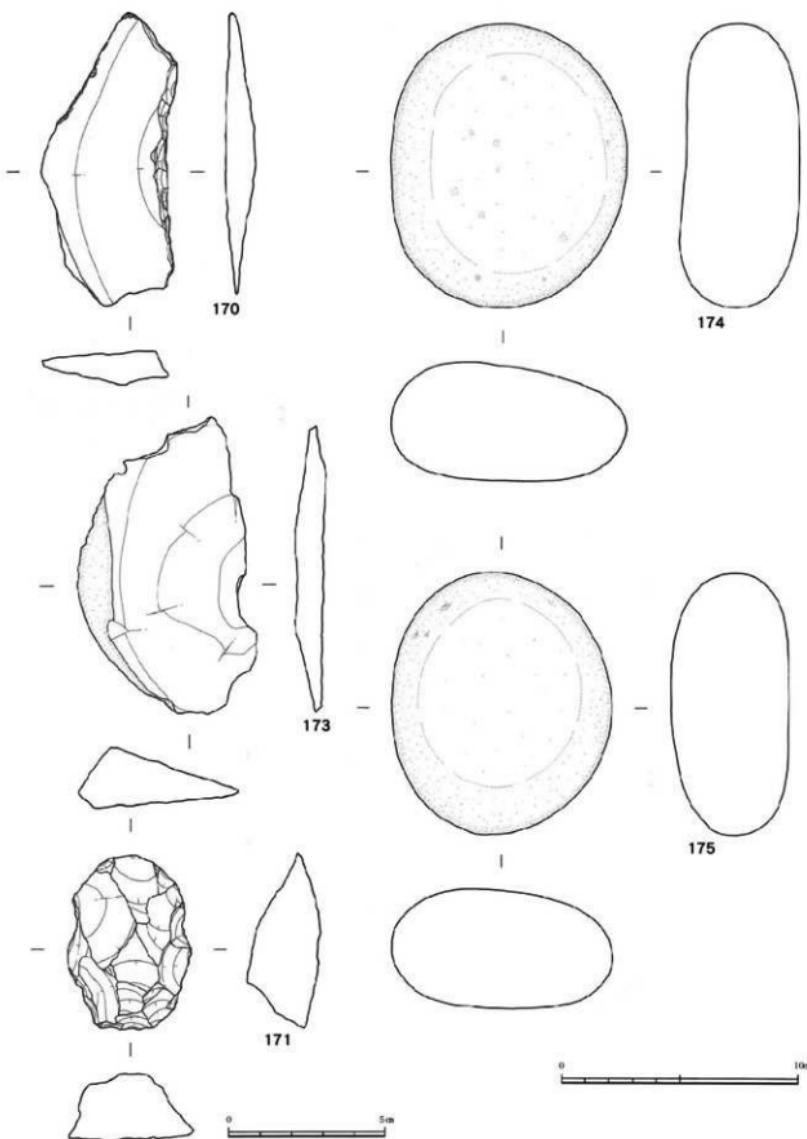
【第23図 4号竪穴住居跡出土遺物実測図③ S=1/3】



【第24図 4号竪穴住居跡出土遺物実測図④ S=1/3】



[第25図 4号竖穴住居跡出土遺物実測図⑤ S=1/3 (159~168) S=2/3 (169 172)]



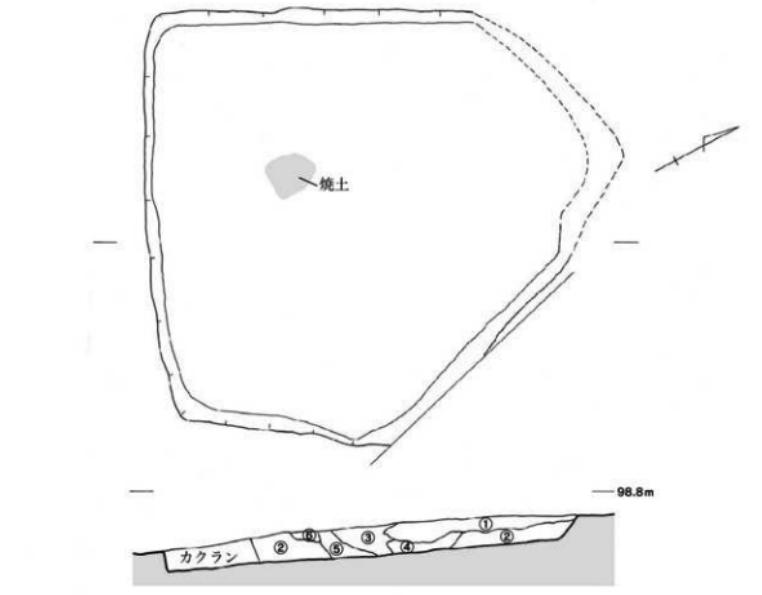
【第26図 4号堅穴住居跡出土遺物実測図⑥ S=2/3 (170~174) S=1/2 (175)】

右側辺に連続した剥離痕が認められるが、風化が激しく刃部等と判断するには困難である。171はホルンフェルス製の剥片である。剥離痕が数カ所認められるが、風化が激しい。172はホルンフェルス製の剥片である。右側辺、左側辺上部などに敲打痕が認められる。173はホルンフェルス製の剥片である。上部、右側辺下部、下部にそれぞれ敲打痕が認められる。174、175は尾鈴山酸性岩類の円礫である。使用形態は不明であるが、全面が砥面のような様相を呈し、石材のもつ性質とは異なる。河川による摩耗か人の使用によるものかその要因は不明である。

170～175までの遺物は、住居埋土中の出土であるが、遺物の形状や石材などから、住居下層の包含層（第IV、V層）からの出土の可能性も考えられる。

## 5号竪穴住居跡と出土遺物

この住居跡は調査区北側B3～C3グリッドに位置する。一部が調査区外にあるものと考えられる。西側や南側などの攪乱により、全容は不明であるが、長辺約3m、短辺約2.8m、検出面からの深さは約15cmで方形プランを基調とすると考えられる。柱穴は確認できなかった。なお、中央部から南西部分にかけて約0.12cm程度の焼土がみられた。遺物は53点を掲載した。

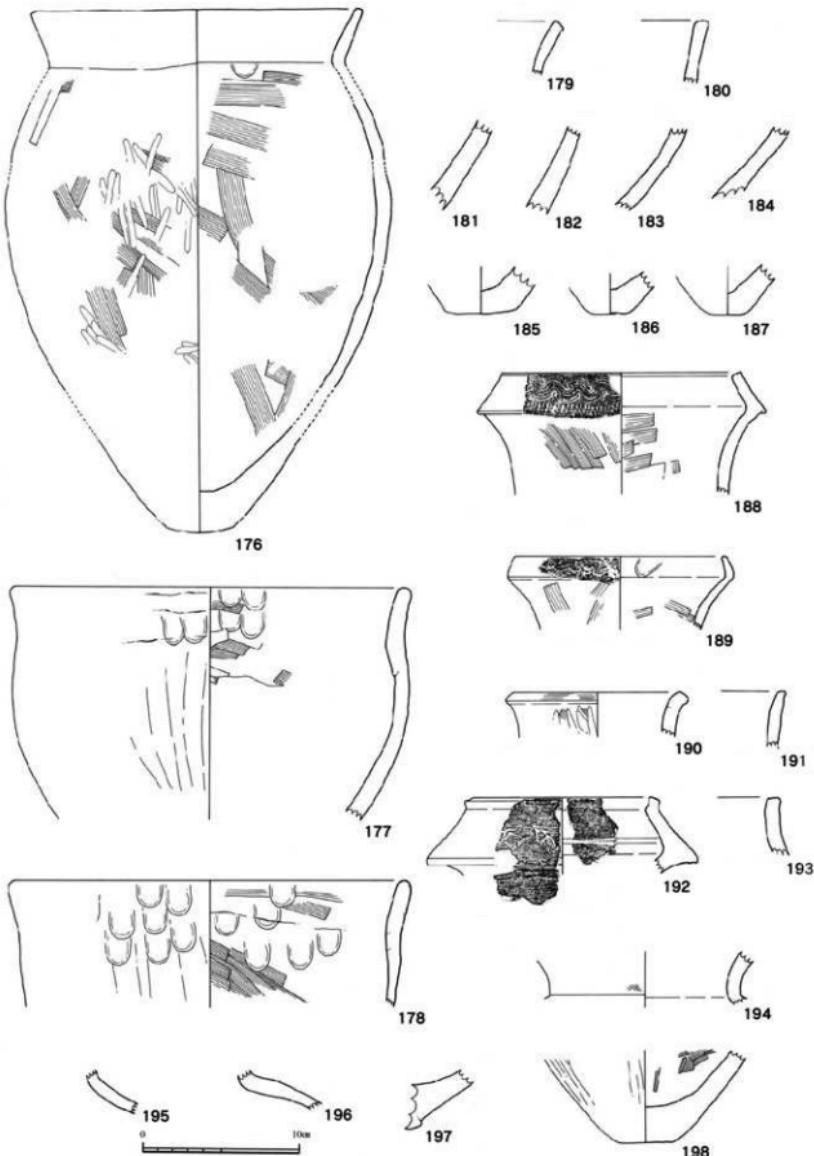


- [SAS]  
 ①褐色土(7. SVR6/6) アカホヤに褐色粘性土が混じる。二次的堆積土である。(平面では不規則形  
 狀に分布)  
 ②燃燒褐色土(7. SVR3/3) 燃燒土。動性がある。  
 ③にじむ褐色土(7. SVR6/3) アカホヤ、褐土、褐色土がブロック状に混じる。  
 ④褐色土(7. DVH4/3) 褐色土。褐色土がブロック状に混じる。  
 ⑤にじむ褐色土(7. SVH6/4) 褐色土。褐色土がブロック状に混じる。  
 ⑥にじむ褐色土(7. SVH6/4) 褐色土。褐色土がブロック状に混じる。

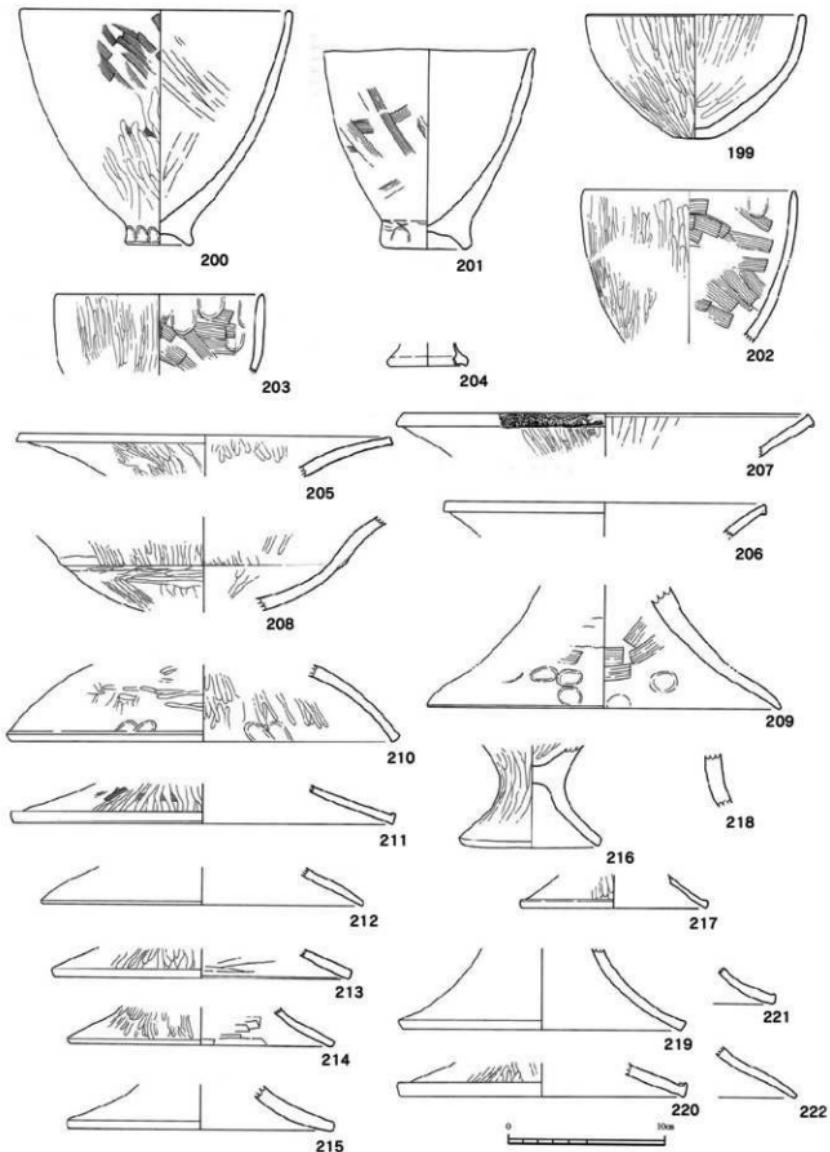
[第27図 5号竪穴住居跡実測図 S=1/40]

176～187は甌である。176は口縁部から底部である。器高約33.4cm、推定口径約20.4cm、底径約4cmである。口縁部は「く」の字に外反し口唇部は面を成形する。胴部は最大径が中位上部にあって、やや張りがある。底部は平底であるが、端部は丸みを帯びる。外面は縦、横方向のハケ目や一部ミガキ、内面は縦、横、斜め方向のハケ目調整を施す。177は口縁部から胴部の破片である。推定口径は約24.8cm、口縁部はわずかに外反し、胴部もやや張る程度である。口唇部は丸く仕上げる。外面は横方向のナデ調整や縦方向の工具痕が認められ、内面はハケ目調整や指押さえの痕も残る。178は口縁部から胴部の破片で推定口径約25cmを測る。口縁部はわずかに外反し、胴部はほとんど張らない。口唇部は丸く仕上げる。外面は縦方向の工具痕や指押さえが認められる。内面は横方向のナデ、横、斜め方向のハケ目調整を施す。179は口縁部破片である。わずかに外反する口縁部で、口唇部は面をなす。外面は斜め方向のハケ目、内面は横方向のナデ、斜め方向のハケ目調整を施す。180は口縁部破片である。口縁部はほぼ直行し、口唇部はやや丸みを帯びて横ナデ調整を施す。口縁部外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のナデ調整を施す。181は胴部破片である。内外面に工具痕がみられるが、風化が著しい。遺物番号89と同一個体の可能性が考えられる。182は底部付近の破片である。外面は縦方向のハケ目調整を施すが、内面は風化が著しく調整不明である。183は底部付近の破片である。内外面とも風化により調整は不明、外面に一部ススが付着する。184は底部付近の破片である。外面は風化氣味で調整が不明だが、一部にススが付着する。内面はナデ調整を施す。185は底部破片である。底径は約4.5cmを測り、端部がやや丸みを帯びる。内外面ともナデ、一部にハケ目調整を施す。186は底部破片である。底径は約2.2cmで端部は丸みを帯びる。内外面ともナデ調整であるが、風化や粗い仕上げとなっている。187は底部破片である。底径は約2.5cmを測り、端部は丸みを帯びる。外面はナデ、内面はハケ目調整を施す。188～199は壺である。188は複合口縁壺の口縁部から頸部の破片である。推定口径は約15.2cmを測り、逆「く」の字状の形状で、口縁部は下部に半截竹管刺突文を2段に、上部に櫛描波状文を上下2段に施す。口唇部は面を成形する。屈曲部下の外面は横方向のナデ、縦方向のハケ目調整、内面は横方向のハケ目調整を施す。189は複合口縁壺の口縁部から頸部の破片である。外面は口縁部に櫛描波状文を2段に施すが、風化が著しい。頸部は縦方向のハケ目調整を施す。内面は風化氣味である。190は口縁部の破片である。ゆるやかに外反する口縁部で推定口径は約10.6cmを測る。口唇部は風化がみられるが、やや丸みを帯びた成形でハケ目調整を施す。外面はミガキ、内面はナデ調整を施す。191は口縁部の破片である。やや外反する口縁部で、口唇部は面を成形するが、外方にややつまみだす。外面は横方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目調整を施す。192は複合口縁壺の口縁部破片である。推定口径は約11.2cmを測る。外反したあと内湾する口縁部はさらに端部を上方につまみ出すように調整される。口唇部は横方向のナデ調整を施して面を成形する。内外面とも横方向のナデ調整を施す。外面は櫛描波状文を施すが、施文は粗い。内面は沈線と考えられる条痕が一条認められる。193は口縁部破片である。ほぼ直行する口縁部で、口唇部は面を成形する。外面は横方向のナデ調整を施す。194は頸部の破片である。内外面に丁寧なナデ調整を施す。195、196は頸部の破片である。いずれも内外面に斜め方向のハケ目調整を施す。197、198は底部の破片である。197の破片は内外面ともナデ調整を施す。198の破片は推定底径約3.4cmを測り、平底である。外面は縦方向にミガキ、内面には斜め方向のハケ目調整を施す。199～203は鉢としてまとめた。199の破片は推定口径約14.0cm、底径約2.7cm

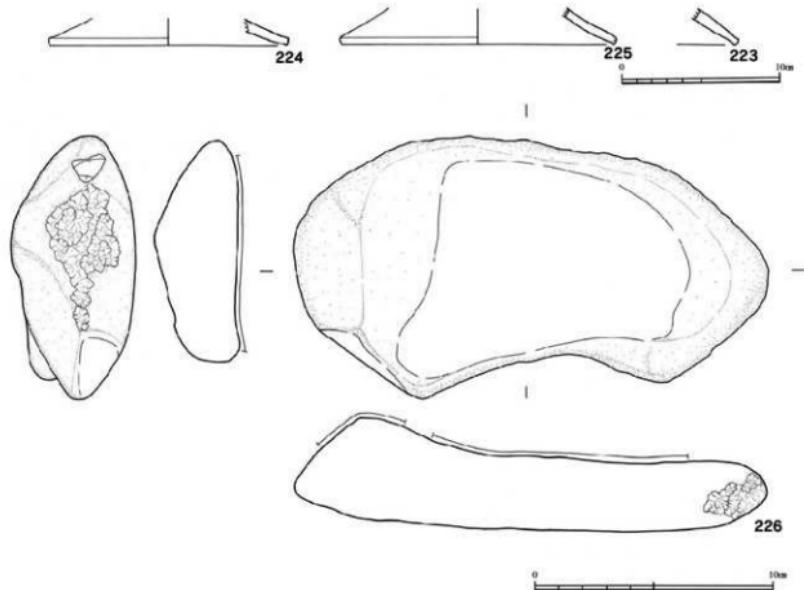
を測り、平底である。内外面ともミガキ調整を施す。200の破片は器高約14.9cm、推定口径約17.4cm、底径約4.1cmを測る。口唇部は面を成形するが、端部はわずかに丸みを帯びる。底部は上げ底で、指押さえの痕も明瞭に残る。調整は外面が斜め方向のハケ目や縦方向のミガキを施し、内面は横方向のナデや斜め方向のミガキを施す。201の破片は器高約12.8cm、口径13.2cm、底径5.4cmを測る。口縁部はわずかに外反し、口唇部は先細る。調整は外面が縦、横、斜め方向にハケ目を内面は横方向のハケ目が一部に認められるが、全体的に風化により不明である。底部は上げ底を呈し、端部はやや外方に向かい、わずかに丸みを帯びる。202、203は口縁から胴部の破片である。推定口径は13.2cmでやや内湾する。口唇部は先細る。外面は縦方向のミガキ、内面は横、斜め方向のハケ目調整を施し、内面には指押さえの痕も認められる。同一個体の可能性も考えられる。204の破片は小型の甕または鉢の底部破片である。小片だが、内外面ともナデ調整と考えられる。推定底径は約4.9cmである。205～225は高杯をまとめた。205～208は杯部の破片である。205の破片は推定口径約23.6cmを測る。内外面にミガキを、口唇部にナデ調整を施す。206の破片はゆるやかに外反する口縁部で推定口径約20.3cmを測る。口唇部はナデ調整を施して面を成形する。外面は斜め方向のミガキ、内面は横方向のナデ調整を施す。207の破片はゆるやかに外反する口縁部で推定口径約25.8cmを測る。口唇部は櫛描波状文を施す。外面はハケ目のあと縦方向のミガキ、内面は縦方向のナデ調整を施す。208の破片は受部からゆるやかに口縁部下に向けて外反する。屈曲部が明瞭である。内外面は横、縦方向のミガキ調整を施す。209～225は脚部の破片である。209の破片は先細りする裾部で、脚裾部径は推定約22.4cmを測る。外面の仕上げが粗く、指押さえの痕が残る。内面はハケ目調整を施す。210の破片は脚部中位から内湾する裾部である。脚裾部径は推定約24cmである。端部は平坦に仕上げる。内外面とも横方向のナデ、ミガキ調整を施す。211の破片は脚裾部径約24.1cmを測る。内面は風化により不明だが、外面は横方向のハケ目のあとミガキ調整を施す。212の破片は先細りする裾部で、脚裾部径は推定約20.3cmである。外面の仕上げが粗く、指押さえの痕が残る。内面はハケ目調整を施す。推定径が異なるが、胎土、形状とも209の遺物と酷似しており、同一個体の可能性も考えられる。213の破片の裾部端部は横方向のミガキを施して面を成形する。脚部裾径は推定約18.6cmを測る。外面は縦方向のミガキ、内面は横、斜め方向に工具痕を残す。214の破片の裾部端部はナデ調整を施して面を成形する。脚裾部径は推定約16.6cmを測る。外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のナデを施す。215の破片の裾部端部はナデ調整を施して面を成形する。脚裾部径は推定約16.8cmを測る。外面はナデ、内面はハケ目を施すと考えられるが、風化が著しい。216の破片は裾部端部をやや丸みをもたせて、上方に反らせる。端部の調整はナデを施す。脚裾部径は推定約8.7cmを測る。外面は縦方向のミガキ、内面はナデを施す。217の破片は脚裾部である。裾部径は推定約11.8cmを測り、端部はナデ調整を施して面を成形する。外面はミガキ、内面は丁寧なナデ調整を施す。218の脚部破片は内外面ともナデ調整を施す。219の破片は脚裾部である。推定の裾部径は約17.6cmを測る。端部はナデ調整を施して面を成形する。外面は端部を横方向のミガキ、その上方は斜め、縦方向のミガキ、内面は斜め方向のミガキ調整を施す。220の破片は脚裾部である。裾部径は推定約18cmである。裾端部はナデ調整を施して面を成形する。それによって端部が押しつぶれたような形状を呈する。外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のナデ調整を施す。221の破片は、裾端部がナデ調整を施すことで面を成形し、それによって端部が上方に盛



【第28図 5号竪穴住居跡出土遺物実測図① S = 1 / 3】



[第29図 5号竪穴住居跡出土遺物実測図② S=1/3]

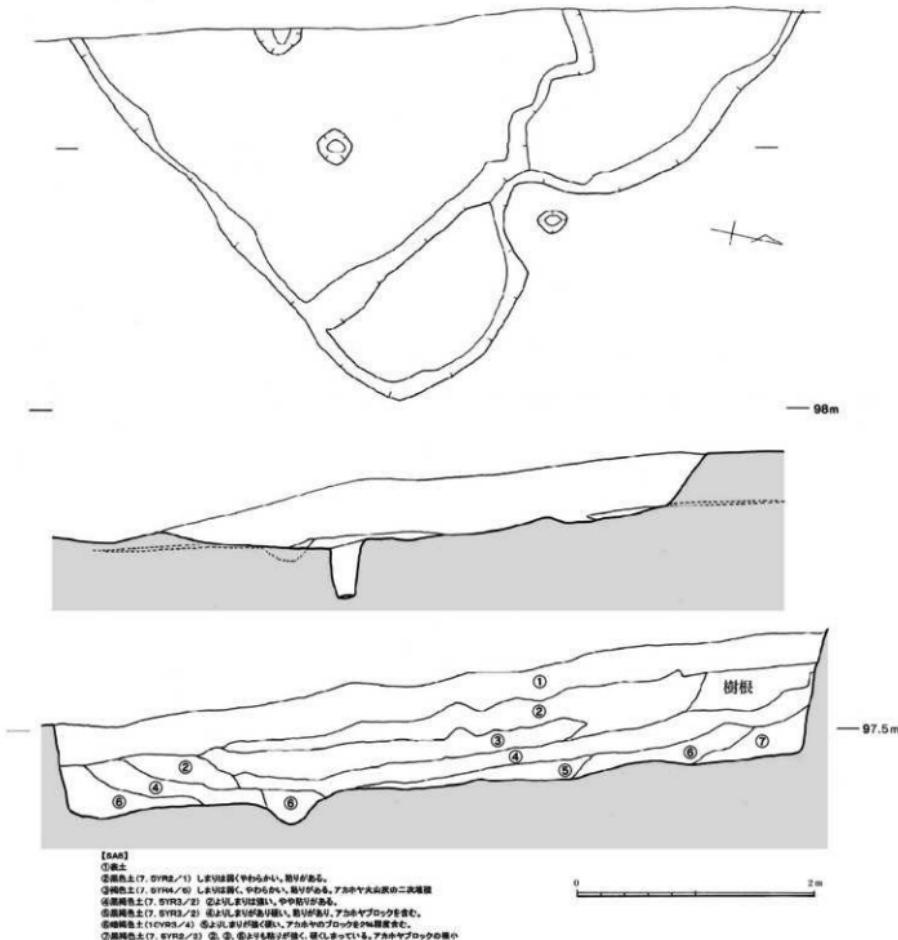


【第30図 5号堅穴住跡出土遺物実測図③ S=1/3 (224 225) S=1/2 (226)】

り上がる。外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のハケ目調整と考えられるが、風化が著しい。222の破片は裾部片で端部は先細り、指押さえの痕も認められる。外面は粗い仕上げで、内面も不定方向にハケ目調整を施す。223、224の破片は脚裾部である。223は、裾端部にナデ調整を施すことによって面を成形する。224は裾端部がナデ調整で面を成形されることによって、端部が押しつぶれたような形状を呈する。225は裾端部をナデ調整によって平坦に仕上げ、それによって端部が下方に下がるような形状を呈する。外面は縦方向のミガキ、内面はナデ調整を施す。226は砂岩製の砥石である。表面の下半分、下側面を砥面として使用し、下側面はさらに敲打痕が認められる。

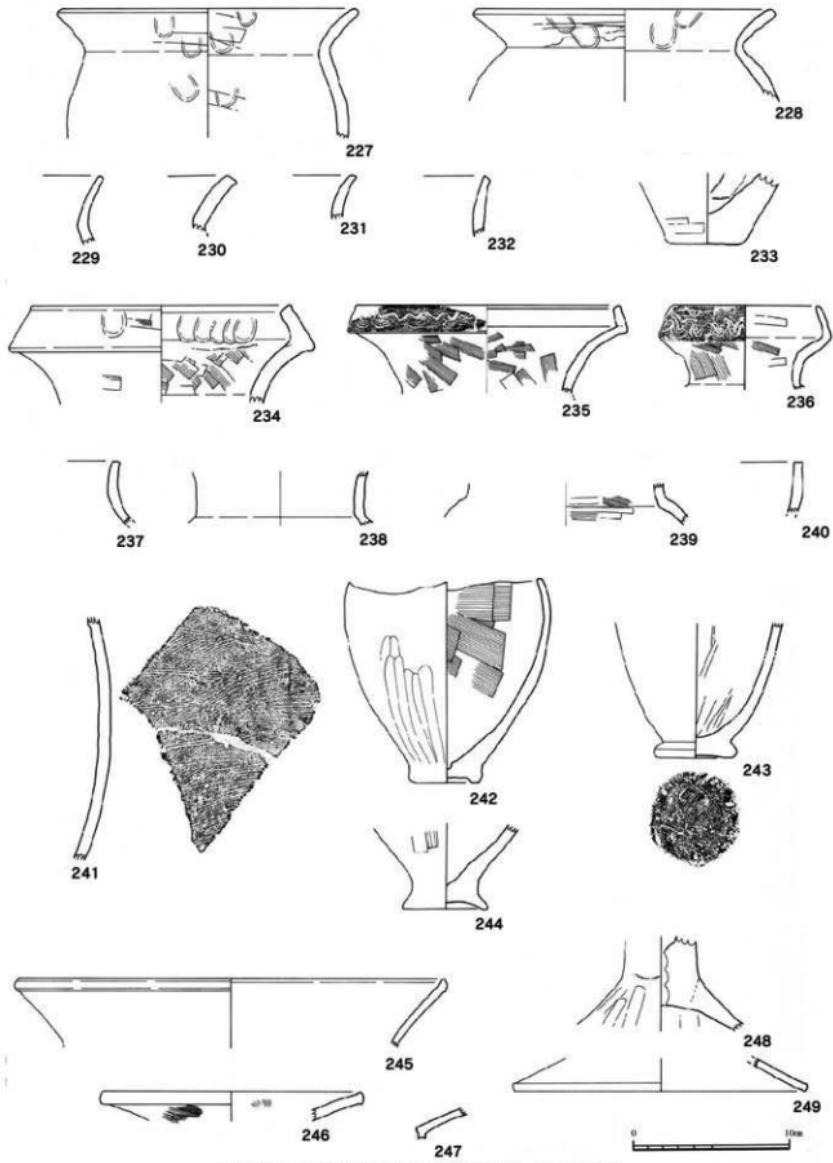
## 6号竪穴住居跡と出土遺物

この住居跡は、調査区中央部の西側に位置し、一部が調査区外に存在する。長軸約5m、短軸約4.3m、検出面からの深さは最深部で約70cmを測り、内部突出壁とベッド状造構をもつ。ベッド状造構部分の床面積は約3.2m<sup>2</sup>で、これらを含む総床面積は約9.6m<sup>2</sup>である。突出壁は、床面からの現行約0.5mで北東隅より約1.8mの位置に築かれ南へ向けて約0.6m突出する。柱穴は、径約30cm～40cmで床面からの深さは、約40～50cmである。なお、土層断面は西側の調査区壁面を記したものである。

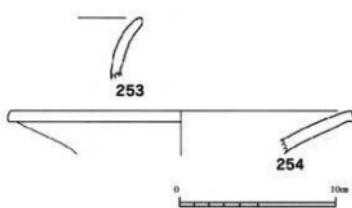
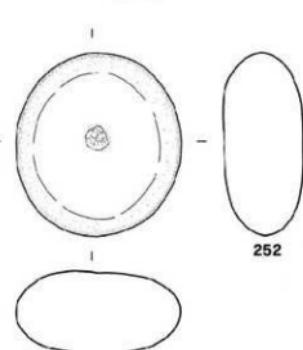
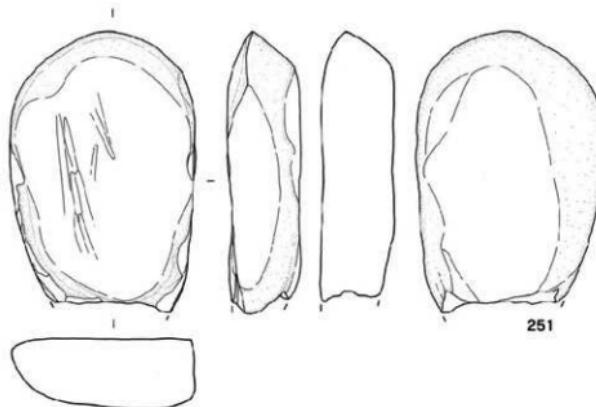
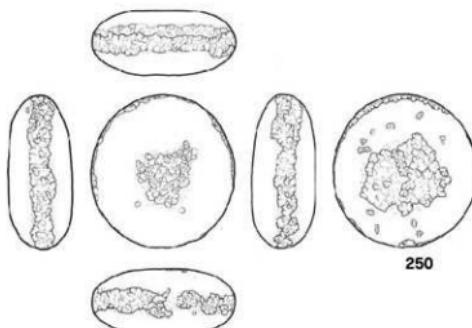


【第31図 6号竪穴住居跡 実測図1/40】

遺物は、26点を掲載した。227～232は壺をまとめた。227は口縁部から胴部の破片である。「く」の字状に外反する口縁部で、推定の口径は約18.6cmを測る。口唇部は平坦に仕上げ、胴部の張りは強くはない。外面は横方向のナデ、内面は横・斜め方向にナデを施す。外面にはススが付着し、指押さえの痕も認められる。228は口縁部から頸部の破片である。推定の口径は約18.6cmを測る。口唇部は面を成形し、頸部は227よりも強く内傾する。内外面ともナデを施す。外面にはススが付着し、指押さえの痕も認められる。229は口縁部から頸部の破片である。外反する口縁部はわずかに先細り気味で端部は面を成形する。外面は斜め方向のナデ、内面は斜め方向のハケ目を施す。230は「く」の字状を呈する口縁部の破片で、口唇部は面を成形する。外面は縦方向のハケ目、内面は斜め方向のハケ目を施す。231は口縁部の破片で外反する。内外面とも横・斜め方向のハケ目を施す。232は口縁部破片である。ほぼ直行の口縁部で、口唇部は面を成形する。内外面ともナデを施すが、風化が著しい。233は壺または壺の底部破片である。底径は約4.7cmを測る。平底で端部はやや丸みを帯びる。外面に横方向のハケ目、内面はナデ調整を施すと考えられるが、風化により不明な箇所が多い。234は複合口縁壺の口縁部から頸部の破片である。推定口径は約16.2cmを測る。外反したのち内湾する口縁部で、口唇部は面を成形する。外面側の端部をつまみあげている。外面に櫛描は認められず、指押さえの痕が残る。内面は指押さえの痕、斜め方向のハケ目調整を施す。235は複合口縁壺の口縁部から頸部の破片である。外反したのち、わずかに内湾する口縁部で、推定口径は約16.4cmを測る。外面は口縁部に5条の櫛描文を施し、頸部外面はハケ目、内面はハケ目調整を施す。236は複合口縁壺の口縁部から頸部である。推定口径は約9cmである。外反したのちゆるやかに内湾する口縁部で、口唇部は先細る。外面には櫛描文が施される。頸部外面は斜め・縦方向のハケ目、内面は横方向のハケ目調整を施す。237は壺の口縁部破片である。ほぼ直行する口縁部で、口唇部はナデ調整を施して面を成形する。内外面ともハケ目調整を施す。238は壺の頸部破片である。内外面ともハケ目調整を施す。239は壺の頸部から肩部の破片である。外面はナデ、内面は横・斜め方向のハケ目調整を施す。240は鉢の口縁部破片である。ほぼ直行する口縁部で、口唇部は面を成形する。内外面ともナデ調整を施し、指押さえの痕も認められる。241は壺または壺の胴部破片である。内外面とも横・斜め方向のハケ目調整を施す。242は鉢である。ほぼ完形で器高約12.8cm、口径は約12.1cmを測る。内湾する口縁部で、口唇部を面成形する。外面は縦方向のミガキ、内面はハケ目調整を施す。底部は上げ底で、底径約4.2cmを測る。端部は丸みを帯びる。243は胴部から底部の破片である。底径は約4.8cmを測り、端部は丸みを帯びて外方に向かう。底部外面には植物の繊維痕が認められる。外面はハケ目、内面はミガキ調整を施す。244は小型壺の胴部から底部の破片である。底径は約5.4cmを測る。上げ底で、端部は外方へ向かう。内外面とも一部ハケ目調整が認められるが、全体的に風化している。245～247は高环の破片である。245の环部破片は推定口径約26.8cmを測る。口唇部は四線文的な成形を施す。外面はミガキ、内面は横方向のナデ調整を施す。246の环部破片は推定口径約16.2cmを測る。口唇部は丸みを帯び、横方向のナデ調整を施す。外面は横・斜め方向のハケ目、内面は端部が横方向のナデ、端部以外は斜め方向のハケ目調整を施す。247は环部の屈曲部分である。内外面とも縦方向のミガキ調整を施す。248は脚部の破片である。全体的に風化し調整は不明であるが、一部にミガキまたはナデ調整がみられる。外面に柱部と脚部とのつなぎ目が認められる。249は脚裾部の破片である。推定の裾部径は約18.4cmを測る。



[第32図 6号竪穴住居跡出土遺物実測図① S=1/3]



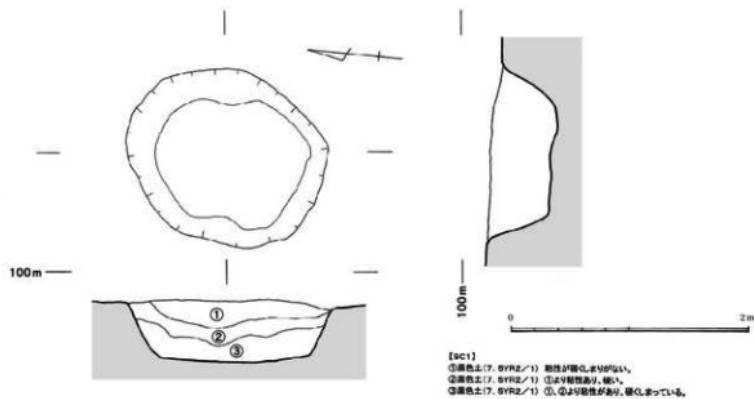
【第33図 6号竪穴住居跡出土遺物実測図② 2号土坑出土遺物実測図 S=1/3】

外面はミガキを施すが、風化が著しい。内面は調整不明である。250は尾鉛山酸性岩類製の敲石・磨石である。磨石として使用していたものを敲石に転用したものと考えられる。表・裏面の敲打痕以外の部分はすべて磨面であり、表・裏・側面全面に敲打痕が認められる。251は砂岩製の砥石である。表面と右側面を砥面としている。表面にはくぼみも認められる。252は尾鉛山酸性岩類製の磨石・敲石である。表・裏面とも中央付近には敲打痕が認められる。253は2号土坑出土の甕の口縁部破片である。口縁部はゆるやかに外反し、口唇部は先細る。内外面とも横方向のハケ目調整を施す。254は2号土坑出土の高杯の杯部破片である。推定口径は約21.5cmを測る。口唇部は横方向のナデ調整を施して面を成形する。外面はミガキ、内面は横方向のナデ調整を施す。外面は朱を塗布している。

## (2) 土坑

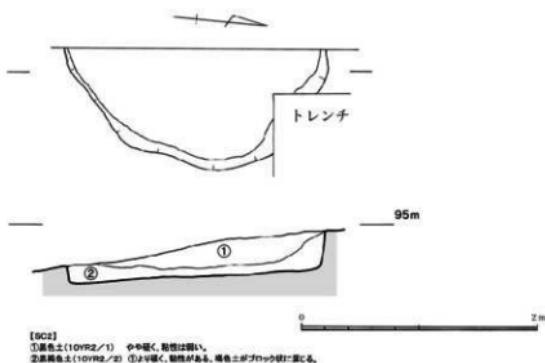
### 1号土坑

この遺構は、調査区北側SA1の南側に検出した。長軸約1.7m、短軸約1.5m、検出面からの深さは、約60cmを測る。床面積は約1.1m<sup>2</sup>である。遺物は土器細片数点で掲載するほどではなかった。



### 2号土坑

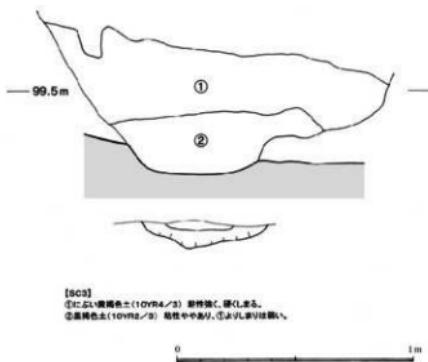
この遺構は、調査区南側SP1の西側に位置し、一部は調査区外である。長軸は約2.1mで、短軸は不明である。検出面からの深さは、30~40cmを測る。床面積は約1.4m<sup>2</sup>である。遺物は土器を2点掲載した。



[第35図 2号土坑実測図 S=1/40]

### 3号土坑

この遺構は、調査区北側の第IV層の調査の段階で確認したものである。壁面の位置にあったことからS A I の検出時には判別が困難であった。第IV層面での検出時にはほとんどが調査区外にあり、わずかに一部(床上)を確認できたにすぎない。出土した遺物の位置や弥生土器の特徴をもつこと、遺構検出面のレベルなどから、S A I 内の土坑の可能性も考えられる。



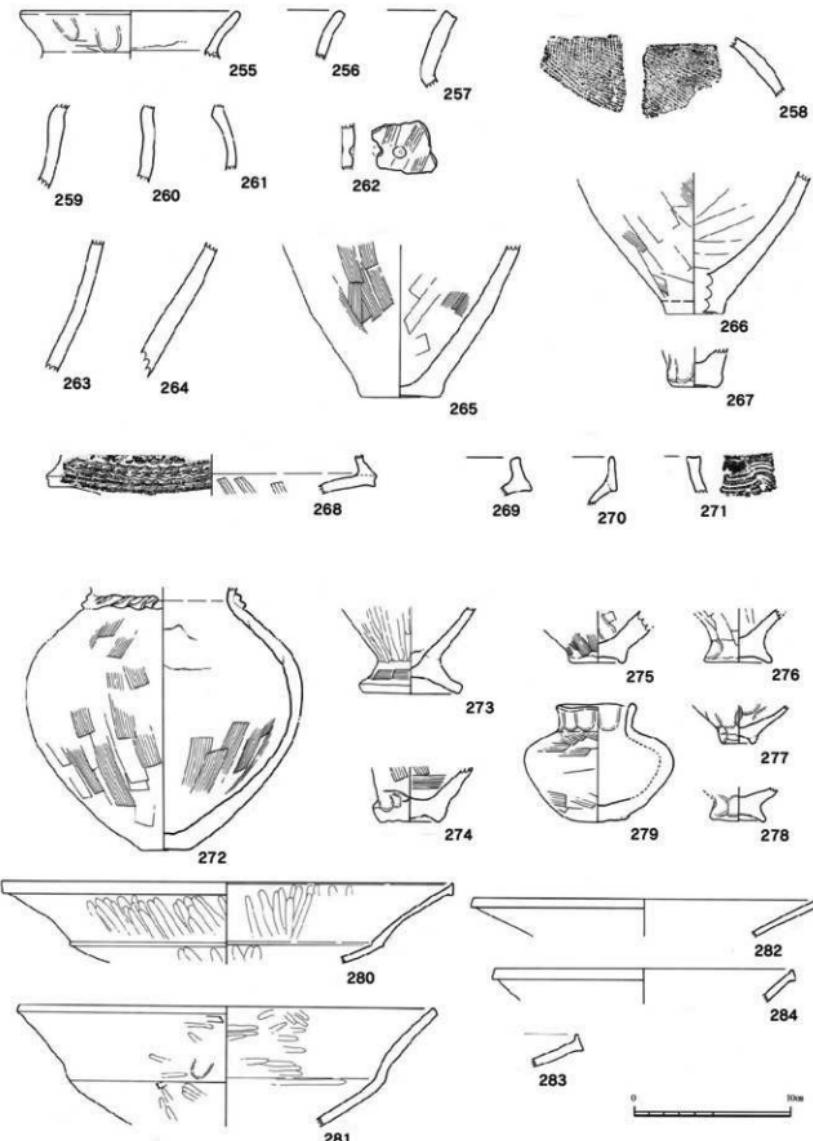
[第36図 3号土坑実測図 S=1/20]

### (3) 第II層出土の遺物

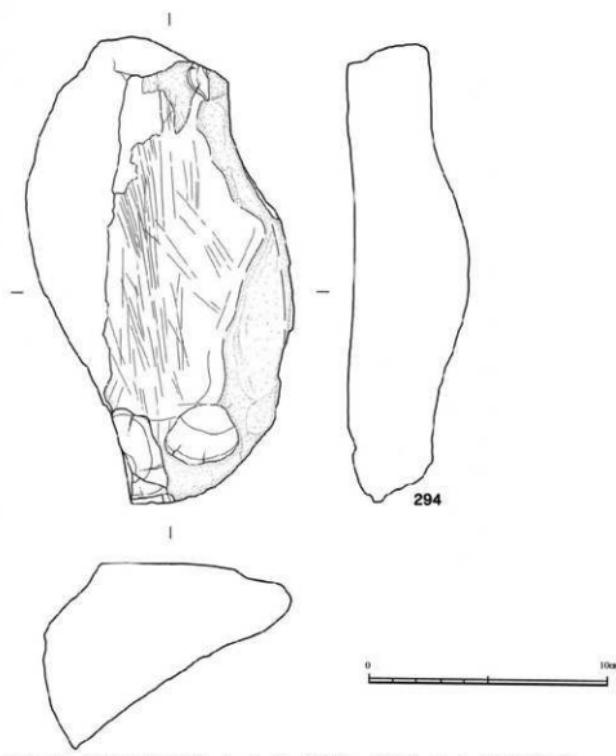
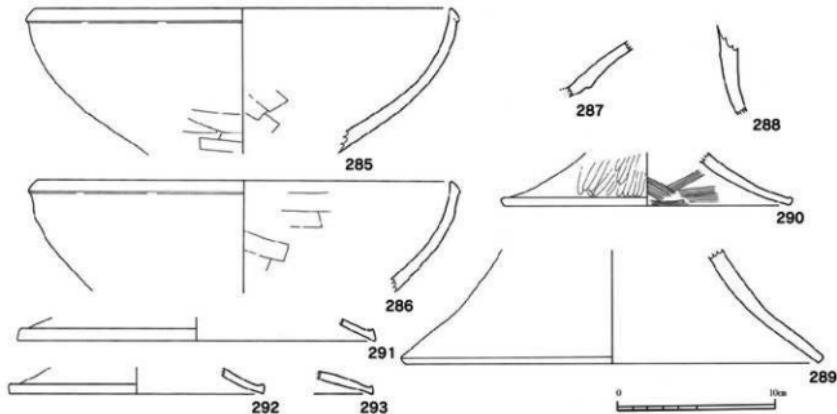
第III層の鬼界アカホヤ火山灰層上面までの掘削において出土した遺物から39点を掲載した。255は壺の口縁部破片である。推定口径は13.8cmを測る。外反する口縁部で、口唇部は先細る。外面は横方向のハケ目を施すが、風化により不明な箇所が多い。内面は風化により調整不明である。256は壺または壺の口縁部破片である。口縁部はわずかに外反し、口唇部はナデ調整を施して面をなす。外面

は横方向のナデ、内面は横方向のハケ目調整を施す。257は甕または壺の口縁部破片である。口縁部はわずかに外反し、口唇部は面をなす。内外面は風化により調整は不明である。258は甕または壺の胴部の破片である。内外面は斜め方向のハケ目調整を施す。259は小型の甕の頭部から胴部の破片である。内外面はナデ調整を施す。内面には指押さえの痕も認められる。260は甕の頭部から胴部の破片である。外面は頭部にハケ目調整のあとが認められるが、胴部は風化が著しく不明である。内面は斜め方向のハケ目調整を施す。261は甕の頭部から胴部の破片である。やや張りのある胴部である。外面はナデやハケ目調整を施すが、粗い仕上げである。内面は横方向のハケ目調整を施す。262は甕または壺の胴部片である。内外面は一部ハケ目調整を残すが風化が著しい。外面には未貫通の穿孔が一箇所残り、端部には穿孔した箇所の折損がみられる。263は甕の胴部破片である。内外面は斜め方向のハケ目調整を施す。264は甕または壺の胴部破片である。外面は粗い仕上げで、一部ハケ目調整が認められる。内面は縦方向のハケ目調整を施す。265は甕の胴部から底部の破片である。底径は約5cmを測り、平底を呈する。底部外面はナデ、胴部外面は縦方向のハケ目を内面は斜め方向のハケ目調整を施すが、両面とも全体的に風化している。外面はススも付着する。266は甕の胴部から底部の破片である。底部はやや上げ底で推定底径は約3.6cmを測る。底部外面はナデ調整を、胴部外面は斜め・横方向のナデ調整を施す。267は甕の底部破片である。底部は平底で底径は約2.6cmを測る。内外面ともナデ調整を施す。268は複合口縁壺の口縁部破片である。推定口径は約18.4cmを測る。大きく外反したのちやや内湾気味に立ち上がるが、外反した頭部に口縁部を貼り付けた成形が認められる。また、端部は丁寧なナデ調整を施す。口縁部外面は櫛描波状文を、頭部外面は縦方向のハケ目を施す。内面はミガキ調整を施す。269は複合口縁壺の口縁部破片である。大きく外反したのちやや内湾気味に立ち上がる。270は複合口縁壺の口縁部破片である。口縁部は外反したのち直行する。口唇部は先細る。外面は一部に櫛描波状文が残るが風化しており不明。内面も風化により不明。271は壺の口縁部破片であるが、複合口縁と考えられる。口唇部は四線状の浅いくぼみをもつ。外面は櫛描波状文、内面は横方向のナデ調整を施す。272は壺の頭部から底部の破片である。胴部最大径は中位にあり、約17.6cmを測る。頭部には刻み突帶を貼り付ける。底部は底径約3.5cmをはかり、平底を呈する。内外面とも縦方向のハケ目調整を施すが、全体的に風化気味である。273は小型土器の胴部から底部の破片である。底部は上げ底で、底径約6cmを測る。底部裏面はナデやハケ目調整を施し、外面は底部がハケ目、胴部は縦方向のミガキ調整を、内面はナデ調整を施す。274は小型土器の底部破片である。底径約3.8cmであるが、指押さえの痕が明瞭で、製作途中であるかのような粗い成形である。そのため、外面の調整は不明である。内面はハケ目調整が認められる。275は甕または壺の底部破片である。上げ底で底径約3.4cmを測る。底部裏面はナデ調整、外面は縦方向のハケ目調整を施す。指押さえの痕も認められる。内面は一部で工具痕、主にナデ調整を施す。276も甕または壺の底部破片である。上げ底で端部は外方に向かう。底径は約4.2cmを測る。底部裏面はナデ調整、外面は縦方向の工具痕、内面は主にナデ調整を施す。外面には指押さえの痕も明瞭に残る。277は小型土器の底部破片である。底部は上げ底で高台状を呈し、径は約2cmを測る。外面は指押さえの痕がみられ、内面も指ナデの調整を施す。278は小型土器の底部破片である。上げ底で端部は外方に向く。径は約3.3cmを測る。内外面とも風化が著しく調整は不明であるが、わずかに指押さえの痕が認められる。279はほぼ完形の小型の壺である。器高約7.5cm、口径は約4.7cm、最大径は肩部もしくは胴部上位で

9.5 cmを測る。口縁部はわずかに外反し、口唇部を平坦に仕上げる。底部は成形が完全ではないものの基本的には丸底と考えられる。外面はハケ目、内面はナデ調整が施される。280は高坏の坏部破片である。推定口径は約29.0 cmを測る。屈曲部から大きく外反し、口唇部はナデ調整により面をなす。内外面ともにミガキ調整を施す。281は高坏の坏部破片である。推定口径は約26.4 cmを測る。屈曲部の稜はなだらかで、ゆるやかに外反する。口唇部はナデ調整を施し、面をなす。内外面とも横・斜め方向にミガキ調整を施す。282は高坏の坏部破片である。口唇部はナデ調整により面をなす。外面はミガキ調整が一部残るが、内面は風化により調整は不明である。283は高坏の坏部破片である。口唇部はナデ調整を施すが、調整によって断面がL字状の成形をなす。内外面とも縦方向のミガキ調整を施す。284は高坏の坏部破片である。推定口径は約19 cmを測る。口唇部はナデ調整により面をなすが、一部は外方にはみ出る。内外面とも縦方向のミガキ調整を施す。285、286は鉢の破片である。口径は約26.2 cmをはかる。口唇部はナデ調整を施す。内外面は風化により調整は不明である。胎土、形状などから同一個体の可能性が高い。287は高坏の坏部破片である。屈曲部周辺で外面は横方向のハケ目、内面は縦方向のミガキ調整を施す。288は高坏の脚部破片である。外面はハケ目、内面はナデ調整と考えられるが風化が著しい。289は高坏の脚部破片である。裾部径は推定約26 cmを測る。端部は面を成形する。内外面とも一部にミガキ調整が残るが、風化が著しい。290は高坏の脚裾部破片である。推定底径は約18.2 cmを測る。裾部端部は平面に仕上げ、端部は上方に盛り上がる。丁寧なナデ調整を施す。外面は縦方向のミガキ、内面は横、斜め方向のハケ目調整を施す。291は高坏の脚部破片である。脚裾部はナデ調整を施し平坦に仕上げる。外面は縦方向のミガキ、内面はハケ目調整であるが、端部付近は丁寧なナデ調整を施す。292は高坏の脚裾部破片である。裾部径は推定約16 cmである。裾部端部はナデ調整を施して平面に仕上げ、端部は上方に盛り上がる。外面は縦方向のミガキ、内面は横方向のハケ目を施す。293は高坏の脚裾部破片である。裾部端部はナデ調整を施して平面に仕上げ、一部は上方に盛り上がる。外面は風化により調整は不明。内面は横、斜め方向のハケ目調整を施す。294はホルンフェルス製の砥石である。表面のみが使用され、縦や斜めに細い条痕が残る。



【第37図 第II層出土遺物① S=1/3】



[第38図 第II層出土遺物② S=1/3 (285~293) S=1/2 (294)]

番号	種別	部	部位	出土 地點	法面(AN)			手法・調整・文様ほか			形成	色調			跡土の特徴	備考		
					口面	底面	側面	外面		内面		外面	内面	外面	内面			
								外	内	外	内							
8	縫合	深鉢	口縫部	SPI	23. 6			斜め方向の具鉢条文 風化気味	丁寧なナデ	良好	に深い黄褐色	浅黄	1mmの大粒の白色粒をわずかに含む。 1mmの大粒の白色粒を多く含む。	1mmの大粒の白色粒をわずかに含む。 1mmの大粒の白色粒を多く含む。	後作事 口縫部 1/6			
9	"	深鉢	"	"				横方向の具鉢条文 風化気味 指押さえ	丁寧なナデ 一部指押さえ	"	に深い黄褐色	褐灰	微細な透明の光沢粒を含む。 微細な灰白色粒を含む。	微細な透明の光沢粒を含む。	スヌ付書			
10	"	深鉢	頭部	"				横方向の具鉢条文 全体的に風化	丁寧なナデ	"	に深い黄褐色	黒褐	微細な透明の光沢粒を含む。 1mm以下の灰白色粒を含む。	微細な透明の光沢粒を含む。	スヌ付書			
11	"	深鉢	頭部	"				横・斜め方向の具鉢条文 風化気味 一部風化	丁寧なナデ	"	に深い黄褐色	灰褐	2mm以下のに深い黄褐色を含む。 微細な白色粒を含む。	2mm以下のに深い黄褐色を含む。 微細な白色粒を含む。	後作事 頭部 1/2			
12	"	小型鉢	頭部・底部	"	5. 2			風化著しい	丁寧なナデ	"	浅黄褐	に深い黄褐色	微細な白色粒をわずかに含む。	微細な白色粒を含む。	後作事 底部 100%			
13	"	深鉢	口縫部	V面				条痕のあと指押さえ	条痕のあと指押さえ	"	に深い黄褐色	に深い褐	2mm以下の黄褐色・に深い褐色・2mm程度 の白色・黑色光沢粒を含む。	2mm以下の黄褐色・に深い褐色・2mm程度 の白色・黑色光沢粒を含む。	後作事			
14	"	深鉢	口縫部	"				横方向のナデ	横方向のナデ 指押 痕	"	に深い褐	に深い褐	微細な白色粒を含む。 1mmの大粒の黑色光沢粒を含む。	微細な白色粒を含む。 1mmの大粒の黑色光沢粒を含む。	後作事 スヌ付書			
15	"	深鉢	頭部	IV面				ナデ	ナデ	"	に深い黄褐色	灰褐	1mm以下のに深い黄褐色を含む。 2mm以下の灰白色粒を含む。	1mm以下のに深い黄褐色を含む。 2mm以下の灰白色粒を含む。	後作事			
16	"	深鉢	頭部	一括				ナデ 指押さえ	ナデ 指押さえ	"	に深い褐	に深い褐	Z. 5mm以下の灰白色粒、黑色光沢粒を含む。 2mm以下のに深い褐色を含む。 1mm以下の反褐色を含む。	Z. 5mm以下の灰白色粒、黑色光沢粒を含む。 2mm以下のに深い褐色を含む。 1mm以下の反褐色を含む。	後作事			
17	"	深鉢	カクラ ン					ナデ	ナデ 指押さえ	"	に深い黄褐色	褐灰	6mm以下のに深い褐色・反白色粒を含む。 1mm程度の黒色・不透明の光沢粒を含む。	6mm以下のに深い褐色・反白色粒を含む。 1mm程度の黒色・不透明の光沢粒を含む。	後作事			
18	"	深鉢	頭部	一括				一部剥離	やや風化	"	に深い褐	に深い褐	1mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な白色粒、透明の光沢粒を含む。	1mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な白色粒、透明の光沢粒を含む。	後作事			
19	"	深鉢	頭部	V面				著しい風化	著しい風化 工具痕	"	浅黄褐	浅黄褐	微細な白色粒を含む。	微細な白色粒を含む。	後作事			
20	"	深鉢	頭部	"				指押さえ	ナデ 指押さえ	"	褐	に深い褐	1mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	1mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	スヌ付書			
21	"	深鉢	頭部	"				斜め方向のナデ 指押さえ 全体的に風化	ナデ 新しい風化	"	に深い褐	に深い褐	1mm以下の透明な光沢粒を含む。 1mm以下の灰白色粒を含む。	1mm以下の透明な光沢粒を含む。 1mm以下の灰白色粒を含む。	赤色系背景			
22	"	深鉢	口縫部	IV面				具鉢縫刺突文 横方向の具鉢条文	横方向の具鉢条文 赤色光沢粒	"	に深い黄褐色	に深い褐	1. 5mm以下の灰白色・に深い黄褐色・黑色光沢 粒を含む。	1. 5mm以下の灰白色・に深い黄褐色・黑色光沢 粒を含む。	赤色系背景			
23	"	深鉢	口縫部	カクラ ン				具鉢縫刺突文 横方向の具鉢条文	横方向の具鉢条文 赤色光沢粒	"	に深い黄褐色	に深い褐	1mm以下の反白色・に深い褐色・浅黄褐色・ 黑色の粒を含む。	1mm以下の反白色・に深い褐色・浅黄褐色・ 黑色の粒を含む。	赤色系背景 スヌ付書			
24	"	深鉢	口縫部	一括				具鉢縫刺突文 新しい風化	丁寧なナデ	"	に深い黄褐色	に深い黄褐色	1mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	1mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	スヌ付書			
25	"	深鉢	口縫部	IV面				横・斜め方向の具鉢 条文	丁寧なナデ 風化気味	"	に深い黄褐色	浅黄褐	1mmの大粒の白色粒を含む。 黑色・透明の光沢粒を含む。	1mmの大粒の白色粒を含む。 黑色・透明の光沢粒を含む。	スヌ付書			
26	"	深鉢	口縫部	"				横方向の具鉢条文 具鉢縫刺突文	丁寧なナデ 新しい風化	"	に深い黄褐色	灰褐	1~2mmの大粒に深い褐色・白色粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	1~2mmの大粒に深い褐色・白色粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。				
27	"	深鉢	口縫部	"				斜め方向の具鉢条文 風化気味	丁寧なナデ	"	に深い黄褐色	に深い褐	1~2mmの大粒の褐色粒を含む。 1mmの大粒の白色粒を含む。	1~2mmの大粒の褐色粒を含む。 1mmの大粒の白色粒を含む。				
28	"	深鉢	口縫部	"				丁寧なナデ 風化気味 具鉢縫刺突文	ナデ	"	に深い黄褐色	浅黄褐	1mmの大粒の白色粒を含む。 黑色・透明の光沢粒を含む。	1mmの大粒の白色粒を含む。 黑色・透明の光沢粒を含む。				
29	"	深鉢	口縫部	"				著しい風化	丁寧なナデ	"	に深い黄褐色	に深い褐	2mm以下の反白色粒を含む。 1mm以下の反白色粒を多く含む。 微細な白色粒を多く含む。	2mm以下の反白色粒を含む。 1mm以下の反白色粒を多く含む。 微細な白色粒を多く含む。				
30	"	深鉢	口縫部	"				斜め方向の具鉢条文 指押さえ	丁寧なナデ 指押さえ	"	に深い黄褐色	に深い褐	2mm以下の透明な光沢粒を含む。 1mm以下の反白色粒を含む。 微細な透明の光沢粒を多く含む。	2mm以下の透明な光沢粒を含む。 1mm以下の反白色粒を含む。 微細な透明の光沢粒を多く含む。				
31	"	深鉢	口縫部	"	(25. 0)			横方向に具鉢条文	丁寧なナデ	"	浅黄褐	に深い黄褐色	1mm以下の白色・褐色光沢粒を含む。 1mm以下の透明・黑色の光沢粒を含む。	1mm以下の白色・褐色光沢粒を含む。 1mm以下の透明・黑色の光沢粒を含む。	後作事 口縫部 1/6			

【土器観察表①】

番号	種類	埋蔵 部位	出土 地点	法面(m)		手掘・調査・文様ほか		性成	色調		地土の特徴	備考	
				口幅	底幅	高さ	外面		外面	内面			
32	縄文 土器	深鉢 口縁部	V層				横方向に貝殻条痕文 横方向に貝殻条痕文 指揮さえ	丁寧なナデ	無肝	灰黄	灰黄	1mm以下の浅黄色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
33	#	深鉢 口縁部～側部	"				横方向に貝殻条痕文 横方向に貝殻条痕文 指揮さえ	丁寧なナデ 丁寧なナデ 指揮さえ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1~2mmの浅黄色粒を含む。 1mm以下の白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
34	#	深鉢 側部	"				横方向のナデ 横方向に貝殻条痕文	丁寧なナデ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1~2mmの浅黄色粒を含む。 微細な白色粒、透明光沢粒を含む。	
35	#	深鉢 側部	"				横方向のナデ 貝殻条痕文	丁寧なナデ	#	にぶい黄褐色	灰青褐色	1~2mmの浅黄色粒を含む。 微細な白色粒、透明光沢粒を含む。	
36	#	深鉢 側部	"				横方向に貝殻条痕文	丁寧なナデ	#	にぶい赤褐色	にぶい橙	1~3mmのにぶい黄褐色粒を含む。 1mm以下の白色光沢粒、微細な白色粒を含む。	
37	#	深鉢 側部	一層				横方向に貝殻条痕文 横方向に貝殻条痕文	丁寧なナデ	#	にぶい黄褐色	黄褐色	1~2mmの白色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	
38	#	深鉢 側部	V層				横方向に貝殻条痕文 全体的に風化	丁寧なナデ	#	にぶい黄褐色	灰青褐色	3mm以下の赤色粒をわずかに含む。 3mm以下の明る褐色粒を含む。 微細な灰色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
39	#	深鉢 側部	"				斜めの方向に貝殻条痕文 全体的に風化	ナデ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mmの大の横槽色粒を含む。 微細な灰色粒及び透明光沢粒を含む。	
40	#	深鉢 側部	"				横方向に貝殻条痕文	ナデ	#	にぶい黄褐色	灰青褐色	微細な黑色光沢粒、灰白色粒、褐色光沢粒を含む。	
41	#	深鉢 側部	"				横方向のナデ	横方向のナデ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1~3mmほどの褐色粒を含む。 1mm以下の赤色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
42	#	深鉢 側部	"				貝殻条痕文(一部剥離)	丁寧なナデ 指揮さえ	#	にぶい黄褐色	灰青褐色	1~2mmの浅黄色粒、灰白色を多く含む。 1mm以下の白色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
43	#	深鉢 側部	V層				斜めの方向に貝殻条痕文	ナデ	#	にぶい赤褐色	にぶい橙	1mmの大の褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	
44	#	深鉢 口縁部	V層				無いナデ 横方向のナデ	横方向のナデ	#	にぶい黄褐色	黄褐色	1mm以下のにぶい黄褐色、赤褐色、白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
45	#	深鉢 口縁部	"				ナデ 指揮さえ	ナデ 指揮さえ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1~2mmの褐色粒を含む。 1mm以下の白色粒を含む。	
46	#	深鉢 口縁部	V層				横方向のナデ 未満透の穿孔	ナデ	#	にぶい黄褐色	灰褐色	2mmの大の灰色粒を含む。 微細な白色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
47	#	深鉢 裏部付近	V層				横方向のナデ やや風化	ナデ	#	明黄褐色	黄褐色	1~2mmの褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	
48	#	深鉢 側部～邊部	"	(5. 9)			ナデ	ナデ 風化	#	にぶい黄褐色	褐色	1~2mmの白色・墨褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	残存率 底部 1/2
49	#	深鉢 側部	E層				ナデ 風化	ナデ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mm以下の白色、褐色を含む。 微細な黑色光沢粒、透明光沢粒を含む。	
50	#	深鉢 底部	V層	(3. 8)			ナデ	ナデ	#	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mm以下の灰白色粒を多く含む。 微細な透明光沢粒を多く含む。	残存率 底部 1/6
51	#	深鉢 底部	"	(6. 6)			ナデ 全体的に風化	ナデ 風化	#	にぶい黄褐色	褐灰	1mmの大の灰色小石、1mmの大の赤白色粒、1mm以下の灰白色粒、微細な透明光沢粒を多く含む。	残存率 底部 1/5
52	#	深鉢 底部	"	(8. 4)			丁寧なナデ	丁寧なナデ	#	褐	褐	1~2mmの大の褐灰色粒、1mm以下の白色、灰白色を含む。 微細な不透明の光沢粒を含む。	残存率 底部 1/6
53	#	深鉢 裏部付近	"				丁寧なナデ	丁寧なナデ	#	褐	褐	1mm以下の白色、にぶい褐色粒を含む。 微細な透明・不透明・黑色光沢粒を含む。	
54	#	深鉢 底部	"				丁寧なナデ 風化	丁寧なナデ	#	にぶい黄褐色	灰黄	1mm以下の黄色粒、浅黄色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	
55	#	深鉢 側部	"				横円錐型文	丁寧なナデ	#	にぶい赤褐色	にぶい褐	1mm以下の褐色粒を含む。 微細な白色粒、透明な光沢粒を含む。	

【土器観察表②】

番号	種類	器形	出土地点	法面(xt)			手面・調査・文様ほか			形成	色調		胎土の特徴	備考		
				口面	底面	側面	外面		内面		外面	内面				
							斜め方向のハケ目	直線状附近は縦方向のハバ目	斜め方向のハケ目	直線状附近は縦方向のハバ目						
56	縹	深鉢 土器	力ヶ原				山並型文	丁子 風化	朱灰	褐灰	2mm以下の茶白色粒、1~2mmの墨色光沢粒。 1mm以下の墨色粒を含む。					
68	鉢	SA1 口縁部~底部	SA1 SA4	24. 4	4. 0	32. 1	斜め方向のハケ目 直線附近は縦方向の ハバ目	斜め方向のハケ目	#	に赤い黄褐色	黄褐色	4mmの大の茶白色粒、3mm以下の墨灰色粒、1 mm以下の茶白色粒、微細な透明光沢粒を含む。	スヌ付書 残存率 2/3			
69	鉢	SA1 口縁部~底部	(17. 0)	2. 8	21. 1		斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	#	灰黃褐色	に赤い黄褐色	3mmの大の茶白色、灰褐色を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	スヌ付書 残存率 ほぼ完形			
70	鉢	SA1 口縁部~底部	"	4. 2	22. 5		斜め方向のハケ目 直線附近は縦方向の ハバ目	斜め方向のハケ目 直線附近は縦方向の ハバ目	#	淡黃褐色	淡黃褐色	2mmの大の褐色、乳白色、墨色粒を含む。	ほぼ完形			
71	鉢	SA1 口縁部~底部	SA1 SA2	(15. 3)			ナデ 指押さえ	ナデ 指押さえ	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	1mmの大の茶白色粒を含む。	スヌ付書 残存率 1/6			
72	鉢	SA1 口縁部	(22. 0)				斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	3mm以下の褐色粒、1mmの大の墨灰色粒、1m m以下の茶白色粒を含む。	スヌ付書 残存率 口縁部 1/10			
73	鉢	SA1 底部	"				斜め方向のハケ目 直線附近は縦方向の ハバ目	斜め方向のハケ目	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	4mmの大の赤褐色粒をわずかに含む。 4mm以下の白灰色、微細な透明光沢粒を多く含む。	スヌ付書			
74	鉢	銀部~底部	"	4. 2			縦・横方向のハケ 目 指押さえ	縦・横方向のハケ 目 指押さえ	#	淡黃褐色	に赤い黄褐色	2mmの大の白色粒をわずかに含む。 微細な褐色・褐色を含む。	スヌ付書			
75	鉢	底部	"	4. 2			工具痕	ナデ 工具痕	#	に赤い桔	黑褐色	2mmの大の褐色・褐色を含む。 1mm以下の白色・褐色を含む。透明光沢粒を含む。	スヌ付書			
76	鉢	SA1 口縁部~底部	"	(10. 7)	3. 5	26. 3	斜め方向のナデ 直線附近的ハバ目 指押さえ	ナデ 工具痕	#	に赤い桔	淡黃褐色	3mm以下の墨灰色粒、5mm以下の茶白色粒。 微細な不透明光沢粒を含む。	スヌ付書 残存率 4/5			
77	鉢	SA1 口縁部	"				工具による横方向の ナデ	工具による横方向の ナデ	#	淡黃褐色	淡黃褐色	4mmの大の茶白色粒、2mmの大の墨灰色粒を含 む。	スヌ付書			
78	鉢	SA1 底部	"				斜め・横方向のハケ 目	斜め・横方向のハケ 目	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	3mmの大の茶白色、に赤い赤褐色。1mmの墨 色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	スヌ付書			
79	小型壺	銀部	"				斜め・横方向のハケ 目	丁寧なナデ	#	黃灰	黃灰	2mmの大の白色粒をわずかに含む。 1mm以下の不透明・透明の光沢粒を含む。	残存率 銀部 1/14			
80	壺	SA1 底部	"	(24. 0)			ナデ	斜め方向のハケ目	#	淡黃褐色	淡黃褐色	1mm以下の白色粒、墨色粒を含む。	残存率 銀部 1/6			
81	小型手づくね	銀部	"	(6. 2)			ナデ(手づくね)	ナデ	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	1mm以下の茶白色をわずかに含む。				
82	鉢	SA1 口縁部~底部	SA1	17. 3	(2. 4)	19. 1	ハケ目	ハケ目	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	4mm以下の茶白色粒、2mmの透明光沢粒、1 mmの墨灰色粒を含む。	スヌ付書			
84	鉢	SA1 口縁部~底部	"	(20. 4)			縦・斜め・横方向のハ ケ目	斜め・横方向のハケ 目	#	淡黃褐色	に赤い黄褐色	2~5mm以下の乳白色、褐色を含む。 スヌ付書 口縁部 1/6	スヌ付書			
85	鉢	SA1 底部	"	(19. 6)			ハケ目 丁寧な横ナデ	横方向のハケ目 ナデ	#	灰黃褐色	に赤い黄褐色	2mmの大の茶白色粒をわずかに含む。 2mm以下の赤褐色、微細な透明光沢粒を少し 含む。	スヌ付書 底部 1/6			
86	鉢	SA1 口縁部	"				斜め方向のハケ目	横方向のハケ目	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	3mm以下の墨褐色に、に赤い褐色を含む。 微細な褐色を含む。	スヌ付書 口縁部 1/6			
87	鉢	SA1 底部	"				横方向のハケ目	ナデ 風化	#	に赤い桔	2mmの大の茶褐色、に赤い褐色を含む。 微細な透明光沢粒、灰白色を含む。	スヌ付書				
88	鉢	SA1 底部	"		(5. 3)		横方向のハケ目 ナデ	横方向の工具のナデ 全体的に風化	#	に赤い桔	に赤い桔	3mm以下の墨褐色、に赤い褐色を含む。 2mm以下の茶褐色を含む。	残存率 底部 100%			
89	鉢	SA1 底部	"		(4. 7)		著しい風化 わずかな工具痕	著しい風化 わずかな工具痕	#	に赤い桔	2mmの大の茶褐色を含む。	2mm以下の茶褐色を含む。	スヌ付書 底部 1/2			
90	鉢	SA1 底部	"	(15. 0)			複雑底状文 ナデ ハバ目	複雑底状文 ナデ ハバ目	#	に赤い桔	に赤い桔	4mmの大の茶褐色、2mm以下のに赤い赤褐色 1mm以下の茶褐色を含む。	スヌ付書 底部 1/8			
91	壺	SA1 底部	"				縦・斜め方向のハケ 目	丁寧なナデ	#	に赤い黄褐色	に赤い黄褐色	2mm以下の茶白色・に赤い褐色を含む。 微細な透明光沢粒を含む。				

【土器観察表③】

番号	種別	基盤部位	出土地点	法面(6M)			手作・調査・文様ほか		造成	色調		地土の特徴	備考
				口径	底径	高さ	外面	内面		外面	内面		
92	地中 土器	東	SIA2		(3. 2)		美しい風化のため不明	ナゲ 両耳丸	無	淡黄褐	褐色	1mmの大乳白色、褐色、透明な光沢を含む。	保存率 底部 2/3
93	■	高坪 坪部	#	(34. 0)			縦・横・斜め方向のハケ目	ハケ目 丁寧なナデ	#	淡黄褐	褐	1mm以下の白色を含む。	保存率 外部 1/8
94	■	高坪 坪部	#	(22. 6)			丁寧なナデのあと斜め方向のハケ目	丁寧なナデのあと斜め方向のハケ目	#	にぶい褐	にぶい赤褐	2mm以下の赤褐色、1mm以下の灰白色を含む。 微細な光沢をわずかに含む。	保存率 外部 1/17
95	■	高坪 坪部	#	(18. 5)			ハケ目 丁寧なナデ	斜め方向のハケ目	#	褐	褐	3mm以下の灰白色を含む。 1mm以下の透明光沢、赤褐色を含む。	保存率 外部 1/15
96	■	高坪 坪部	#	(23. 4)			工具によるナデ	丁寧なナデ	#	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mmの大灰褐色を含む。 透明な灰白色・透明な光沢を含む。	保存率 外部 1/7
97	■	高坪 坪部	#	(19. 8)			縦・横・斜め方向のハケ目	丁寧なナデ	#	淡黄褐	淡黄褐	微細な白色、褐色を含む。	保存率 外部 1/18
98	■	高坪 坪部	#				縦・横方向のハケ目 横方向のナデ	ハケ目	#	淡黄褐	褐	微細な灰褐色、褐色、白色を含む。	
99	■	高坪 坪部	#				ナデ	ナデ	#	にぶい黄褐	にぶい黄褐	にぶい黄褐色を含む。 微細な透明な光沢を含む。	
100	■	高坪 底部	#		(23. 1)		横方向のセギキ 透孔	ハケ目	#	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mm以下の灰白色を含む。 2mm以下の褐色、にぶい褐色を含む。	保存率 底部 1/5
102	■	■	SIA3	(19. 2)			横方向のナデ 指揮され	斜め方向のナデ 横方向のハケ目	#	褐	にぶい褐	2mm以下の灰白色、赤褐色を含む。 微細な透明光沢、褐色を含む。	保存率 外部 1/6
103	■	■	#		(3. 0)		横方向の工具底 ハケ目	横方向の工具底 指揮され	#	褐	褐	2mm以下の灰白色、赤褐色を含む。 微細な透明光沢、褐色を含む。	保存率 底部 100% ススキ着
105	■	■	SIA4	(22. 6)	4. 2	36. 6	斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	#	にぶい黄褐	淡黄褐	3mm以下の灰褐色、褐色、灰白色。 1mmの大墨色光沢、微細な透明光沢を含む。	保存率 外部 1/4
106	■	■	#	19. 8	5. 1	32. 7	横方向のナデ 斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目 指揮され	#	にぶい褐	にぶい褐	5mmの大灰褐色、褐色を含む。 2mmの大褐色、灰白色を含む。 微細な透明光沢を多く含む。	ほぼ完形
107	■	■	#	21. 0	5. 5	21. 6	ハケ目 工具底	工具によるナデ 指揮され	#	にぶい黄褐	にぶい黄褐	5-8mmの大灰褐色を含む。 5mmの大灰褐色、褐色を多く含む。 微細な透明光沢を多く含む。	ススキ着
108	■	■	#	15. 6	3. 9	18. 2	横・斜め方向のハケ目 指揮され	横・斜め方向のハケ目 指揮され	#	淡褐	にぶい褐	2mmの大墨色、褐色、褐色を含む。 1mmの大乳白色を含む。	ほぼ完形
109	■	■	#	14. 3	5. 7	19. 2	斜め方向のハケ目 横方向のナデ 指揮され	ハケ目 指揮され 底部付近は新しい凹凸	#	淡黄褐	淡黄褐	6mmの大褐色、灰褐色を含む。 4mmの大灰褐色、7mmの大褐色を含む。	保存率 外部 2/3 底部 100%
110	■	■	#	13. 6	2. 1	18. 9	横方向のハケ目 横方向のナデまたは セギキ	横・斜め方向のハケ目 指揮され	#	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mmの大にぶい褐色、褐色を含む。 4mmの大灰褐色、1mmの大褐色を含む。	保存率 1/4
111	■	■	#	(24. 0)			横・斜め方向のハケ 目	斜め方向のハケ目	#	にぶい褐	淡褐	2mmの大墨色、褐色、灰色を含む。 1mm以上の緑、乳白色、透明光沢を含む。	保存率 1/3
112	■	■	#	(23. 0)			粗いしげけで一部ハ ケ目あり 指揮され	粗いしげけで一部ハ ケ目あり 指揮され	#	褐色	淡黄褐	7mmの大灰褐色、3mmの大にぶい褐色 を含む。 微細な透明光沢を含む。	保存率 底部 1/2 ススキ着
113	■	■	#	18. 2			斜め方向のハケ目 横方向の工具による ナデ	ナデ ハケ目	#	淡褐	淡黄褐	6mmの大灰褐色を含む。 3mmの大灰褐色を含む。	保存率 外部 100% ススキ着
114	■	■	#	(18. 4)			横・斜め方向のハ ケ目 指揮され	横・斜め方向のハ ケ目 指揮され	#	にぶい褐	にぶい黄褐	3mmの大褐色を含む。 4mmの大灰褐色、1mmの大透明光沢を含む。	保存率 外部 4/5 ススキ着
115	■	■	#	(15. 8)			横・斜め方向のハケ 目 口縁部付近は横方 向のハケ目	斜め方向のハケ目	#	灰褐	淡黄褐	1mmの大灰褐色、褐色を含む。 微細な透明光沢を含む。	保存率 外部 1/8
116	■	■	#	(14. 6)			斜め方向のハケ目 指揮され 工具によるナデ	斜め方向のハケ目	#	灰褐	淡黄褐	3mmの大にぶい黄褐色、2mmの大灰白色 を含む。 微細な透明光沢を含む。	保存率 外部 1/8
117	■	■	#	(15. 0)			全体的に風化し、一 般ハケ目残り	風化が進み、一般斜 め方向のハケ目残り	#	淡黄褐	淡黄褐	1~2mmの大灰褐色、褐色を含む。 微細な白色を含む。	保存率 外部 1/12 底部 1/4

【土器観察表④】

番号	種類	器形部位	出土地点	法量(cm)			手法・調製・文様ほか			形成	色調		胎土の特徴	備考			
				口径	底径	高さ	外面		内面		外面	内面					
							斜め方向のハケ目 指揮さえ	斜め方向のハケ目 指揮さえ	斜め方向のハケ目 指揮さえ								
118	茶 土器	口縁部	SA4							灰灰	淡褐	淡黄褐	1~2mmの大粒の褐色、灰色粒を含む。 微細な白色粒を含む。				
119	"	裏 口縁部	"				斜め方向のハケ目 指揮さえ	斜め方向のハケ目 指揮さえ	斜め方向のハケ目 指揮さえ	"	淡黄	淡黄	4mmの大粒灰褐色、2mmの大粒灰白色を含む。 微細な黑色光沢粒を含む。	スヌ付蓋			
120	"	裏 口縁部	"				著しい風化のため調 整手形	著しい風化のため調 整手形	著しい風化のため調 整手形	"	淡黄褐	黄褐	1mm~2mmの大粒の灰色、褐色を含む。 微細な白色粒を含む。				
121	"	裏 口縁部	"				縦方向のハケ目 指揮さえ	丁寧ナデ	丁寧ナデ	"	灰白	淡黄褐	2mmの大粒褐色、灰色、褐色を含む。 1mm以下の乳白色を含む。				
122	"	裏 口縁部	"				ハケ目	Eが牛	Eが牛	"	淡褐	にぶい褐	1~2mmの大粒褐色をわざかに含む。 微細な白色粒を含む。	保存率 口縁部1/12 スヌ付蓋			
123	"	裏 口縁部	"				ナデ 指揮さえ	著しい風化	著しい風化	"	淡黄褐	淡黄褐	3mmの大粒灰褐色を含む。 1mmの大粒褐色を含む。	スヌ付蓋 口縁部1/10			
124	"	裏 口縁部	"				斜め方向のハケ目 指揮さえ	斜め方向のハケ目 指揮さえ	斜め方向のハケ目 指揮さえ	"	淡黄褐	にぶい褐	微細な乳白色粒をわざかに含む。				
125	"	裏 口縁部	"				縦方向のハケ目	斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	"	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mmの大粒褐色、褐色、反白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。				
126	"	裏 底部~底部	(7. 3)				斜め方向のハケ目 工具によるナデ	斜め方向のハケ目 工具によるナデ	斜め方向のハケ目 工具によるナデ	"	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mmの大粒赤褐色、反白色粒を少し含む。 微細な透明光沢粒を多く含む。				
127	"	裏 底部~胴部	"				Eが牛 工具による縦方向の ナデ	斜め方向のハケ目 工具によるナデ	斜め方向のハケ目 工具によるナデ	"	灰褐	灰褐	3mmの大粒褐色、灰白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。				
128	"	裏 胴部	"				縦・斜め方向の丁寧 なハケ目 通常は縦方向のナデ	縦・斜め方向の丁寧 なハケ目 通常は縦方向のナデ	縦・斜め方向の丁寧 なハケ目 通常は縦方向のナデ	"	にぶい黄褐	灰褐	2mmの大粒灰褐色、2mmの大粒白色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	スヌ付蓋			
129	"	裏 胴部	"				縦・斜め方向の丁寧 なハケ目 通常は縦方向のナデ	縦・斜め方向の丁寧 なハケ目 通常は縦方向のナデ	縦・斜め方向の丁寧 なハケ目 通常は縦方向のナデ	"	にぶい黄褐	灰褐	2mmの大粒灰褐色、2mmの大粒白色粒を含む。	スヌ付蓋			
130	"	裏 胴部	"				縦・斜め方向の丁寧 なハケ目	縦・斜め方向のハケ目。 ナデ	縦・斜め方向のハケ目。 ナデ	"	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2~5mmの大粒褐色粒、にぶい褐色を含む。 微細な白色粒、透明光沢粒を含む。				
131	"	裏 胴部	"				ナデ	ナデ	ナデ	"	灰褐	にぶい黄褐	3mmの大粒灰褐色、3mmの大粒褐色を含む。 1mmの大粒にぶい褐色を含む。	保存率 底部1/3			
132	"	裏 底部付近	"				縦方向のハケ目	ハケ目 ナデ	ハケ目 ナデ	"	にぶい黄褐	黑	2mmの大粒白色、基褐色粒、2mmの大粒褐色 を含む。 微細な透明光沢粒を含む。				
133	"	裏 胴部~底部	(5. 0)				縦方向のナデ Eが牛・斜め方向のE ナデ	縦方向のナデ Eが牛・斜め方向のE ナデ	縦方向のナデ Eが牛・斜め方向のE ナデ	"	淡黄褐	灰褐	2mmの大粒褐色、にぶい褐色を含む。 2mmの大粒褐色を含む。	保存率 底部1/3			
134	"	裏 胴部~底部	"	4. 0			全体的に風化 縦方向のカズリ	全体的に風化 ナデ	全体的に風化 ナデ	"	淡褐	淡黄	2mmの大粒褐色、褐色、白色粒を含む。 3mm以下の乳白色、透明光沢粒を含む。	保存率 底部100%			
135	"	裏 胴部~底部	"	(5. 0)			斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	"	黄褐	黄褐	1mm以下の反白色粒を含む。 微細な光沢粒を含む。	保存率 1/3			
136	"	裏 底部	"	4. 5			ナデ	ナデ	ナデ	"	にぶい黄褐	にぶい黄褐	3mmの大粒白色、にぶい褐色を含む。 2mmの大粒褐色を含む。	保存率 底部100%			
137	"	裏 底部	"	4. 3			指揮さえ 風化	ナデ	ナデ	"	にぶい褐	にぶい黄褐	3mmの大粒白色、褐色を含む。 1mmの大粒褐色を含む。	保存率 底部100%			
138	"	裏 口縁部~底部	"	(11. 7)	4. 0	(13. 0)	縦方向のEが牛 ハケ目	ハケ目 Eが牛	ハケ目 Eが牛	"	灰褐	にぶい褐	1~5mmの大粒反白色粒を含む。 2~4mmの大粒褐色を含む。 4mm以下の褐色、灰白色粒を含む。	ほぼ完B			
139	"	小型裏 胴部~底部	"		3. 4		工具痕	工具によるナデ ハケ目	工具によるナデ ハケ目	"	にぶい褐	にぶい褐	3mm以下の褐色、灰白色粒を含む。 3mm以下の褐色を含む。 1mm以下の白色粒を含む。	保存率 底部100%			
140	"	裏or蓋 口縁部	"				細いナデ 指揮さえ	斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	"	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の反白色、褐色前を含む。 微細な透明光沢粒、赤褐色を含む。				
141	"	蓋 口縁部	"				細いナデ 指揮さえ	斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	"	にぶい褐	にぶい褐	1mm以下の反白色、褐色を含む。 微細な赤褐色、透明な光沢粒を含む。				

【土器観察表⑤】

番号	種別	基層 部位	出土 地点	法面(m)		手探・調査・文様ほか		造成	色調		地土の特徴	備考
				口高	底高	幕高	外面		外面	内面		
142	既生 土器	蓋	SA-6				横方向のハケ目 横幅変化 押さえ丸	横方向のナデ 一筋ハケ目	黄灰	にぶい橙	にぶい黄	2mmの大粒白色粒をわずかに含む。
143	蓋	蓋	底部	(5. 8)			全体的に風化 横方向のナデ	全体的に風化 斜め方向のナデ	ノ	灰黄	灰黄	1mmの大粒白色粒、黄褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。
144	蓋	底部	底部	(4. 8)			ナデ 一筋ハケ目	ハケ目	ノ	灰黄	黄	2mmの大粒白色粒、3mmの大粒褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。
												残存率 底部 1/3
145	蓋	底部	底部	(13. 8)			横方向のミガキ 全体的に風化	全体的に風化 横方向のナデまたは ミガキ	ノ	浅黄褐	浅黄褐	3mmの大粒褐・灰白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。
												残存率 底部 1/2
146	鉢	口縁部～底部	口縁部～底部	(12. 5)	4. 1	9. 0	ハラケズリ	縦・斜め方向のハケ目	ノ	黄灰	黄灰	2~3mmの大粒褐・灰白色粒を含む。 1mm以下の乳白色、透明光沢粒を含む。
												残存率 口縁部 1/10 底部 1/2
147	鉢	口縁部～底部	口縁部～底部				全体的に風化 押さえ丸	全体的に風化 押さえ丸	ノ	灰黄	灰白	6mmの大粒白、5mmの灰黄色の粒を含む。 5mmの黑色の光沢粒、微細な透明の光沢粒を含む。
148	鉢	口縁部	口縁部				横・斜め方向のハケ 目	丁寧なナデ 一筋ハケ目 押さえ丸	ノ	浅黄褐	浅黄褐	1mmの大粒褐色粒を含む。 微細な乳白色粒を含む。
149	鉢	口縁部	口縁部				風化が激しく調査不能	横・斜め方向のハケ 目	ノ	灰黄	にぶい黄褐	1mmの大粒白、灰褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。
												残存率 1/12
150	鉢	脚部～底部	脚部～底部	(2. 8)			全体的に風化 一部工事のナデ	斜め方向のハケ目 押さえ丸	ノ	黄灰 黒褐	灰褐	微細な透明光沢粒、灰白色粒を含む。
												残存率 底部 1/3
151	窓坪	窓坪～脚部	窓坪～脚部	29. 5 (窓部付)	21. 2 (窓部付)	23. 8 (窓部付)	片部・横方向のナデ 横・斜め方向の ハケ目 脚部～ハケ目	片部～ハケ目 左側 横・斜め 方向のハケ目 ハケ目	ノ	にぶい黄褐	浅黄褐	5mmの大粒白光沢粒を含む。 1mmの大粒褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。
												残存率 外部 3/4 脚部 100%
152	窓坪	窓坪	窓坪	(25. 9)			ハケ目のあとミガキ	ミガキ	ノ	にぶい橙	にぶい橙	1mmの大粒灰白色粒をわずかに含む。 微細な透明光沢粒を含む。
												残存率 外部 1/5
153	窓坪	窓坪	窓坪	(29. 4)			斜め方向のミガキ 一筋ハケ目	横・斜め方向のミガキ 一筋ハケ目	ノ	浅黄褐	にぶい橙	1mmの大粒白、褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。
												残存率 脚部 1/5
154	窓坪	窓坪	窓坪	(25. 6)			斜め方向のミガキ 一筋ハケ目	斜め方向のミガキ 一筋ハケ目	ノ	浅褐	にぶい橙	4mmの大粒褐色を含む。 1mm以下の白色粒を含む。
												残存率 口縁部 1/7
155	窓坪	窓坪	窓坪	(25. 8)			全体的に風化 横方向のナデ 横方向のミガキ	全体的に風化 横方向のミガキ	ノ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1mmの大粒白、褐色粒を含む。 微細な黑色粒を含む。
												残存率 口縁部 1/16
156	窓坪	窓坪	窓坪	(28. 0)			全体的に風化 丁寧なナデ	全体的に風化 丁寧なナデ	ノ	にぶい橙	にぶい黄褐	2~3mmの大粒灰白色粒を含む。 微細な黒褐色・褐色粒を含む。
												残存率 口縁部 1/12
157	窓坪	窓坪	窓坪				横方向のハケ日のあと と縦方向のミガキ	横方向のハケ日のあと と縦方向のミガキ	ノ	にぶい橙	にぶい橙	2mmの大粒白、褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。
												残存率 外部 1/12
158	窓坪	窓坪	窓坪				全体的に風化 横方向のミガキ	全体的に風化 横方向のミガキ	ノ	にぶい橙	にぶい橙	2mmの大粒白光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒、黑色粒を含む。
												残存率 外部 1/12
159	窓坪	窓坪	窓坪				全体的に風化 横方向のミガキ ナデ 透孔あり	横・斜め方向のハケ 目	ノ	褐	褐	2~3mmの大粒白、褐色粒を含む。 1mmの大粒褐色、灰褐色、赤褐色、黑色粒を含む。
												残存率 脚部 1/8
160	窓坪	窓坪	窓坪	(21. 2) (窓部付)			横方向のミガキ 透孔あり	横・斜め方向のハケ 目	ノ	浅黄褐	にぶい黄褐	1mmの大粒白色粒、微細な乳白色粒を含む。
												残存率 脚部 1/2
161	窓坪	窓坪	窓坪				全体的に風化 横方向のミガキ	透徑2mm幅の摩孔 1箇所あり ナデ	ノ	浅黄褐	浅黄褐	2mmの大粒白、褐色粒を含む。 1mmの大粒透明光沢粒、黑色粒を含む。
162	窓坪	窓坪	窓坪	(22) (窓部付)			ナデのあと横方向のミ ガキ	横・斜め方向のハケ 目	ノ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	1mmの大粒白色粒を含む。
												残存率 脚部 1/9
163	窓坪	窓坪	窓坪				横方向のナデのあと 横方向のミガキ	横方向のナデのあと ミガキ	ノ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	2mmの大粒白光沢粒を含む。 1mmの大粒褐色光沢粒を含む。 微細な黑色粒を含む。
164	窓坪	窓坪	窓坪				斜め方向のハケ日のあと ミガキ 透孔が一部残り	斜め方向のハケ 目	ノ	にぶい黄褐	にぶい黄褐	微細な白色粒を含む。 微細な灰色光沢粒を含む。
												残存率 脚部 1/12
165	窓坪	窓坪	窓坪	(15) (窓部付)			横方向のナデ 横方向のミガキ	丁寧なナデ	ノ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の乳白色粒を含む。
												残存率 脚部 1/12

【土器観察表⑥】

番号	種類	器種部位	出土位置	法蓋(AN)			手斧・調製・文様ほか		形成	色調		胎土の特徴	備考
				口巻	底座	基部	外面	内面		外面	内面		
165	器生 土器	裏环	SAS	(18. 2) (前部側)			全体的に風化 ナゲのあととガキ	全体的に風化 横方向のナゲ	良好	にない様	にない様	3mm以上の灰白色、1mmの大の褐色粒を含む。 微細な茶褐色粒を含む。	現存率 1/10
167	#	裏环	#				丁寧なナゲ	横・斜め方向のハケ目	#	淡黄	にない様	1mmの大の灰白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
168	#	約半径土器 底部	#				ナゲ 凸凹あり	横押さえ	#	にない青黄	灰青	1mmの大の灰白色、褐色の粒を含む。 微細な透明光沢粒、黑色粒を含む。	
170	#	裏 口縁部～底部	SAS (20. 4)	4. 0	33. 4		横・斜め方向のハケ 目・横・斜め方向の 押さえ	#	にない様	淡黄	2mm以下の褐色粒をわずかに含む。 微細な乳白色粒、透明光沢粒を含む。	現存率 口縁部 1/2 底部 2/3	
172	#	裏 口縁部～脚部	# (24. 8)				着力点のナゲ 横方向の工具痕 押さえ	工具による横方向の 横・斜め方向のナゲ	#	浅黄褐	にない青黄	4mmの大の褐色、暗灰色粒を含む。 2mmの大の灰白色粒を含む。	現存率 口縁部 1/7
173	#	裏 口縁部～脚部	# (26. 0)				横・斜め方向のハケ 目 工具による横方 向のナゲ	横・斜め方向のハケ 目・工具による横方 向のナゲ	#	浅黄褐	にない青黄	5mmの大の灰青褐色、4mmの大の灰白色を含む。 2mmの大の褐色粒、微細な透明光沢粒を含む。	現存率 口縁部 1/8
175	#	裏 口縁部	#				ナゲ	横方向のナゲ 斜め方向のハケ目	#	浅黄褐	浅黄褐	4mmの大の褐色、赤褐色粒を含む。 1mmの大の灰白色を含む。	
180	#	裏 口縁部	#				横方向のナゲ 斜め方向のナガキ	横方向のナゲ	#	にない横模	にない青黄	1mmの大の灰白色粒を含む。 1mmの大の透明光沢粒、黑色光沢粒を含む。	
181	#	裏 柄部	#				全体的に風化 工具痕	全体的に風化 工具痕	#	にない様	にない青黄	2mm以下の褐色光沢粒を含む。 微細な白色粒を含む。	
182	#	裏 底部付近	#				横方向にハケ目	全体的に風化	#	にない横模	黑	3mmの大の褐色光沢粒を含む。 1mmの大の灰白色粒、にない横模色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
183	#	裏 底部付近	#				全体的に風化	全体的に風化 ナゲ	#	にない様	にない様	1mm～2mmの大の褐色、黑色、乳白色を含む。 微細な乳白色粒、黑色光沢粒を含む。	
184	#	裏 底部付近	#				全体的に風化	ナゲ	#	淡黄	浅黄褐	1mmの大の褐色、透明光沢粒を含む。 微細な褐色粒、透明光沢粒を含む。	
185	#	裏or蓋 底部	#	4. 5			ナゲ 分割的にハケ目	ナゲ 分割的にハケ目	#	褐灰	黑	3mmの大の褐色光沢粒を含む。 1mmの大の灰白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	現存率 底部 100%
186	#	裏or蓋 底部	#	2. 2			無い仕上げ	全体的に風化 ナゲ	#	灰黄褐	褐灰	2. 5mmの大の灰白色粒を含む。 1mmの大の褐色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	現存率 底部 100%
187	#	裏or蓋 底部	#	2. 5			ナゲ 一部工具痕	無い仕上げ ハケ目	#	浅黄	浅黄褐	3mmの大の褐色、褐色光沢粒を含む。 1mmの大の褐色光沢粒を含む。	現存率 底部 100%
188	#	裏 口縁部	# (15. 2)				擦接剥離状 斜め方向のナゲ	横方向のハケ目 押さえ	#	にない青黄	淡黄	4mmの大の灰白色、2. 5mmの大の褐色の粒を含む。 1mmの大の褐色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	現存率 口縁部 1/10
189	#	裏 口縁部	# (13. 4)				擦接剥離状 斜め方向のナゲ	全体的に風化 押さえ	#	浅黄褐	浅黄褐	1mmの大の褐色、乳白色の粒を含む。 4mmの大の褐色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	現存率 口縁部 1/8
190	#	裏 口縁部	# (10. 6)				斜め方向のハケ目 横方向の工具痕やミ ガキ	横方向のナゲ	#	褐灰	灰灰褐	5mmの大の浅黄褐色粒を含む。 4mmの大の褐色光沢粒を含む。 3mmの大の褐色光沢粒を含む。	現存率 口縁部 1/6
191	#	裏 口縁部	#				ナゲ 横方向のナゲ	斜め方向のハケ目 工具によるナゲ	#	浅黄褐	にない青黄	2mmの大の灰白色粒を含む。 微細な褐色光沢粒を含む。	
192	#	裏 口縁部	# (11. 2)				横方向のナゲ 擦接剥離状	横方向のナゲ	#	にない青黄	灰灰褐	2mmの大にない青黄褐色の粒を含む。 2mmの大の褐色、褐色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
193	#	裏 口縁部	#				横方向のナゲ	風化が著しく隙間不 明	#	浅黄褐	浅黄褐	2mmの大にない青黄褐色の粒を含む。 2mmの大の褐色光沢粒を含む。 1mmの大の褐色光沢粒を含む。	
194	#	裏 底部	#				ハケ目 丁寧なナゲ	ハケ目 丁寧なナゲ	#	にない様	淡黄	2mmの大の褐色、褐色光沢粒を含む。 2mmの大の褐色光沢粒を含む。	
195	#	裏 底部	#				全体的に風化 斜め方向のナゲ	全体的に風化 斜め方向のナゲ	#	淡黄	褐	2mm以下にない褐色光沢粒を含む。 微細な透明光沢粒、灰白色粒を含む。	
196	#	裏 底部	#				斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	#	灰白	浅黄褐	3mm以下の褐色光沢粒を含む。 1mm以下の灰白色光沢粒を含む。	

【土器観察表⑦】

番号	種類	種類部位	出土地点	法面(60)			手作・調査・文様ほか			性状	色調		地土の特徴	備考
				口径	底径	器高	外腹	内腹	底		灰質	黒		
197	器 土器	遺物	SAS				ハケ目	工具によるナデ		直針	灰質	黒	3mmの大灰白色粒を含む。 3mmの大灰・黄灰色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	
198	器 土器			"		(3. 4)	全体的に風化 横方向の孔がキ	斜め方向のハケ目 一部工具底	"	にぶい質感	活質感	黒	3mmの大灰褐色粒を含む。 3mmの大灰白色、黒褐色を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 遺物 1/3
199	器 土器	口縁部～底部	(14. 0)	2. 7	7. 9	横方向のミガキ	斜め方向のミガキ	"	にぶい質	にぶい質	黒	3mmの大灰褐色粒を含む。 3mmの大灰白色、黒褐色を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 遺物 1/2	
200	器 土器			(17. 4)	4. 1	14. 9	全体的に風化 斜め方向のハケ目 横方向の孔がキ	横・斜め方向のナ ダ・ミガキ	"	にぶい質感	活質感	黒	7mmの大灰白色粒、5mmの大にぶい黄褐色 粒、3mmの大黒褐色、にぶい褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 底部 100%
201	器 土器	口縁部～底部	(13. 2)	5. 4	12. 8	横・斜・斜め方向のミ ガキ 指揮さえ	全体的に風化 一部横方向のハケ目	"	活質感	活質感	黒	2mmの大灰褐色、褐色粒を含む。 1mm以下の乳白色粒、黑色光沢粒を含む。	完形	
202	器 土器			(13. 2)		横方向の孔がキ	各方向にハケ目 押さえ	"	にぶい質	にぶい質	黒	3mmの大灰白色粒を含む。 3mmの大灰褐色粒を含む。	残存率 口縁部 1/12	
203	器 土器	口縁部～鉢脚	(13. 2)			横方向のミガキ	各方向にハケ目 押さえ	"	にぶい質	にぶい質	黒	3mmの大灰褐色粒を含む。 3mmの大灰白色粒を含む。	残存率 口縁部 1/8	
204	小型便の世 遺物			(4. 9)		全体的に風化 ナ ダ・一部工具底	全体的に風化 ナ ダ	"	にぶい質感	にぶい質感	黒	2mmの大にぶい褐色粒を含む。 微細な灰白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 遺物 1/5	
205	窓 坪部	遺物	(23. 6)			横方向の孔がキ	横方向のミガキ 工具によるナデ	"	にぶい質	にぶい質	黒	2mmの大灰白色、微細な灰白色を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 坪部 1/8	
206	窓 坪部			(20. 3)		斜め方向のミガキ ナ ダ	横方向のナ ダ	"	にぶい質感	にぶい質感	黒	2mmの大灰白色粒を含む。 3mmの大灰白色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 坪部 1/10	
207	窓 坪部	遺物	(25. 8)			横・横方向の孔がキ 横接着状況	横方向のハケ目	"	にぶい質	にぶい質	黒	1mmの大灰白色、褐灰色の粒を含む。 微細な黒褐色の粒、黑色光沢粒を含む。		
208	窓 坪部					横・横方向のミガキ	横方向のハケ目 ミガキ	"	にぶい質感	にぶい質	黒	1mmの大灰白色粒、褐灰色の粒を含む。 微細な黑褐色の粒を含む。 黑色の光沢粒を含む。		
209	窓 圓軸部	遺物	(22. 4) 圓軸部			工具による細い土上 げ押さえ	ハケ目 ミガキ	"	にぶい質感	にぶい質感	黒	2mmの大横反対にぶい褐色粒を含む。 微細な灰白色粒、黑褐色粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 圓軸部 1/6	
210	窓 圓軸部			(24. 0) 圓軸部		横方向の工具によ るナ ダ・ミガキ	横方向の工具によ るナ ダ・ミガキ	"	黒褐色	黒	2mmの大灰白色粒、微細な灰白色を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	残存率 圓軸部 1/6		
211	窓 圓軸部	遺物	(24. 1) 圓軸部			ハケ目の大横方向の ミガキ	ハケ目	"	にぶい質感	にぶい質感	黒	2mmの大灰白色の粒を含む。 1mmの大黒褐色の光沢粒を含む。 微細な黒褐色の粒を含む。	残存率 圓軸部 1/4	
212	窓 圓軸部			(20. 3) 圓軸部		工具による細い土上 げ押さえ	ハケ目 押さえ	"	にぶい質感	にぶい質	黒	2mm程のにぶい褐色粒を含む。 微細な灰白色、黒褐色の粒を含む。	残存率 圓軸部 1/7	
213	窓 圓軸部	遺物	(18. 6) 圓軸部			横・横方向の孔がキ	横・斜め方向のナ ダ・工具底	"	にぶい質感	にぶい質	黒	1mmの大にぶい黒褐色の粒を含む。 1mmの透明の光沢粒、褐色の粒を含む。 微細な黒褐色の粒を含む。	残存率 圓軸部 1/8	
214	窓 圓軸部			(18. 6) 圓軸部		横方向のミガキ ナ ダ	横方向のナ ダ	"	褐	褐	黒	2mmの大灰褐色の粒を含む。 2mmの灰白色、褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	残存率 圓軸部 1/8	
215	窓 圓軸部	遺物	(16. 8) 圓軸部			全体的に風化 ナ ダ	全体的に風化一 部ハケ目または孔がキ	"	活質感	活質感	黒	4mmの大にぶい褐色、灰褐色の粒を含む。 2mmの大灰褐色の粒を含む。	残存率 圓軸部 1/8	
216	窓 圓軸部			(8. 7) 圓軸部		横方向のミガキ	横・斜め方向のナ ダ 斜め方向の工具ナ ダ	"	にぶい質感	にぶい質	黒	2mmの大黒褐色、白色の粒を含む。 4mmの大褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	残存率 遺物 1/5	
217	窓 圓軸部	遺物	(11. 8) 圓軸部			孔がキ	丁寧なナ ダ	"	にぶい質	にぶい質	黒	2mmの大褐色、灰色の粒を含む。 微細な乳白色の粒を含む。	残存率 圓軸部 1/7	
218	窓 圓軸部					ナ ダ一部横方向の工具によ るナ ダ	ナ ダ	"	にぶい質感	透灰	黒	1mmの灰白色、黑色、褐灰色の粒を含む。 1mmの透明の光沢粒、黑色の粒を含む。		
219	窓 圓軸部	遺物	(17. 6) 圓軸部			横・斜め方向の孔がキ 横方向の孔がキ、ナ ダ	斜め方向の孔がキ 横方向の孔がキ、ナ ダ	"	褐	褐	黒	2mmの大灰白色、褐灰色の粒を含む。 1mmの大黒褐色の粒を含む。 2mmの大灰褐色、黑色の粒を含む。	残存率 圓軸部 1/14	
220	窓 圓軸部			(18. 0) 圓軸部		横方向のミガキ 工具底	横方向のナ ダ	"	褐	褐	黒	2mmの大灰白色、褐褐色の粒を含む。 3mmの大灰白色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	残存率 圓軸部 1/14	

【土器観察表⑧】

番号	種類	器種 部位	出土 地點	法量(cm)			手法・調製・文様ほか			性成	色調		跡土の特徴	備考		
				口径	底径	高さ	外面		内面		外面	内面				
							全体的に黒化 傾方向のハケ目	全体的に黒化 傾方向のハケ目	底付		浅黄	浅黄				
221	茶 土器	裏 窓	SAS								3mmの大の灰白色粒を含む。 微細な赤褐色、灰白色、黑色粒を含む。		現存率 窓部1/10			
222	"	裏 窓	"				工具による無い仕上 げ指印さえ	ハケ目 指印さえ	"	褐灰	灰灰		1mmの大の灰灰色の粒を含む。 微細な透明光沢粒、灰白色の粒を含む。			
223	"	裏 窓	"				ナデ	無い仕上?	"	浅橙	にぶい橙		1mm以下の大の褐色、灰色、透明の光沢粒を含む。	現存率 窓部1/18		
224	"	裏 窓	"	(15.0)			斜め方向のハケ目 傾方向の工具ナデ	斜め方向のハケ目 傾方向の工具ナデ	"	にぶい橙	にぶい橙		1mmの大の灰白色粒を含む。	現存率 窓部1/14		
225	"	裏 窓	"	(17.0)			傾方向のセガキ	ナデ	"	にぶい黄橙	にぶい黄橙		1mmの大の灰白色、にぶい黄褐色を含む。 微細な墨色、黑色の光沢粒を含む。 微細な黑色粒を含む。	現存率 窓部1/10		
226	"	裏 窓	SAS(18.6)				傾方向のナデ	横・斜め方向のナデ	"	橙	橙		2mmの大の灰白色、灰褐色、褐色の粒を含む。 1mmの大の深褐色の粒、透明の光沢粒を含む。	現存率 窓部1/8 スズ付差		
227	"	裏 窓	"(18.6)				傾方向のナデ	傾方向のナデ	"	橙	橙		1mmの大の灰白色の粒を含む。 1mmの大の深褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	現存率 窓部1/4 スズ付差		
228	"	裏 窓	"				斜め方向のナデ	斜め方向のナデ	"	にぶい黄	にぶい黄		2mmの大の褐色、褐色の粒を含む。 微細な墨色の光沢粒を含む。	現存率 窓部1/10		
229	"	裏 窓	"				斜め方向のナデ	斜め方向のハケ目	"	にぶい黄	にぶい黄		2mmの大の褐色、褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	現存率 窓部1/8		
230	"	裏 窓	"				傾方向のハケ目	斜め方向のハケ目	"	浅黄橙	にぶい黄		2mmの大の褐色の粒を含む。 1mmの大の深褐色の粒を含む。 微細な墨色の光沢粒を含む。	スズ付差		
231	"	裏 窓	"				横・斜め方向のハケ 目	横・斜め方向のハケ 目	"	浅黄橙	浅黄		1mmの大にぶい褐色の粒を含む。 1mmの大の深褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	現存率 窓部1/10		
232	"	裏 窓	"				ナデ	ナデ	"	灰褐	にぶい褐		4mmの大の褐色、黑色の粒を含む。 1mm以下の灰褐色の粒を含む。 微細な白色の粒を含む。	現存率 窓部		
233	"	裏 窓	"		4.7		全体的に黒化 傾方向のハケ目	傾方向の工具底	"	浅黄橙	黑		2mmの大の褐色、褐色の粒を含む。 微細な白色の粒を含む。	現存率 窓部100%		
234	"	裏 窓	"(16.2)				全体的に黒化 傾方向のナデ 指印さえ	横方向のナデ ハケ目 指印さえ	"	にぶい黄	にぶい黄		4mmの大一概に灰白色の粒を含む。 3mm以下の赤褐色の粒を含む。 微細な透明な光沢粒を含む。	現存率 窓部1/5		
235	"	裏 窓	"(16.4)				堆積波状文 横・斜め方向のハ ケ目	横方向のナデ ハケ目	"	浅黄	橙		1mmの大の灰白色粒を含む。	現存率 窓部2/7		
236	"	裏 窓	"(9.0)				堆積波状文 横・斜め方向のハ ケ目	横方向のハケ目	"	浅黄橙	浅黄		2~3mmの大の褐色、灰色の粒を含む。 1mmの大の褐色、灰色の粒を含む。	現存率 窓部1/4		
237	"	裏 窓	"				斜め方向のハケ目	横・横・斜め方向のハ ケ目	"	浅黄橙	浅黄		3mmの大にぶい褐色の粒を含む。 2mmの大の褐色の粒を含む。 微細な黑色の粒を含む。	現存率 窓部		
238	"	裏 窓	"				斜め方向のハケ目	横・斜め方向のハ ケ目	"	浅黄	橙		2mmの大の褐色の粒を含む。 微細な乳白色の粒を含む。	現存率 窓部		
239	"	裏 窓	"				一部にナデ 黒化	横・斜め方向のハ ケ目	"	浅黄橙	浅黄		2mmの大褐色粒を含む。 微細な白色粒を含む。	現存率 窓部		
240	"	縦 窓	"				横方向のナデ 指印さえ	丁寧なナデ	"	にぶい橙	にぶい橙		1.5mmの大の褐灰色の粒を含む。 微細な灰白色、黑色の粒を含む。	現存率 窓部1/12		
241	"	縦 窓	"				横・斜め方向のハ ケ目	横・斜め方向のハ ケ目	"	にぶい黄	にぶい黄		1mm以下の灰白色粒を含む。 微細な灰白色光沢粒を含む。			
242	"	縦 窓	"	12.1	4.2	12.8	横方向のセガキ	横・横・斜め方向のハ ケ目	"	灰白	深橙		1mm以下の褐色、乳白色的粒を含む。	現存率		
243	"	小型土器 窓部～底部	"		4.8		ハケ目 底部はハケ目のあと 工具ナデ	横方向の工具底 ミガキ	"	明赤褐色	明赤褐色		3mmの大の微細な灰白色の粒を含む。 2mmの大の褐色の粒を含む。 微細な灰白色光沢粒を含む。	現存率 窓部1/4 窓部底部 窓底部		
244	"	小型土器 窓部～底部	"		5.4		全体的に黒化 傾方向のハケ目	全体的に黒化 傾方向のハケ目	"	橙	橙		2~4mmの大の褐色、灰色の粒を含む。 1mm以下の褐色の粒を含む。	現存率 窓部100%		
245	"	裏 窓	"	(26.8)			横・斜め方向のハ ケ目 ミガキ	横方向のナデ	"	灰黄	灰黄		1mm以下の灰白色の粒を含む。 微細な透明光沢粒を含む。	現存率 窓部1/14		

【土器観察表⑨】

番号	種別	標様部位	出土地点	法面(m)			手探・調査・文様ほか		造成	色調		地土の特徴	備考
				口径	底径	幕高	外面	内面		外面	内面		
246	衛生土壌	高坏 坪部	SA6 (16. 2)				横方向のナデ 斜め方向のハケ目	横方向のナデ 斜め方向のハケ目	良好	浅黄	にぶい黄緑	1mm以下の反白色粒を含む。 2mmの大赤褐色粒を含む。	現存率 口縁部 1/10
247	"	高坏 坪部	"				横方向のハガキ	横方向のハガキ	ア	相	相	1mm大の乳白色粒、黑色粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	現存率 根部 1/12
248	"	高坏 脚部	"				全体的に風化 縱方向の工具痕 指揮さえ	全体的に風化 工具痕	ア	にぶい相	にぶい相	1mm大の乳白色の粒を含む。	現存率 根部 1/2
249	"	高坏 脚部	" (16. 4) 脚部付				横方向のハガキ	横方向のハガキ	ア	にぶい相	にぶい相	1mm以下の反白色粒を含む。 1mm以下の墨褐色粒を含む。	現存率 脚部 1/11
253	便	BC2					ナデ 横方向のハケ目	横方向のハケ目	ア	浅黄緑	浅黄緑	1mm大の褐色粒を含む。 微細な乳白色粒を含む。	現存率 口縁部 1/12
254	"	BC2 (21. 5)					横方向のハガキ 朱摩	横方向のハケ目	ア	赤	浅黄緑	1mm大の褐色粒を含む。	現存率 口縁部 1/10
255	便	一組 (13. 8)					全体的に風化 工具痕 指揮さえ	全体的に風化	ア	にぶい黄緑	にぶい黄緑	1mm大にぶい黄緑色の粒を含む。 1mmの墨褐色、褐色、透明光沢の粒を含む。	現存率 口縁部 1/7
256	便or便 口縁部	"					横方向のナデ	横方向のハケ目	ア	浅黄緑	相	1~2mm大の褐色粒、灰白色を含む。 微細な乳白色、透明白光沢を含む。	現存率 口縁部 1/12
257	便or便 口縁部	Ⅱ層					全体的に風化 横方向のナデ	全体的に風化 ナデ	ア	浅黄緑	灰白	2mmの大にぶい黄緑色、不透明の光沢粒を含む。 微細な墨褐色粒、透明の光沢粒を含む。	
258	便or便 脚部~脚部	"					ハケ目 指揮さえ	ハケ目 指揮さえ	ア	黄緑	黄緑	1~2mmの大褐色、灰白色を含む。 1mm以下の乳白色粒を含む。	
259	小型便 脚部~脚部	"					ナデ	工具痕	ア	にぶい相	灰黄緑	1mmの大灰白色、褐灰色、赤褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	
260	便 脚部~脚部	"					斜め方向のハケ目	斜め方向のハケ目	ア	にぶい黄緑	にぶい黄緑	4~5mm大の灰白色、墨褐色、灰褐色の粒を含む。 2mmの大墨褐色、透明の光沢粒を含む。	
261	便 脚部~脚部	"					横・横・斜め方向の工 具によるナデ ハケ目	横方向のハケ目	ア	にぶい黄緑	灰黄緑	1mmの大墨褐色、灰白色、墨褐色の粒を含む。 1mmの大灰白色の光沢粒を含む。	
282	便or便 脚部	カクラン					風化 一部ハケ目	風化 一部ハケ目	ア	相	にぶい相	1~2mmの大墨色、褐色、乳白色、墨色の光沢 粒を含む。 微細な乳白色粒を含む。	
283	便 脚部	Ⅱ層					横・横・斜め方向のハ ケ目	全体的に風化 斜め方向のハケ目	ア	にぶい相	にぶい黄緑	7mmの大灰白色、にぶい褐色の粒を含む。 7mmの大灰白色、墨褐色の粒を含む。 7mmの大透明の光沢粒を含む。	
294	便or便 脚部	"				5. 0	粗い仕上げで凸凹 一部ハケ目	黒方向のハケ目	ア	にぶい黄緑	墨	4mmの大灰白色の粒を含む。 5mmの大風化した墨褐色の粒を含む。 1mmの大透明光沢粒を含む。	現存率 底部 100%
295	便 脚部~底部	"					全体的に風化 横方向のハケ目	全体的に風化 斜め方向のハケ目	ア	にぶい黄緑	にぶい黄緑	2mmの大灰白色、墨褐色、浅黄緑色の粒を含 む。 1mmの大にぶい黄緑色、褐色の粒を含む。	
296	便 脚部~底部	一組	(3. 6)				工具による不定方向 のナデ	横・斜め方向のナデ	ア	にぶい黄緑	暗灰	4~5mmの大灰白色、墨褐色、灰褐色の粒を含 む。 3~3mmの大にぶい褐色、透明の光沢粒を含 む。	現存率 底部 1/3
297	便 底部	Ⅱ層	2. 9				ナデ	ナデ	ア	にぶい黄緑	浅黄緑	5mmの大にぶい黄緑色、3mmの大墨灰色の粒を含 む。 1mmの大墨褐色、灰白色の粒を含む。	現存率 底部 100%
298	便 口縁部	"					横方向のナデ 斜め方向のハケ目 墨描波状文	ナデ 横方向のハケ目	ア	浅黄緑	浅黄緑	1~2mmの大褐色の粒を含む。 微細な乳白色粒を含む。	現存率 根部 1/5
299	便 口縁部	"					全体的に風化 墨描波状文	ナデ	ア	浅黄緑	浅黄緑	2~3mmの大褐色、灰白色の粒を含む。 1mmの大墨褐色、乳白色粒を含む。	
300	便 口縁部	"					横方向のハケ目 墨描波状文	横方向のナデ	ア	にぶい相	にぶい相	2mmの大灰白色の粒を含む。 1mmの大墨褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	
301	便 口縁部	"					墨 墨描波状文 ナデ	ナデ	ア	にぶい黄緑	にぶい黄緑	5mmの大灰白色、3mm以下の墨褐色の粒を含 む。 2mmの大褐色を含む。	現存率 1/3
302	便 底部~底部	カクラン	3. 5				横方向のハケ目 新旧交差	全体的に風化 横方向のハケ目	ア	にぶい黄緑	にぶい黄	2mmの大灰白色の粒を含む。 2mmの大墨褐色の粒を含む。 2mmの大褐色、乳白色粒を含む。	

【土器観察表(II)】

番号	種別	器形	出土層	法面(AN)			手法・調整・文様ほか			形成	色調			跡土の特徴	備考		
							外面				外面						
				口面	底面	側面											
273	房型 土器	小型土器 脚部～底部	II層		6.0		縦方向のハケ目 ハケ目	ナデ 一部工具痕	底	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	5mmの大粒の灰白色粒、2mmの炭化色粒を含む。 微細な透明、黒色の光沢粒を含む。		現存率 底盤 100%			
274	"	小型土器 底部	"		3.8		縦方向のハケ目 指押さえ	縦・横方向のハケ目	"	底盤	底盤	1~2mmの大粒の褐色、黑色の粒を含む。		現存率 底盤 100%			
275	"	甕or壺 底部	カクラ ン		3.4		縦方向のハケ目 工具痕 指押さえ	ハケ目 工具痕	"	灰褐色	黒	4mmの大粒の灰褐色の粒を含む。 3mmの大粒の白色、褐褐色の粒を含む。 1mmの大粒の褐褐色、微細な透明の光沢粒を含む。		現存率 底盤 100%			
276	"	甕or壺 底部	"		4.2		縦方向の工具痕 指押さえ	丁寧なナデ 一部工具痕	"	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mmの大粒の白色、褐褐色、基褐色の粒を含む。 3mmの大粒の白色、褐褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。		現存率 底盤 100%			
277	"	小型土器 底部	II層		2.0		ナデ 指押さえ	ナデ	"	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	4mmの大粒の灰褐色の粒を含む。 3mmの大粒の白色、褐褐色の粒を含む。 微細な灰白色、褐褐色の粒を含む。		現存率 底盤 100%			
278	"	小型土器 底部	カクラ ン		3.3		全体的に風化 底部は指押さえ	風化により調整不明	"	にぶい黄褐色	底	3mmの大粒の褐色を含む。 1mmの大粒の褐色、黑色、白色、灰褐色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。		現存率 底盤 100%			
279	"	小型甕 口縁部～底部	II層	4.7		7.5	ハケ目 指押さえ	ナデ 指押さえ	"	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mmの大粒の基褐色、淡黃褐色、褐色、灰白色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。	元形				
280	"	甕 底部	"	(29.0)			縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	"	底	底	2mmの大粒の褐色、褐色粒を含む。 1mm以下の乳白色、黑色、基褐色を含む。		現存率 平均 1/5			
281	"	甕 底部	"	(26.4)			縦・横・斜め方向のミ ガキ ナデ	縦・横・斜め方向のミ ガキ	"	底盤	にぶい穀	2~6mmの大粒の褐色、灰色の粒を含む。 1mmの大粒の白色、黑色、灰褐色の粒を含む。		現存率 口縁部 1/4			
282	"	甕 底部	"	(21.8)			全体的に風化 ナデ	全体的に風化 一部ミガキ	"	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	1mmの大粒の灰白色粒を含む。 微細な黑色、灰色、褐灰色の粒を含む。		現存率 口縁部 1/12			
283	"	甕 底部	一括	(18.8)			縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	"	底	にぶい穀	1mm以下の乳白色、灰色の粒を含む。		現存率 平均 1/20			
284	"	甕 底部	II層	(19.0)			ナデ 縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	"	底	底	5mmの大粒の赤褐色の粒を含む。 1mmの大粒の反褐色の粒を含む。		現存率 平均 1/24			
285	"	鉢 口縁部～脚部	"	(26.2)			全体的に風化 横方向の工具痕 はくサ目	全体的に風化 新め方向の工具痕	"	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mmの大粒の白色の粒を含む。 1mmの大粒の褐色、褐灰色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。		現存率 口縁部 1/10			
286	"	鉢 口縁部～脚部	"	(26.2)			全体的に風化が進み 横・斜め方向の工具痕	全体的に風化が進み 横・斜め方向の工具痕	"	にぶい黄褐色	にぶい黄褐色	2mmの大粒の灰白色の粒を含む。 1mmの大粒の白色の粒を含む。 微細な透明の光沢粒を含む。		現存率 口縁部 1/14			
287	"	甕 底部	"				縦方向のハケ目	丁寧なナデ 一部横方向のミガキ	"	底盤	にぶい穀	1mm以下の乳白色、灰色の粒を含む。					
288	"	甕 底部	カクラ ン				縦方向のハケ目	ナデ	"	灰褐色	にぶい穀	1~2mmの大粒の褐色粒を含む。 微細な乳白色、透明な光沢粒を含む。					
289	"	甕 脚部	一括	(26.0)			全体的に風化 一部ミガキ	全体的に風化 一部ミガキ	"	底	底	2mmの大粒のにぶい褐色、灰白色の粒を含む。 1mmの大粒の褐色、基褐色の粒を含む。 微細な褐色の粒を含む。		現存率 底盤 1/12			
290	"	甕 脚部	II層	(18.2)			縦方向のミガキ ナデ	縦方向のミガキ ナデ	"	底盤	底盤	1mm以下の乳白色粒を含む。		現存率 底盤 1/6			
291	"	甕 脚部	カクラ ン	(22.6)			縦方向のミガキ ナデ	ナデ 一部横方向のハケ目	"	底盤	にぶい穀	1mm以下の乳白色の粒を含む。		現存率 底盤 1/9			
292	"	甕 脚部	II層	(16.0)			縦方向のミガキ	横方向のハケ目	"	にぶい黄褐色	底盤	1mmの大粒の乳白色、橙色の粒を含む。		現存率 底盤 1/16			
293	"	甕 脚部	カ克拉 ン				全体的に風化 一部ミガキ	横方向のナデ 横・斜め方向のハケ目	"	底盤	底	1~2mmの大粒の黑色の粒を含む。		現存率 底盤 1/12			

【土器観察表⑪】

番号	器種	石材	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)
1	剥片尖頭器	ホルンフェルス	V層	9.7	3.1	1.3	36.3
2	縦長剥片	ホルンフェルス	V層	8.0	2.5	1.1	20.9
3	ナイフ形石器	ホルンフェルス	V層	2.9	1.7	0.6	1.8
4	細石刃核	ホルンフェルス	IV層	2.1	2.0	1.8	7.2
5	細石刃核	黒曜石	V層	1.0	1.1	1.1	1.0
6	細石刃	ホルンフェルス	V層	1.5	1.0	0.3	0.4
7	細石刃	ホルンフェルス	V層	1.3	0.7	0.1	0.1
57	敲石・磨石	砂岩	V層	12.3	6.4	3.1	342.5
58	敲石・磨石	砂岩	IV層	9.1	8.1	4.5	447.6
59	スクレイバー	ホルンフェルス	V層	6.6	9.0	1.8	120.5
60	スクレイバー	ホルンフェルス	V層	5.2	5.9	1.8	57.8
61	石核	ホルンフェルス	V層	7.5	6.7	2.1	129.1
62	石核	ホルンフェルス	V層	7.1	6.9	2.7	141.6
63	石核	ホルンフェルス	IV層	7.1	5.7	2.7	143.8
64	打製石礫	ホルンフェルス	V層	2.0	1.7	0.5	0.9
65	打製石礫	チャート	IV層	1.5	1.4	0.3	0.4
66	打製石礫	黒曜石	IV層	1.5	1.3	0.5	0.6
67	打製石礫	黒曜石	IV層	2.6	1.8	0.3	1.0
82	敲石	砂岩	1号竪穴住居跡	11.2	6.6	4.1	436.2
101	剥片	ホルンフェルス	2号竪穴住居跡	5.0	5.6	1.9	46.6
104	石庖丁	ホルンフェルス	3号竪穴住居跡	4.8	8.1	1.2	68.1
169	砥石	砂岩	4号竪穴住居跡	19.3	13.0	4.1	2510.0
170	剥片	ホルンフェルス	4号竪穴住居跡	9.3	4.4	1.0	36.0
171	剥片	ホルンフェルス	4号竪穴住居跡	5.6	4.0	2.3	47.0
172	剥片	ホルンフェルス	4号竪穴住居跡	4.3	2.7	0.9	6.0
173	剥片	ホルンフェルス	4号竪穴住居跡	9.4	5.8	1.9	65.7
174	円礫	尾鈴山酸性岩類	4号竪穴住居跡	11.9	10.0	4.9	955.2
175	円礫	尾鈴山酸性岩類	4号竪穴住居跡	11.0	9.3	5.0	797.6
226	砥石	砂岩	5号竪穴住居跡	19.8	10.8	5.3	1133.1
250	敲石・磨石	尾鈴山酸性岩類	6号竪穴住居跡	9.9	9.1	4.1	530.9
251	砥石	砂岩	6号竪穴住居跡	17.2	11.7	4.6	1590.0
252	磨石・敲石	尾鈴山酸性岩類	6号竪穴住居跡	11.7	10.6	5.2	1000.2
294	砥石	ホルンフェルス	II層	19.7	11.1	7.8	1740.0

【石器計測表】

# 第IV章 自然科学分析

株式会社 古環境研究所

## 第1節 放射性炭素年代測定

### 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、光合成や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。樹木や種実などの植物遺体、骨、貝殻、土壤、土器付着炭化物などが測定対象となり、約5万年前までの年代測定が可能である。

### 2. 試料と方法

試料 No.	地点・層準	種類	前処理	測定法
No. 1	SA 6 (弥生時代住居跡)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 2	SP 1 (繩文時代早期の炉穴)	炭化材	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS
No. 3	SA 4 (弥生時代住居跡)	土器付着炭化物	超音波洗浄、酸-アルカリ-酸処理	AMS

AMS : 加速器質量分析法 (Accelerator Mass Spectrometry)

### 3. 測定結果

試料 No.	測定No. (PLD-)	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	$^{14}\text{C}$ 年代 (年BP)	曆年代 (較正年代)	
				1 $\sigma$ (68.2%確率)	2 $\sigma$ (95.4%確率)
No. 1	13992	-26.62 $\pm$ 0.15	1905 $\pm$ 20	AD 70-125	AD 30-40, 50-140
No. 2	13993	-27.21 $\pm$ 0.16	9055 $\pm$ 35	BC 8290-8255	BC 8300-8235
No. 3	13994	-25.99 $\pm$ 0.20	1935 $\pm$ 20	AD 25-40, 50-85, 105-120	AD 20-130

#### (1) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比を補正するための炭素安定同位体比 ( $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ )。この値は標準物質 (PDB) の同位体比からの千分偏差 (‰) で表す。試料の  $\delta^{13}\text{C}$  値を -25 (‰) に標準化することで同位体分別効果を補正する。

#### (2) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の  $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$  比から、現在 (AD 1950 年基点) から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$  の半減期は 5730 年であるが、国際的慣例により Libby の 5568 年を用いている。BP は Before Physics (Present) を示す。

### (3) 历年代 (Calendar Age)

過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中<sup>14</sup>C濃度の変動および<sup>14</sup>Cの半減期の違いを較正することで、より実際の年代値に近づけることができる。歴年代較正には、年代既知の樹木年輪の詳細な<sup>14</sup>C測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と<sup>14</sup>C年代の比較により作成された較正曲線を使用した。較正曲線データはIntCal 04、較正プログラムはOxCal 3.1である。

歴年代（較正年代）は、<sup>14</sup>C年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した歴年代の幅で表し、OxCalの確率法により $1\sigma$ （68.2%確率）と $2\sigma$ （95.4%確率）で示した。較正曲線が不安定な年代では、複数の $1\sigma$ ・ $2\sigma$ 値が表記される場合もある。()内の%表示は、その範囲内に歴年代が入る確率を示す。グラフ中の縦軸上の曲線は<sup>14</sup>C年代の確率分布、二重曲線は歴年較正曲線を示す。

## 4. 所見

加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定の結果、No.1の炭化材では $1905 \pm 20$ 年BP ( $2\sigma$ の年代でAD 30~40, 50~140年)、No.2の炭化材では $9055 \pm 35$ 年BP (BC 8300~8235年)、No.3の土器付着炭化物では $1935 \pm 20$ 年BP (AD 20~130年)の年代値が得られた。

## 文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy, The OxCal Program, Radiocarbon, 37(2), p.425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, Radiocarbon, 43 (2A), 355-363.
- Paula J Reimer et al., (2004) IntCal 04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26.0 ka BP. Radiocarbon 46, p.1029-1058.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の<sup>14</sup>C年代, p.3-20.

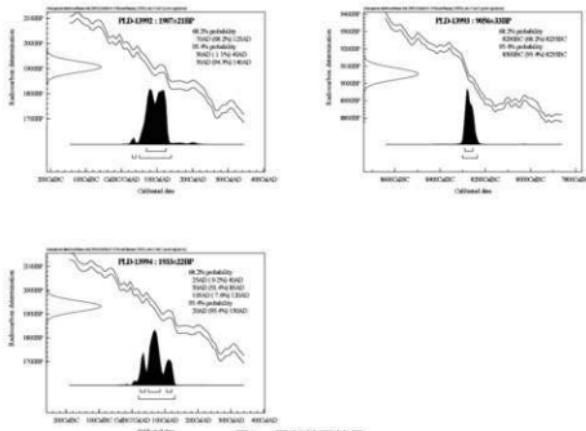


図1 歴年較正結果

## 第2節 萤光X線分析

### 1. はじめに

物質にX線を照射すると、その物質を構成している元素に固有のエネルギー（萤光X線）が放出され、この萤光X線を分光して波長と強度を測定することで、物質に含まれる元素の種類と量を調べることができる。

古代の赤色顔料としては、一般的に水銀朱（硫化水銀：HgS）、ベンガラ（酸化第二鉄： $Fe_2O_3$ ）、鉛丹（酸化鉛： $Pb_3O_4$ ）が知られている（市毛、1998、本田、1995）。萤光X線分析では、水銀（Hg）・イオウ（S）、鉄（Fe）、鉛（Pb）の元素の検出状況から赤色顔料の種類を推定することが可能である。

### 2. 試料と方法

分析試料は、B3グリッドから出土した縄文時代早期の土器に付着した赤色顔料である。

### 3. 分析方法

エネルギー分散型萤光X線分析装置（堀場製作所製分析顕微鏡、XGT-5000Type II）を用いて、元素の同定およびファンダメンタルパラメータ法（FP法）による定量分析を行った。測定の条件は、測定時間500秒、ビーム径 $100\mu m$ 、電圧50kV、試料室内真空である。また、光学顕微鏡下で赤色顔料の粒子形状を観察した。

### 4. 分析結果

図1に各元素の定量分析結果（wt%）およびX線スペクトル図を示す。また、写真図版に赤色顔料の顕微鏡写真を示す。

### 5. 考察

土器に付着した赤色顔料について萤光X線分析を行った。その結果、鉄（Fe）の明瞭なピークが認められ、水銀（Hg）や鉛（Pb）は検出されなかった。鉄（Fe）の含量は35.6%と高い値である。なお、光学顕微鏡による観察では、パイプ状粒子（大久保、2000）は認められなかった。

以上の結果から、縄文時代早期の土器に付着した赤色顔料はベンガラと考えられる。なお、地下水中などの鉄分が沈着した褐鉄鉱も同様の成分で構成されていることから、ベンガラをより確実に同定するにはX線回折分析による結晶構造の解析が必要である。

## 文献

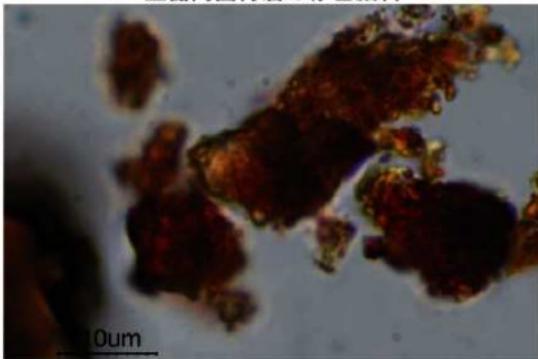
市毛 熊（1998）新版朱の考古学、考古学選書、雄山閣出版

大久保浩二（2000）鹿児島県出土の赤色顔料－日本最古の赤彩土器をはじめとして、人類史研究12、p.163-169.

本田光子（1995）古墳時代の赤色顔料、考古学と自然科学、31・32、p.63-79.



土器内面付着の赤色顔料



赤色顔料の顕微鏡写真

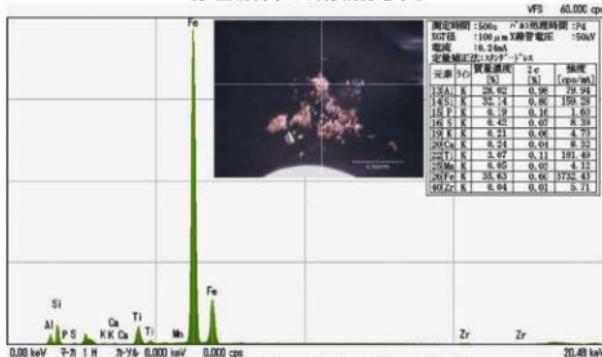


図1 赤色顔料の蛍光X線分析結果

## 第V章 まとめ

### 旧石器時代

本遺跡の旧石器時代は始良丹沢火山灰層上層より生活の跡が認められた。遺構は確認できなかつたが、遺物については、これまでの資料蓄積によって該当時期とされる石器が、少量ながら本遺跡においても確認することができ、資料の集積に貢献できたと考える。ナイフ形石器は1点のみの出土ではあったが、宮崎編年の第7段階に相当すると考えられる。剥片尖頭器も当該時期におおむね該当する。また、細石器として細石刃2点と細石刃核2点をそれぞれ確認できた。黒曜石を石材とした細石刃核は、細石刃の剥ぎ取り方までも詳細に示すことはもとより、親指ほどのきわめて小さな細石刃核を細部まで丁寧に剥ぎ取った様子がうかがわれるもので、人々の石材に対する丁寧な取り扱い方までも想起させるものである。

### 縄文時代

遺構・遺物ともに縄文時代早期のものが大半を占めた。遺構は集石遺構と炉穴を確認した。集石遺構は調査区北側で数mも離れていないところに位置し、径1mほどの規模で埋込みは約10cm～15cmで浅いものであった。調査区外の地形の状況や南側で確認できなかつたことなどを考慮すると、分布域は西側の調査区外に広がる可能性があるが、数量的には多くはないようである。炉穴は、1基のみの検出にとどまった。地形の傾斜を利用して炉穴をつくるという場合が多いなかで、本遺跡の場合、北から南へ傾斜する現地形とは異なり、当該時期はほぼ水平レベルの地形であったのだろうか。北東の炉口から南西へかけて煙道がのびる形状となっていたようである。なお、この炉穴から検出した炭化材を、AMS法によって放射性炭素年代測定を行ったところ、<sup>14</sup>C年代で9055±35年BP、曆年代（2σ 95.4%確率）でBC8300-8235の測定値を得られた。

遺物は草創期の土器として9点掲載した。このうち5点は隆帶文土器であり、草創期終わりから早期はじめの所産と考えられる。早期の土器では、貝殻条痕文土器が大半を占め、無文土器、押型文土器の順に出土量が減少する。貝殻条痕文土器は、口縁部の形状、口唇部の調整などから4類に分けたが、大きく分けると、直行するものと外反するものとに分けられ、どちらも数量的には同程度の割合で出土している。また、外面に横位もしくは斜位の条痕を施すものがほとんどであり、いわゆる別府原式タイプと考えられる。なお、器壁1cmを境に厚手と薄手に分けると、厚手のものの出土割合が高くなっている。また、赤色顔料を口縁内部に施したもののが2点出土しているが、これは前平式土器と考えられる。

無文土器は、器壁の薄い1cm未満のものが多く、厚手のものは少量である。貝殻条痕文土器などとの前後関係は不明である。押型文土器は2点で、橢円形と山形文がそれぞれ1点ずつである。小破片であることから全体像はわからない。

### 弥生時代

遺構は堅穴住居跡6軒、土坑3基である。このうち3号土坑は前述のとおり、1号堅穴住居跡内の土坑と考えられる。いずれの堅穴住居跡も一部もしくは大半が調査区外にあるため、全容が不明という点は残念であるが、堅穴住居跡はいずれもおおむね弥生時代終末期に営まれたものと考えられる。

本遺跡では、集落として、居住域の確認ができた点は成果としてあげられるが、調査面積が狭小と

いうこともあり、生産域や墓域については遺構として直接確認できるものはなかった。しかし、住居埋土中から石庖丁が出土し、また土器胎土中にイネと推察できる圧痕なども見つかっており、間接的ながら、生業については確認することができ、生産域についても推察することができよう。

本遺跡の調査の成果から、遺構は本遺跡のみにとどまらず調査区の北側及び東西に住居跡等が続くものと推察できる。また本遺跡の東側には弥生時代後期～終末期の赤坂遺跡が存在することなどから、本遺跡は赤坂遺跡と併行して存在していた集落と考えられる。なお、赤坂遺跡は周溝墓を1基確認しており、このことから、赤坂遺跡の有力者が赤坂遺跡のみならず、本遺跡も治めていたと推察することができる。すなわち、同一集落の可能性を考えることもできる。さらに、同一時期の遺跡として、国光原遺跡、湯牟田遺跡など本遺跡周辺に所在していることから、国光原台地上の西端に、弥生時代後期～終末期にかけての大集落が成立していたことが想定できる。

S A 4 および S A 6 から出土した炭化材の放射性炭素年代測定によると、S A 4 の炭化材は、<sup>14</sup>C 年代は  $1935 \pm 20$  年 B P、曆年代は AD 20 - 130、S A 6 の炭化材は、<sup>14</sup>C 年代は  $1905 \pm 20$  B P、曆年代は AD 30 - 40、50 - 140、の数値が得られた。時期は、弥生時代である。

遺物は、甕、壺、高坏のほか、鉢、杓子状製品などの土器、砥石、敲石、石庖丁などの石器がみられる。土器では、212点を弥生土器として掲載した。そのうち甕の割合が最も高く約39%を占め、次いで高坏が約32.5%、壺が約18.9%、鉢が約6.6%などとなった。高坏の掲載数が多くなったが、全出土量から考慮しても高い割合を示していた。石器は10点を掲載した。尾鈴山酸性岩類は敲石、砂岩は砥石や磨石、ホルンフェルスは砥石や石庖丁として使用されたようである。

今回の調査では、前ノ田村遺跡は狭小な面積にもかかわらず、旧石器時代から弥生時代までの長期にわたって人々が生活を営んでいたことを確認することができた。また、広大な台地へと続く東側の地域には、数多くの同時期の遺跡が連続と統一していることから、それらの遺跡と同時に活動していた前ノ田村遺跡の人々の生活の一端を垣間見ることができた。とりわけ弥生時代の後期から終末期における集落の痕跡については、同時期の遺跡が周辺において数多く確認されており、一大集落跡が形成されていたと想定できることから、今後の調査において集落の構成という点から大きな指針を示すことにもなるだろう。さらに、古墳時代の代表的な遺跡である川南古墳群の造営との関わりという点においても今回の調査は大きな意味をもつと考えられる。

## 【参考文献】

- (1) 宮崎県 1998『宮崎県史』通史編Ⅰ 原始・古代1
- (2) 宮崎県埋蔵文化財センター 2001『松元遺跡・井手口遺跡・塚原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第40集
- (3) 宮崎県埋蔵文化財センター 2002『別府原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第61集
- (4) 宮崎県埋蔵文化財センター 2004『下那珂遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第90集
- (5) 宮崎県埋蔵文化財センター 2007『中ノ迫第1遺跡(一次・二次)』宮崎県埋蔵文化財センター 発掘調査報告書 第143集
- (6) 宮崎県埋蔵文化財センター 2007『中ノ迫第3遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第144集
- (7) 宮崎県埋蔵文化財センター 2007『国光原遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第149集
- (8) 宮崎県埋蔵文化財センター 2007『赤坂遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第151集
- (9) 宮崎県埋蔵文化財センター 2007『湯牛田遺跡(二次調査)』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査 報告書 第152集
- (10) 宮崎県埋蔵文化財センター 2008『中ノ迫第2遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書 第167集
- (11) 宮崎県教育委員会 1983『東平下1号円形周溝墓』宮崎県文化財調査報告書 第29集
- (12) 埋蔵文化財研究会『弥生時代後期の社会変化』第58回埋蔵文化財研究会資料集 2009年
- (13) 宮崎県旧石器文化講話会 2005『宮崎県下の旧石器時代遺跡概観』旧石器考古学
- (14) 川南町『川南町史』
- (15) 川南町教育委員会『川南町の埋蔵文化財』
- (16) 高鍋町教育委員会 1991『大戸ノ口第二遺跡』高鍋町文化財調査報告書 第5集
- (17) 新富町教育委員会 1986『新田原遺跡』新富町文化財調査報告書 第4集
- (18) 岩永 哲夫『南九州の押型文土器』宮崎考古第20号 2008年
- (19) 石川 悅雄『宮崎平野における弥生土器編年試案』宮崎県総合博物館研究紀要 第8号 1983年
- (20) 石川 悅雄『宮崎平野における弥生土器編年試案－素描－(Mk. II)』宮崎考古 第9号 1984年
- (21) 斎藤 光博『中溝式系土器の検討』九州古文化研究会 古文化叢叢 第45集 2000年
- (22) 本田 道郷『鹿児島県下の弥生後期土器』鹿児島考古 第27号
- (23) 秋成 雅博『宮崎10段階編年の概要』九州旧石器 第9号 九州旧石器文化研究会 2005年

図 版

---

---

【1号炉穴】(南西より)

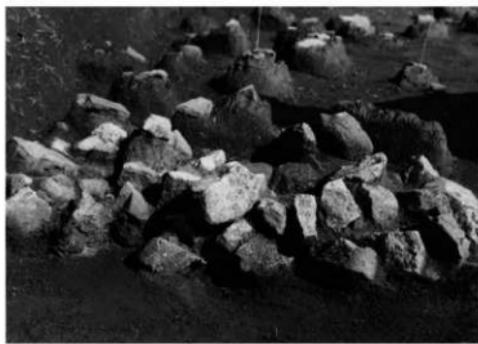
図版  
4



【1号集石遺構】(東より)



【2号集石遺構半裁】(南より)





【1号竪穴住居跡】(南より)



【2号竪穴住居跡】(南より)



【3号竪穴住居跡】(北東より)



【4号竪穴住居跡】(北より)



【5号竪穴住居跡】(北より)



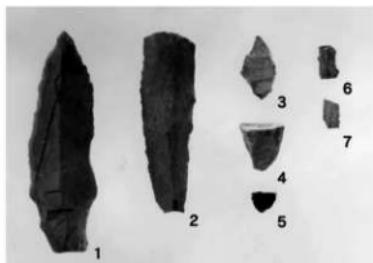
【6号竪穴住居跡】(東より)



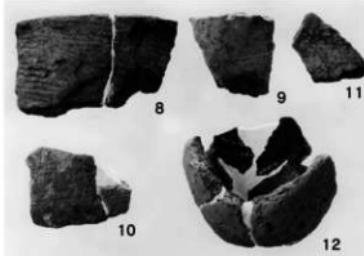
【1号土坑】(南より)



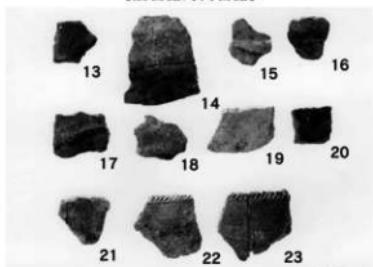
【2号土坑】(南東より)



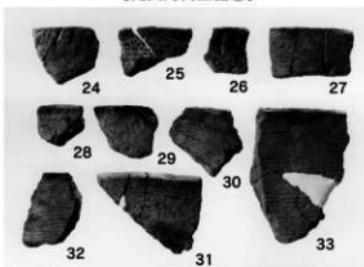
【旧石器時代石器】



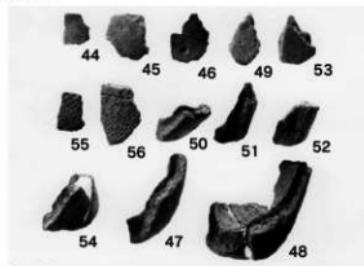
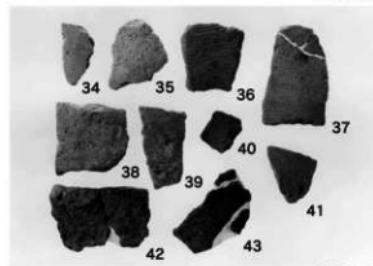
【縄文時代土器①】



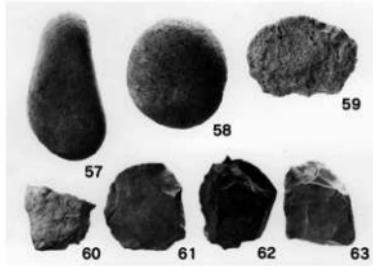
【縄文時代土器②】



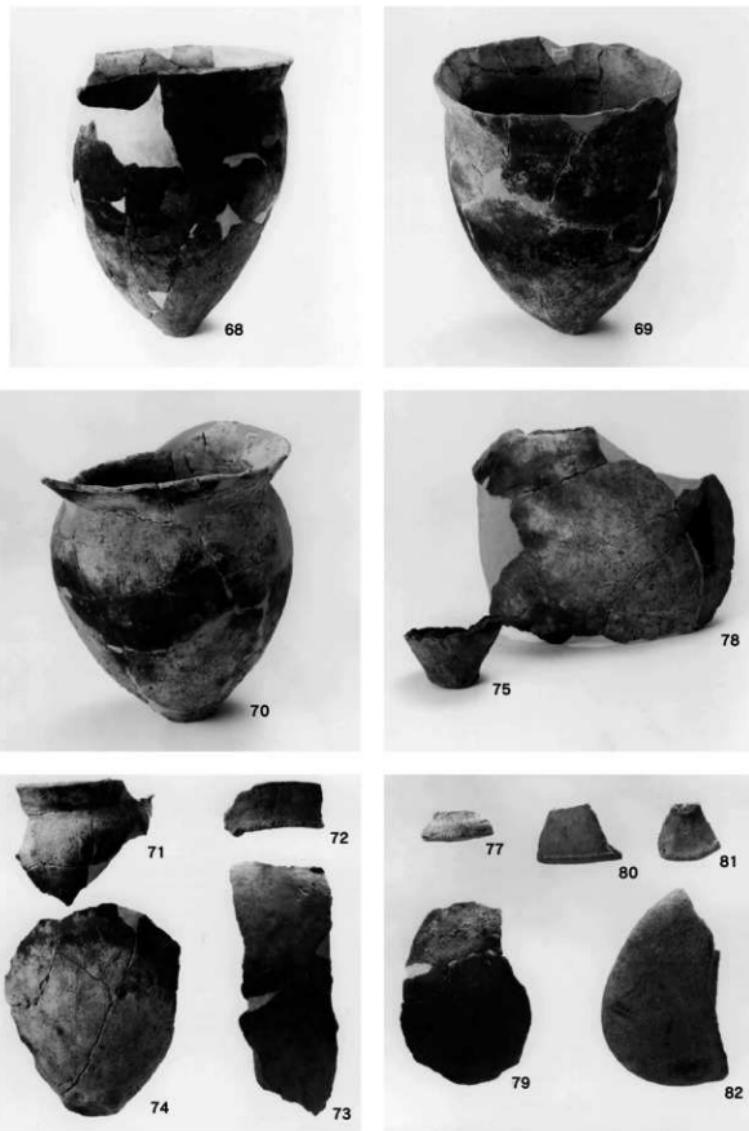
【縄文時代土器③】



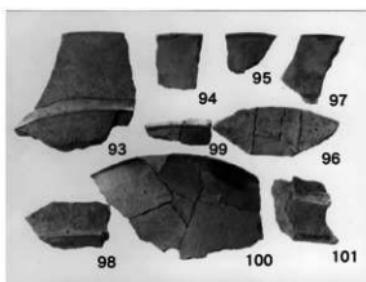
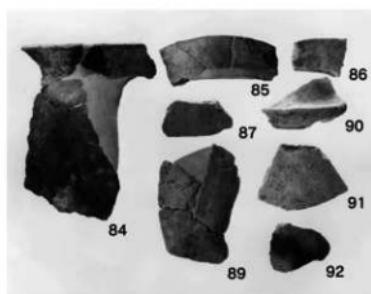
【縄文時代土器④】



【縄文時代土器】



【SA1出土遺物①】



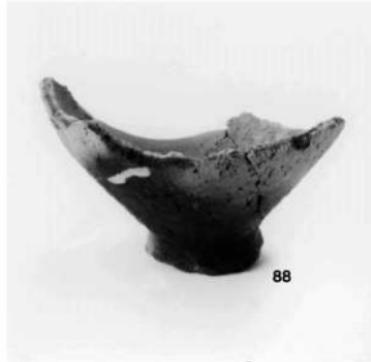
[SA 2出土遺物①]



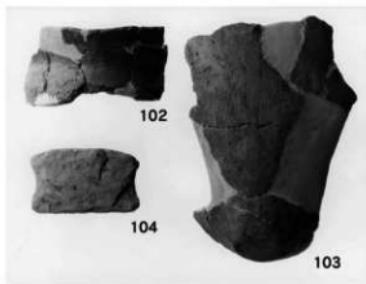
[SA 1出土遺物②]



[SA 2出土遺物②]



[SA 2出土遺物③]



[SA 3出土遺物]



105



106



107



108



109



110

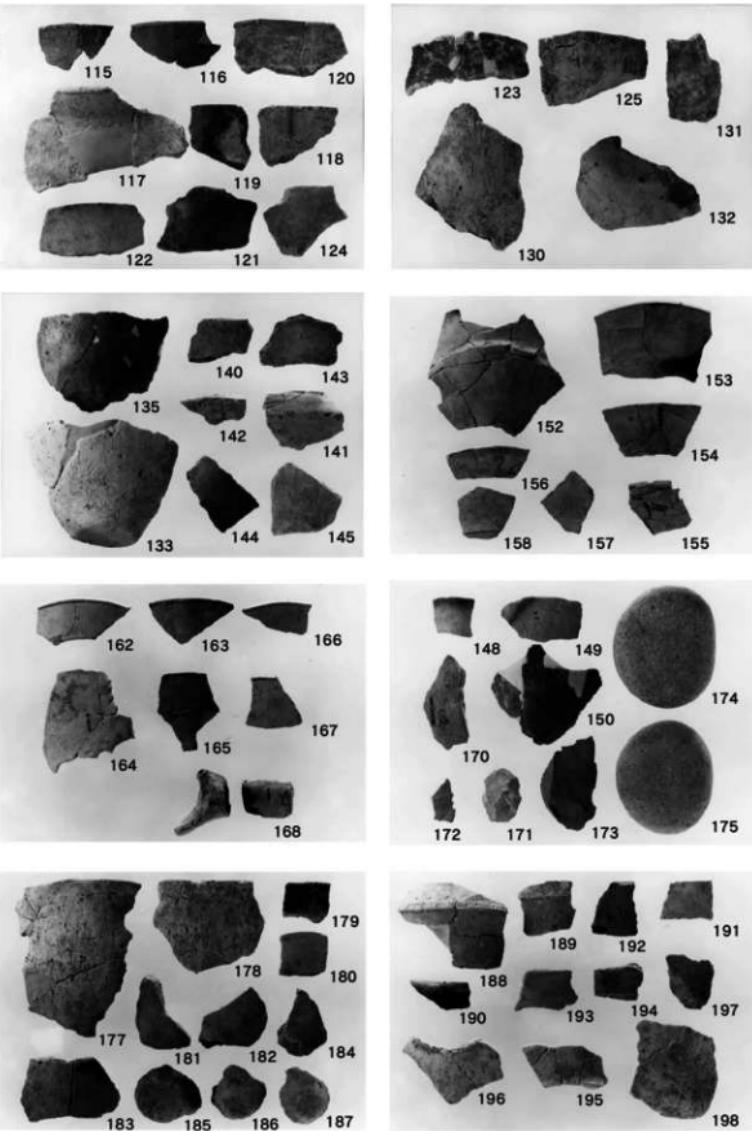
111

【S A 4 出土遺物①】



【S A 4出土遺物②】

図版 13



[SA 4出土遺物③]



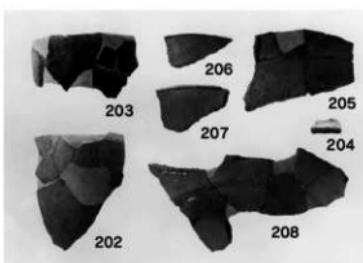
【S A 4出土遺物④】



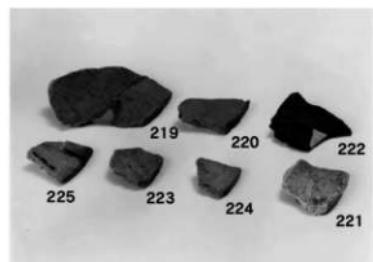
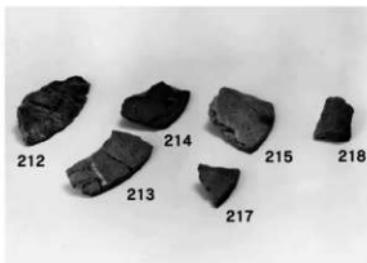
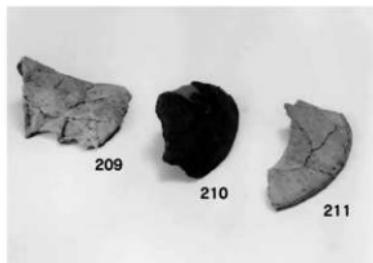
【S A 4出土遺物⑤】



【S A 5出土遺物①】



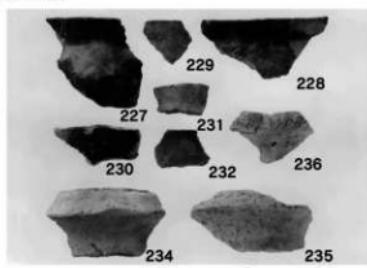
【S A 5出土遺物②】



[S A 5出土遺物③]



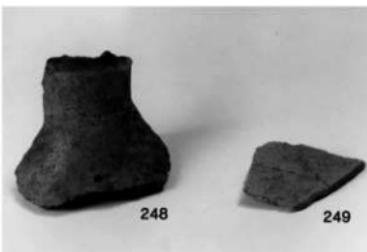
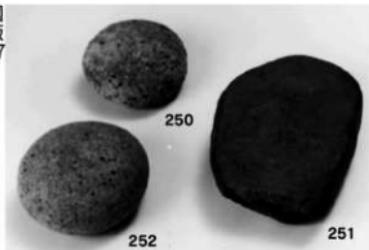
[S A 5出土遺物④]



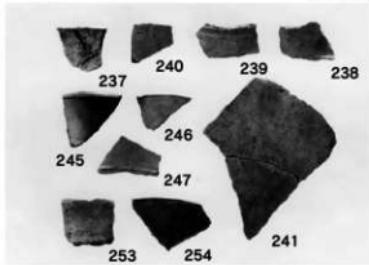
[S A 6出土遺物①]



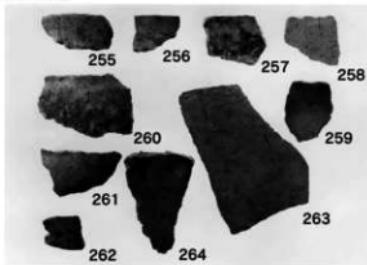
[S A 6出土遺物②]



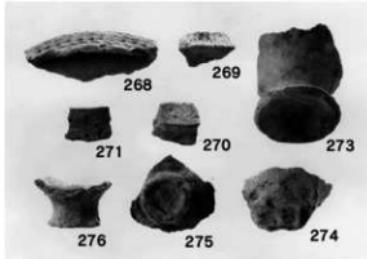
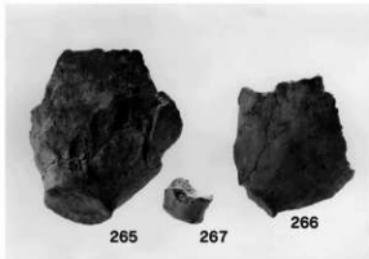
【SA 6出土遺物③】



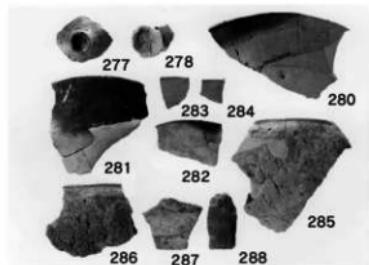
【SA 6、SC 2出土遺物】

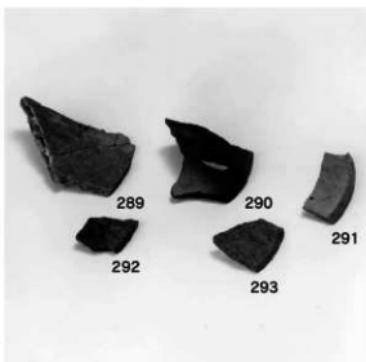


【第II層出土遺物①】



【第II層出土遺物②】





【第II層出土遺物③】



## 報 告 書 抄 錄

---

宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第190集

**前ノ田村遺跡**

国営尾鈴農業水利事業西光原調圧水槽工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

2010年 2月26日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

〒880-0212 宮崎県宮崎市佐土原町下那珂4019番地

TEL 0985(36)1171 FAX 0985(72)0660

印刷 藤屋印刷株式会社

〒883-0045 宮崎県日向市本町7-15

TEL 0982(52)7171 FAX 0982(56)1208

---